



文部科学省科学技術人材育成費補助事業  
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）  
清流の国 輝くギフジョ 支援プロジェクト

# 2019年度 事業報告書



国立大学法人  
岐阜大学



岐阜薬科大学



岐阜女子大学



A.P.I.株式会社



## 目次

### 目次

序文 林 正子 岐阜大学 副学長（多様性人材活力推進担当）／男女共同参画推進室長

<b>1. 実施体制と数値目標</b> . . . . .	<b>1</b>
1-1. 機関長会議 . . . . .	1
1-2. 連携協議会 . . . . .	4
1-3. 数値目標 . . . . .	6
<b>2. 女性研究者の研究力向上のための取り組み</b> . . . . .	<b>12</b>
2-1. 連携型共同研究助成 . . . . .	13
2-2. 英語コミュニケーション力向上セミナー . . . . .	52
英文校閲費用助成	
2-3. 研究倫理研修（1・2） . . . . .	58
2-4. 夏季休暇中の学童保育トライアル「カモミールこども大学」 . . . . .	67
2-5. メンター制度 . . . . .	72
<b>3. 女性研究者の上位職への積極登用に向けた取り組み</b> . . . . .	<b>74</b>
3-1. トップマネジメントセミナー . . . . .	75
3-2. リーダーシップ研修 . . . . .	77
3-3. 研究補助員配置制度 . . . . .	82
3-4. 企業インターンシップ . . . . .	83
<b>4. 意識啓発のための取り組み</b> . . . . .	<b>85</b>
4-1. シンポジウム . . . . .	86
4-2. 意識啓発セミナー . . . . .	95
4-3. キャリアパス支援講演会 . . . . .	99
ロールモデル講演会 . . . . .	104
4-4. ニュースレターの発行 . . . . .	110
<b>5. その他の特筆すべき取り組み</b> . . . . .	<b>136</b>
5-1. 【岐阜大学】サイエンス夢追い人育成プロジェクト（理系女子大学院生による出前講義）	
5-2. 【岐阜大学】研究室見学会	
5-3. 【岐阜大学】学生のためのキャリアセミナーin 岐阜大学	

- 5-4. 【岐阜大学】リケジョのためのキャリアセミナー～女性技術者の先輩に聞く～
- 5-5. 【岐阜薬科大学】特別講演会
- 5-6. 【アビ株式会社】その他の成果

## 序 文



「清流の国 輝くギフジョ 支援プロジェクト」5年目の成果と最終年度の課題

事業実施責任者

岐阜大学 副学長（多様性人材活力推進担当）

男女共同参画推進室長

林 正子

岐阜大学が岐阜薬科大学、岐阜女子大学、アピ株式会社とともに取り組んできました、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」（2015年度～2020年度）「地域循環型女性研究者育成・支援プロジェクト」が、いよいよ事業実施期間（6年間）の最終年度を迎えます。

当初より、「清流の国 輝くギフジョ 支援プロジェクト」と命名し実施してきました、女性研究者の研究力向上・上位職登用・意識啓発、そのほか特筆すべき取り組みについて、2019年度も4機関が緊密に連携し、補助金のない事業5年目も、自主経費により継続して精力的な活動を展開してきました。

2019年度の取り組みのうち、連携体制・ダイバーシティ研究環境整備としては、連携型共同研究助成、研究補助員配置、英文校閲費助成、夏季休暇中の学童保育「カモミールこども大学」、企業インターンシップ、研究倫理研修、若手女性研究者のための外部資金獲得支援などが挙げられます。また、女性研究者の採用・上位職登用・裾野拡大などの活動として、シンポジウム・ロールモデル講演会・トップマネジメントセミナー・リーダーシップ研修をそれぞれ開催しました。

実施体制としては、4機関の連携事業実施メンバーによる連携協議会を6回、3大学の学長とアピ株式会社取締役社長による機関長会議も2回開催し、連携事業の支援制度や活動状況などを紹介する岐阜大学男女共同参画推進室ニューズレター「かもみーる通信」も従来通り、毎月発行してきました。

本編にその詳細を記述していますように、上記の取り組みによって、女性研究者育成・支援の重要性についての4機関構成員の意識も格段に深化し、女性研究者の研究力向上においても多大の成果を上げています。しかしながら現時点では、岐阜女子大学の上位職比率、アピ株式会社の採用比率・在職比率および4機関合計の上位職比率を除く数値について、目標値を下回っている状況となっています。引き続き、女性研究者の採用・昇任に向けた実効性のあるポジティブ・アクションの実施が求められている次第です。

事業期間最終の2020年度、従来の連携力をさらに強化し、実効性のある対策によって所期の目標を達成することができますよう、連携事業の総仕上げの取り組みを、鋭意、進めてまいります。4機関の構成員の方々はじめ、ご関係の皆さまのご支援、ご協力、どうぞよろしくお願い申し上げます。



## 1. 実施体制と数値目標

### 1-1. 機関長会議

各機関長が参加して事業実施計画の確認、進捗状況の共有、計画の修正等の重要事項について協議する機関長会議について、2019（平成31）年3月26日（火）に第8回、2020年（令和2）年2月20日（木）に第9回をそれぞれ開催した。

議事は以下のとおりである。

---

第8回 2019（平成31）年3月26日（火） 13時30分～14時15分

#### （1）平成30年度事業実施状況について

林副学長（連携協議会議長）から、資料1-1に基づき、今年度の事業実施報告があった。また、資料1-2の女性研究者の数値目標達成状況について、在職比率が未達成と説明があり、目標達成に向けて協力依頼があった。次いで、例年作成している事業報告書について、各機関へ校正依頼があった。なお、今年度から経費削減の観点から製本は行わずデータ及び必要数のみプリントアウトした冊子を関係機関に配付する旨説明があった。

続いて、事業報告書に掲載している連携型共同研究助成報告書のなかに特許等、一般公表不可の内容が含まれていることについて、荒木委員から、将来、セミナーを担当する講師から事業報告書を見せて欲しい旨依頼があった場合の対応に関する質問があり、意見交換の結果、一般公開可能なかたちで再構成することとした。

次に、林副学長から、年度末に実施する成果報告会では一般公表不可の共同研究課題については報道取材不可としているが、新聞社より「取材可否の報告が混在しているため取材しづらい」との意見が寄せられたことから、来年度以降は取材の可否に応じて時間帯を区切る等の対応を検討することとした旨の報告があった。

#### （2）JST訪問調査結果について

林副学長から、資料2に基づき、2018年12月10日（月）午後を実施したJSTによる訪問調査結果について報告があり、女性在職比率をはじめとする数値目標の達成を目指す方針について再確認した。

#### （3）平成31年度事業計画について

林副学長から、資料3に基づき、平成31年度事業計画書について報告があった。自主経費の予算の範囲内で事業を継続し、4機関で分担して担当する事業についても事業計画表のとおり実施することとした。

#### (4) その他

・林副学長から、資料4に基づき、前回会議以降に発行したかもみーる通信(101~105号)について紹介があった。

・林副学長から、資料5に基づき、岐阜大学の事業所内認可保育園「ほほえみ」の新園舎が竣工し、受入れ定員が増加する旨報告があった。

・林副学長から、本年度の科学技術人材育成費補助金に採択された事業「ダーバーシティ研究環境実現イニシアティブ(全国ネットワーク中核機関(群))」に関して、全国各機関の好事例を共有することを目的とした事業であることの説明があった。なお、名古屋大学から東海・北陸ブロックへの参加依頼があり本学も参加している旨報告があった。

---

第9回 2020(令和2)年2月20日(木) 16時30分~17時15分

#### (1) 令和元年度事業実施状況について

林副学長(連携協議会議長)から、資料1に基づき、今年度の事業実施報告があり、各機関が連携事業を継続的に取り組んでいる旨説明があった。

#### (2) 女性研究者に関する数値目標達成状況について

林副学長から、資料2に基づき、女性研究者の数値目標達成状況について、4機関合わせての採用比率、在職比率、上位職比率いずれも未達成と説明があり、来年度は本事業の最終年度であるため、少なくともいずれか2項目の目標達成を果たすよう協力依頼があった。次いで、各機関の状況について、4機関から以下のとおり発言があった。①岐阜大学(森脇学長):事業開始前の比率よりは上昇しているものもあるが、いずれも厳しい状況である。②岐阜薬科大学(原副学長):いずれも目標達成が厳しい状況である。③岐阜女子大学(松川学長):採用及び昇任の際に意識をしていきたい。④アピ株式会社(野々垣社長):以前に比べて女性求職者および女性の採用比率が上昇しているが、上位職比率についてはポストの数が限られていることから短期間で目標達成は困難である。

#### (3) 令和2年度事業計画について

林副学長から、資料3に基づき、令和2年度事業計画書について報告があった。自主経費の予算の範囲内で事業を継続し、4機関で分担して担当する事業については事業計画表のとおり実施することとした。なお、事業最終年度のため、各行事について可能な限り早い時期に実施するように依頼があった。

次いで、来年度に実施するシンポジウムの構想について、6年間の集大成となる総括的な内容にしたい旨の発言があり、その一例として本事業6年間の成果と課題を各機関担当者が報告し、適任者に講評を依頼する等が想定される旨の発言があった。

#### (4) その他

・林副学長から、資料4に基づき、「2019年度連携型共同研究成果報告会・研究者交流会」について2月27日(木)に開催する旨の報告があり、協力依頼があった。なお、今年度は2部構成とし、第1部は報道不可の研究課題とする旨の説明があった。

・林副学長から、資料5に基づき、前回(第8回)会議以降に発行した岐阜大学男女共同参画推進室の「かもみーる通信」(106～115号)について紹介があった。なお、今後は連携機関にも広く配信する旨説明があった。

・荒木委員から、本事業について、大学を基準に各種の数値目標やイベント内容等が設定されているため、上位職等の数値目標など企業として足並みを揃えることの難しさについて意見があった。また、来年度の総括シンポジウムのなかで企業が本事業に参加するうえでの課題についても取り上げて欲しい旨の意見があった。

## 1-2. 連携協議会

4 機関から委員が集まり、2019年度は計6回の連携協議会を開催した。

議事（審議事項および報告事項）は以下のとおりである。

---

### 第44回 2019（平成31）年4月25日（木）

- 1 2019年度事業計画について
  - 2 2019年度連携型共同研究助成について（各機関から報告）
  - 3 2018年度事業報告書について
  - 4 夏季休暇中の学童事業（カモミールこども大学）について
  - 5 2018年度連携型共同研究助成成果報告会（2/26）報告
  - 6 機関長会議（3/26）報告
  - 7 全国ダイバーシティネットワーク 東海・北陸ブロック会議（2/4）報告
  - 8 全国ダイバーシティネットワーク 大阪大学シンポジウム（2/7）報告
- 

### 第45回 2019（令和元）年5月30日（木）

- 1 2019年度連携型共同研究助成について
  - 2 連携型共同研究助成募集要項について
  - 3 夏季休暇中の学童事業（カモミールこども大学）について
  - 4 2018年度事業報告書（電子版）公開について
- 

### 第46回 2019（令和元）年7月25日（木）

- 1 2019年度行事予定について
  - 2 成果報告【アピ株式会社】
  - 3 夏季休暇中の学童事業（カモミールこども大学）について
  - 4 共催・特別講演会（7/9）報告【岐阜薬科大学】
  - 5 第1回全国ダイバーシティネットワーク 東海・北陸ブロック会議について
-

第 47 回 2019 (令和元) 年 10 月 24 日 (木)

- 1 人財バンクの利用団体追加について
  - 2 2019 年度行事予定について
  - 3 夏季休暇中の学童事業 (カモミールこども大学) 実施報告
  - 4 シンポジウム (9/27) 実施報告【岐阜大学】
  - 5 研究倫理研修実施報告【岐阜女子大学】
  - 6 インターンシップ実施報告【アピ株式会社】
  - 7 全国ダイバーシティネットワーク 東海・北陸ブロック会議 (12/10) について
  - 8 学生のためのキャリアセミナーについて
  - 9 事業計画表について
- 

第 48 回 2020 (令和 2) 年 1 月 30 日 (木)

- 1 事業計画表 (2020 年度) について
  - 2 機関長会議 (2/20) 議題案について
  - 3 2019 年度連携型共同研究成果報告会・研究者交流会 (2/27) について
  - 4 今後の予定について
  - 5 ロールモデル講演会 (11/19) 実施報告【岐阜薬科大学】
  - 6 研究倫理研修 (11/29) 実施報告【アピ株式会社】
  - 7 トップマネジメントセミナー (12/2) 実施報告【アピ株式会社】
  - 8 リーダーシップ研修 (12/16) 実施報告【岐阜薬科大学】
  - 9 全国ダイバーシティネットワーク シンポジウム (12/6) 参加報告【アピ株式会社】
  - 10 全国ダイバーシティネットワーク 東海・北陸ブロック会議 (12/10) 参加報告【岐阜大学】
  - 11 学生のためのキャリアセミナー (12/18) 報告
- その他 ハートフルフェスタ 2020 (岐阜市) パネル展示 (1/20~1/26)
- 

第 49 回 2020 (令和 2) 年 3 月 18 日 (水) ※メール会議

- 1 2020 年度連携型共同研究助成 採択について【アピ株式会社】
  - 2 2020 年度連携型共同研究助成 募集・審査スケジュールについて (各機関)
-

### 1-3 数値目標

	1年度目		2年度目		3年度目		4年度目		5年度目	
	目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績
女性研究者 採用比率	30.9% (教授相当 0%、准教授・ 講師相当 28.6%、助教相 当33.3%、研究 員60%)	29.2% (教授相当 20.8%、准教 授・講師相当 22.7%、助教相 当30.9%、研究 員55.6%)	31.3% (教授相当 1.1%、准教 授・講師相当 33.3%、助教 相当37.9%、 研究員60%)	34.0% (教授相当 14.3%、准教 授・講師相当 47.1%、助教相 当28.0%、研究 員61.5%)	30.9% (教授相当 18.2%、准教 授・講師相当 30.8%、助教相 当35.7%、研究 員60%)	31.9% (教授相当0%、 准教授・講師相 当27.6%、助教 相当31.7%、研 究員50.0%)	34.8% (教授相当 19%、准教授・講 師相当38.5%、助 教相当42.9%、研 究員50%)	26.1% (教授相当 10.0%、准教授・ 講師相当22.7%、 助教相当20.0%、 研究員78.6%)	33.3% (教授相当 17.6%、准教 授・講師相当 30.8%、助教相 当41.4%、研究 員50%)	28.4% (教授相当 7.1%、准教授・ 講師相当 20.8%、助教相 当19.0%、研究 員86.7%)
女性研究者 在職比率	21.2% (教授相当 11.1%、准教 授・講師相当 19%、助教相当 31.8%、研究員 47.3%)	21.8% (教授相当 11.7%、准教 授・講師相当 20.2%、助教相 当30.7%、研究 員53.8%)	22.1% (教授相当 1.4%、准教 授・講師相当 19.6%、助教 相当33.5%、 研究員 48.3%)	22.4% (教授相当 11.1%、准教 授・講師相当 21.7%、助教相 当31.4%、研究 員53.6%)	22.7% (教授相当11. 9%、准教授・講 師相当20.2%、助 教相当34%、研究 員48.3%)	22.3% (教授相当11. 2%、准教授・講 師相当22.4%、助 教相当29.3%、研 究員54.0%)	23.6% (教授相当 12.4%、准教 授・講師相当 21.3%、助教相 当35.3%、研究 員48.4%)	22.2% (教授相当 12.3%、准教授・ 講師相当20.9%、 助教相当27.5%、 研究員60.0%)	24.5% (教授相当 12.7%、准教 授・講師相当 22.4%、助教相 当36.7%、研究 員48.4%)	23.5% (教授相当 12.5%、准教 授・講師相当 22.5%、助教相 当25.6%、研究 員71.8%)
女性研究者 上位職比率	15.0% (学長相当 0%、副学長・ 理事相当 18.5%、教授相 当11.1%、准教 授・講師相当 19%)	16.0% (学長相当0%、 副学長・理事相 当20.0%、教授 相当11.8%、准 教授・講師相当 20.2%)	15.4% (学長相当 0%、副学長・ 理事相当 18.5%、教授 相当11.4%、 准教授・講師 相当19.6%)	16.2% (学長相当0%、 副学長・理事相 当20.0%、教授 相当11.1%、准 教授・講師相当 21.6%)	16.1% (学長相当0%、 副学長・理事相 当22.2%、教授 相当11.9%、准 教授・講師相当 20.2%)	16.8% (学長相当0%、 副学長・理事相 当20.0%、教授 相当11.2%、准 教授・講師相当 22.4%)	16.9% (学長相当 0%、副学長・ 理事相当 22.2%、教授相 当12.4%、准教 授・講師相当 21.3%)	18.7% (学長相当 33.3%、副学 長・理事相当 18.8%、教授相 当13.1%、准教 授・講師相当 22.1%)	17.5% (学長相当 0%、副学長・ 理事相当 22.2%、教授相 当12.7%、准教 授・講師相当 22.4%)	17.5% (学長相当 33.3%、副学 長・理事相当 14.3%、教授相 当12.6%、准教 授・講師相当 22.5%)

4機関  
岐阜大学

	1年度目		2年度目		3年度目		4年度目		5年度目	
	目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績
女性研究者採用比率	24.2% (教授相当0%、准教授・講師相当20%、助教相当28.9%、研究員0%)	25.0% (教授相当22.7%、准教授・講師相当14.3%、助教相当30.7%、研究員0%)	25.9% (教授相当11.8%、准教授・講師相当27.3%、助教相当34.6%、研究員0%)	20.0% (教授相当0%、准教授・講師相当20.0%、助教相当24.4%、研究員0%)	28.1% (教授相当15%、准教授・講師相当36.4%、助教相当34.6%、研究員0%)	26.7% (教授相当0%、准教授・講師相当22.2%、助教相当31.0%、研究員0%)	30.4% (教授相当15.8%、准教授・講師相当36.4%、助教相当38.5%、研究員0%)	15.2% (教授相当0%、准教授・講師相当18.8%、助教相当17.6%、研究員0%)	31.5% (教授相当17.6%、准教授・講師相当36.4%、助教相当38.5%、研究員0%)	17.6% (教授相当9.1%、准教授・講師相当15.8%、助教相当21.1%、研究員0%)
女性研究者在職比率	16.3% (教授相当9.6%、准教授・講師相当14%、助教相当27.1%、研究員50%)	16.8% (教授相当10.1%、准教授・講師相当14.1%、助教相当27.8%、研究員50%)	17.2% (教授相当10%、准教授・講師相当15.1%、助教相当28.4%、研究員50%)	16.8% (教授相当9.2%、准教授・講師相当14.9%、助教相当27.7%、研究員50.0%)	17.8% (教授相当10.3%、准教授・講師相当15.8%、助教相当29.3%、研究員50%)	16.9% (教授相当9.3%、准教授・講師相当16.8%、助教相当25.8%、研究員50.0%)	18.5% (教授相当10.7%、准教授・講師相当16.8%、助教相当30.2%、研究員50%)	16.3% (教授相当9.5%、准教授・講師相当16.4%、助教相当23.7%、研究員0%)	19.4% (教授相当11%、准教授・講師相当17.9%、助教相当31.6%、研究員50%)	16.7% (教授相当9.6%、准教授・講師相当18.5%、助教相当22.6%、研究員0%)
女性研究者上位職比率	11.8% (学長相当0%、副学長・理事相当12.5%、教授相当9.6%、准教授・講師相当14%)	12.1% (学長相当0%、副学長・理事相当12.5%、教授相当10.1%、准教授・講師相当14.2%)	12.5% (学長相当0%、副学長・理事相当12.5%、教授相当10%、准教授・講師相当15.1%)	11.9% (学長相当0%、副学長・理事相当14.3%、教授相当9.2%、准教授・講師相当14.8%)	13.2% (学長相当0%、副学長・理事相当25%、教授相当10.3%、准教授・講師相当15.8%)	13.0% (学長相当0%、副学長・理事相当14.3%、教授相当9.3%、准教授・講師相当16.8%)	13.9% (学長相当0%、副学長・理事相当25%、教授相当10.7%、准教授・講師相当16.8%)	16.6% (学長相当0%、副学長・理事相当14.3%、教授相当10.6%、准教授・講師相当19.9%)	14.6% (学長相当0%、副学長・理事相当25%、教授相当11%、准教授・講師相当17.9%)	14.2% (学長相当0%、副学長・理事相当14.3%、教授相当9.6%、准教授・講師相当18.5%)

代表機関である岐阜大学は、5年度目も引き続き厳しい状況にある。初年度は3項目すべてにおいて目標値を達成したが、2年度目以降はほとんどの項目で目標値を下回っている。2017年度(3年度目)にあらたに「教育研究院」を設置してこれまで各学部で行われていた人事を教育研究院に一本化することで女性教員の採用および上位職登用の加速を図ってきたが、応募者および在職者に占める女性比率の低さなどの課題に直面しており、現状のままでは事業終了までに目標値を達成することは極めて困難である。工学部の「多様な人材参画推進室」をはじめ各部局内および部局間の連携など女性活躍推進に向けて学内にて様々な取組を展開しており、本事業の取組のより一層の浸透に向けて引き続き取り組む。

岐阜薬科大学

	1年度目		2年度目		3年度目		4年度目		5年度目	
	目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績
女性研究者 採用比率	0% (教授相当 0%、准教授・ 講師相当0%、 助教相当0%、 研究員0%)	14.3% (教授相当 0%、准教授・ 講師相当 50.0%、助教相 当0%、研究員 0%)	50.0% (教授相当 0%、准教授・ 講師相当0%、 助教相当50%、 研究員0%)	66.7% (教授相当 100%、准教 授・講師相当 50.0%、助教相 当66.7%、研究 員0%)	33.3% (教授相当 100%、准教 授・講師相当 0%、助教相当 0%、研究員 0%)	0% (教授相当0%、 准教授・講師相 当0%、助教相当 0%、研究員0%)	66.7% (教授相当0%、 准教授・講師相 当100%、助教相 当100%、研究員 0%)	16.7% (教授相当0%、 准教授・講師相 当0%、助教相当 33.3%、研究員 0%)	33.3% (教授相当 0%、准教授・ 講師相当0%、 助教相当50%、 研究員0%)	16.7% (教授相当 0%、准教授・ 講師相当50%、 助教相当0%、 研究員0%)
女性研究者 在職比率	13.0% (教授相当 11.5%、准教 授・講師相当 4.5%、助教相当 23.8%、研究員 0%)	13.0% (教授相当 11.5%、准教 授・講師相当 4.2%、助教相当 26.3%、研究員 0%)	14.5% (教授相当 11.5%、准教 授・講師相当 4.5%、助教相当 28.6%、研究員 0%)	16.4% (教授相当 11.5%、准教 授・講師相当 7.1%、助教相当 36.8%、研究員 0%)	15.3% (教授相当 14.8%、准教 授・講師相当 4.3%、助教相当 27.3%、研究員 0%)	16.4% (教授相当11.5%、 准教授・講 師相当6.7%、助 教相当41.2%、研 究員0%)	18.1% (教授相当 14.8%、准教 授・講師相当 8.7%、助教相当 31.8%、研究員 0%)	15.7% (教授相当11.5%、 准教授・講 師相当7.1%、助 教相当37.5%、 研究員0%)	19.4% (教授相当 14.8%、准教 授・講師相当 8.7%、助教相 当36.4%、研究 員0%)	15.5% (教授相当 11.5%、准教 授・講師相当 13.3%、助教相 当26.7%、研究 員0%)
女性研究者 上位職比率	10.7% (学長相当 0%、副学長・ 理事相当 28.6%、教授相 当11.5%、准教 授・講師相当 4.5%)	10.3% (学長相当 0%、副学長・ 理事相当 28.6%、教授相 当11.5%、准教 授・講師相当 4.2%)	10.7% (学長相当 0%、副学長・ 理事相当 28.6%、教授相 当11.5%、准教 授・講師相当 4.5%)	11.3% (学長相当 0%、副学長・ 理事相当 28.6%、教授相 当11.5%、准教 授・講師相当 7.1%)	12.1% (学長相当 0%、副学長・ 理事相当 28.6%、教授相 当14.8%、准教 授・講師相当 4.3%)	10.9% (学長相当 0%、副学長・ 理事相当28.6%、 教授相当11.5%、 准教授・ 講師相当6.7%)	13.8% (学長相当0%、 副学長・理事相 当28.6%、教授 相当14.8%、准 教授・講師相当 8.7%)	11.3% (学長相当 0%、副学長・ 理事相当28.6%、 教授相当 11.5%、准教 授・講師相当7.1%)	13.8% (学長相当 0%、副学長・ 理事相当 28.6%、教授相 当14.8%、准教 授・講師相当 8.7%)	13.2% (学長相当 0%、副学長・ 理事相当 18.2%、教授相 当11.5%、准教 授・講師相当 13.3%)

5年度目は全体的に目標値を達成できなかったが、女性講師の新規採用1名に加えて1名の女性助教が講師に昇進した。上位職比率に関して、管理職の組織拡大に伴い比率が下がったが、実質の比率は横ばいとなっている。

岐阜女子大学

	1年度目		2年度目		3年度目		4年度目		5年度目	
	目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績
女性研究者 採用比率	63.6% (教授相当 0%、准教授・ 講師相当50%、 助教相当 100%、研究員 100%)	66.7% (教授相当 0%、准教授・ 講師相当 57.1%、助教相 当100%、研究 員100%)	75.0% (教授相当 0%、准教授・ 講師相当 100%、助教相 当100%、研究 員100%)	75.0% (教授相当 33.3%、准教 授・講師相当 100%、助教相 当0%、研究員 0%)	50.0% (教授相当 0%、准教授・ 講師相当0%、 助教相当 100%、研究員 100%)	88.9% (教授相当0%、 准教授・講師相 当100%、助教相 当100%、研究員 100%)	66.7% (教授相当 100%、准教 授・講師相当 0%、助教相当 100%、研究員 0%)	46.2% (教授相当28. 6%、准教授・講 師相当50.0%、 助教相当100%、 研究員100%)	50.0% (教授相当 0%、准教授・ 講師相当0%、 助教相当 100%、研究員 0%)	42.9% (教授相当 0%、准教授・ 講師相当 33.3%、助教相 当0%、研究員 100%)
女性研究者 在職比率	49.5% (教授相当 18.8%、准教 授・講師相当 69%、助教相当 100%、研究員 100%)	52.7% (教授相当 21.7%、准教 授・講師相当 75.8%、助教相 当100%、研究 員100%)	50.0% (教授相当 18.8%、准教 授・講師相当 67.9%、助教相 当100%、研究 員100%)	54.7% (教授相当 22.7%、准教 授・講師相当 84.4%、助教相 当100%、研究 員100%)	49.5% (教授相当 18.8%、准教 授・講師相当 66.7%、助教相 当100%、研究 員100%)	55.3% (教授相当22. 7%、准教授・講 師相当85.7%、 助教相当100%、 研究員100%)	50.5% (教授相当 20.8%、准教 授・講師相当 64.3%、助教相 当100%、研究 員100%)	51.8% (教授相当25 0%、准教授・講 師相当80.0%、 助教相当100%、 研究員100%)	51.0% (教授相当 20.8%、准教 授・講師相当 65.5%、助教相 当100%、研究 員100%)	48.9% (教授相当 24.5%、准教 授・講師相当 73.1%、助教相 当83.3%、研究 員100%)
女性研究者 上位職比率	35.2% (学長相当 0%、副学長・ 理事相当20%、 教授相当 18.8%、准教 授・講師相当 69.0%)	42.0% (学長相当 0%、副学長・ 理事相当 22.2%、教授相 当22.2%、准教 授・講師相当 75.8%)	34.5% (学長相当 0%、副学長・ 理事相当20%、 教授相当 18.8%、准教 授・講師相当 67.9%)	47.4% (学長相当 0%、副学長・ 理事相当0%、 教授相当 22.7%、准教 授・講師相当 84.4%)	33.7% (学長相当 0%、副学長・ 理事相当20%、 教授相当 18.8%、准教 授・講師相当 66.7%)	45.9% (学長相当 0%、副学長・ 理事相当0%、 教授相当22. 7%、准教授・ 講師相当85. 7%)	34.5% (学長相当 0%、副学長・ 理事相当20%、 教授相当 20.8%、准教 授・講師相当 64.3%)	43.4% (学長相当10 0%、副学長・ 理事相当0%、 教授相当25. 0%、准教授・ 講師相当80. 0%)	35.2% (学長相当 0%、副学長・ 理事相当20%、 教授相当 20.8%、准教 授・講師相当 65.5%)	41.0% (学長相当 100%、副学 長・理事相当 0%、教授相当 24.5%、准教 授・講師相当 73.1%)

岐阜女子大学は、女子大学として従来から女性教員が多く、女性研究者在職比率を維持してきたが、5年度目となる2019年度は目標を達成できなかった。今後、女性研究者在職比率の目標達成に努める。また、上位職比率を上げることが課題である。事業開始後、メンター制度を取り入れたり、特任教員を雇い入れ、若手研究者の研究力向上のための指導に当たらせたりしており、上位職比率も伸びている。

アピ株式会社

	1年度目		2年度目		3年度目		4年度目		5年度目	
	目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績
女性研究者 採用比率	50.0% (教授相当 0%、准教授・ 講師相当0%、 助教相当0%、 研究員50%)	50.0% (教授相当 0%、准教授・ 講師相当0%、 助教相当0%、 研究員50.0%)	50.0% (教授相当 0%、准教授・ 講師相当0%、 助教相当0%、 研究員50%)	60.0% (教授相当 0%、准教授・ 講師相当0%、 助教相当 50.0%、研究員 61.5%)	50.0% (教授相当 0%、准教授・ 講師相当 0%、 助教相当 0%、 研究員 50%)	33.3% (教授相当0%、 准教授・講師相当 0%、助教相当 0%、研究員35. 7%)	50% (教授相当 0%、准教授・ 講師相当0%、 助教相当0%、 研究員50%)	76.9% (教授相当0%、准 教授・講師相当 0%、助教相当0%、 研究員76.9%)	50% (教授相当 0%、准教授・ 講師相当0%、 助教相当0%、 研究員50%)	78.6% (教授相当 0%、准教授・ 講師相当0%、 助教相当0%、 研究員84.6%)
女性研究者 在職比率	42.9% (教授相当 16.7%、准教 授・講師相当 66.7%、助教相 当48%、研究員 40.4%)	42.9% (教授相当 14.3%、准教 授・講師相当 57.1%、助教相 当42.9%、研究 員45.2%)	43.0% (教授相当 16.7%、准教 授・講師相当 66.7%、助教相 当48%、研究員 40.8%)	45.7% (教授相当 16.7%、准教 授・講師相当 41.7%、助教相 当48.1%、研究 員49.0%)	43.8% (教授相当 16.7%、准教 授・講師相当 71.4%、助教相 当48%、研究 員41.2%)	42.3% (教授相当16. 7%、准教授・講師 相当46.2%、助教 相当37.5%、研究 員47.2%)	44.0% (教授相当 16.7%、准教 授・講師相当 71.4%、助教 相当48%、研 究員41.5%)	48.6% (教授相当37. 5%、准教授・講師 相当40.0%、助教 相当40.0%、研 究員55.9%)	44.1% (教授相当 16.7%、准教 授・講師相当 71.4%、助教相 当48%、研究員 41.8%)	54.8% (教授相当 36.4%、准教 授・講師相当 33.3%、助教相 当37.5%、研究 員69.0%)
女性研究者 上位職比率	35.7% (学長相当 0%、副学長・ 理事相当0%、 教授相当 16.7%、准教 授・講師相当 66.7%)	35.7% (学長相当 0%、副学長・ 理事相当0%、 教授相当 14.3%、准教 授・講師相当 57.1%)	35.7% (学長相当 0%、副学長・ 理事相当0%、 教授相当 16.7%、准教 授・講師相当 66.7%)	33.3% (学長相当 0%、副学長・ 理事相当0%、 教授相当 16.7%、准教 授・講師相当 41.7%)	40.0% (学長相当 0%、副学長・ 理事相当0%、 教授相当 16.7%、准教 授・講師相当 71.4%)	36.8% (学長相当0%、 副学長・理事相 当0%、教授相当 16.7%、准教 授・講師相当46. 2%)	40% (学長相当 0%、副学長・ 理事相当0%、 教授相当 16.7%、准教 授・講師相当 71.4%)	38.9% (学長相当0%、 副学長・理事相 当0%、教授相当 37.5%、准教授・ 講師相当40.0%)	40% (学長相当 0%、副学長・ 理事相当0%、 教授相当 16.7%、准教 授・講師相当 71.4%)	34.8% (学長相当 0%、副学長・ 理事相当0%、 教授相当 40.0%、准教 授・講師相当 33.3%)

連携協議会の中で唯一の企業であるアピ株式会社は、大学の職階とは異なるものの役職に準じてその比率に対応している。本年度は2019年9月の組織改編に伴い、算出対象も変化し、各比率が大幅に変動したが、採用比率・在職比率に関しては、昨年度に引き続き、本年度も達成した。上位職比率に関しては、組織改編による部署統合により、女性研究者ならびに男性を含めた全体数が大幅に変動し、結果として、上位職比率は減少し、達成できなかった。そのため、今後は、採用した多くの女性研究者が積極的に活躍し上位職を目指していけるように、育成にも注力していきたい。



## 2. 女性研究者の研究力向上のための取り組み

本事業における最も重要な取り組みのひとつは、**連携型共同研究助成**である。これは、連携機関に所属する女性研究者が、研究代表者として他の機関に所属する研究者と連携して研究を始める場合に研究費を助成する制度であり、領域横断的かつ産学の枠を超えた共同研究を実現することによって独創性に満ちた研究を促すとともに、共同研究において PI（研究主宰者）を経験することにより、若手女性研究者が研究進捗管理や協力体制の構築等に関する能力を向上させるための環境整備を目指すものである。

自主経費 2 年目となる 2019（令和 1）年度も岐阜大学で 4 件、岐阜薬科大学で 2 件、岐阜女子大学で 2 件、アピ株式会社で 1 件の研究課題を採択した。なお、「2019 年度連携型共同研究成果報告会・研究者交流会」について、当初は 2020（令和 2）年 2 月 27 日に開催予定だったが新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2020 年度との合同開催のかたちで 2021 年 2 月下旬に実施予定である。来年度も引き続き機関ごとに新規課題に対して研究助成を行う予定であり、連携機関以外に所属する研究者にも広く参加を奨励している。

2019 年度に採択された 9 課題のなかには、3 件の特許出願のほか、論文や学会での発表、講演依頼、メディア（岐阜新聞、NHK、郡上ケーブルテレビ局）に取り上げられた事例もあった。加えて、研究に参加した女性研究者の上位職への登用が実現した例もあり、本助成事業が女性研究者の活躍に高い効果を上げていることを確認した。

研究者が国際的な場での研究発表や国際論文への投稿を試みる際の支援として、**英語コミュニケーション力向上セミナー**を開催した。参加者の立場や専門分野、英語のレベルによってニーズや期待は多様ではあったが、アンケート結果では協働学習の体験を高く評価する内容が数多く見られた。そのほか、岐阜大学および岐阜薬科大学では英語論文投稿の際の**英文校閲費用助成**を行い、2019（令和 1）年度は 6 件（岐阜大学 1 件、岐阜薬科大学 5 件）に対して助成を行った。

研究倫理は、研究不正を防止し、科学技術の健全な発展および研究成果の社会貢献において極めて重要である。岐阜女子大学およびアピ株式会社では今年度も**研究倫理研修**が開催され、それぞれの研修には 4 機関に所属する多数の構成員が参加して研究倫理に関する理解を深めた。

小学生の子どもを持つ研究者にとって長期休暇中の子どもの過ごし方は頭を悩ませる大きな問題である。研究者のなかには実家が遠方であったり、配偶者と別居しながら単身で子育てを行う「ワンオペ育児」の母親研究者も少なくない。本事業の一環として、かねてより岐阜大学にて実施している**夏季休暇中の学童イベント「カモミールこども大学」**を 4 機関による学童保育プログラムに統合したうえで今年度も引き続き開催した。

各機関において**メンター制度**を実施し、相談内容に応じてメンター（先輩研究者）の紹介や学内で利用できる制度等に関する情報提供を行った。

## 2-1. 連携型共同研究助成

### 2019 年度採択の連携型共同研究課題

申請者 (所属・職名)	研究課題	共同研究者 (申請時の所属・職名)
古山 浩子 岐阜大学 工学部・准教授	<sup>11</sup> C 標識非環式レチノイドの 高効率合成法とその 脳透過性分子機構の 解明	江坂 幸宏 (岐阜薬科大学 機能分子学大講座・准教授) 《連携機関外》 木村 泰之 (国立長寿医療研究センター 脳機能画像診断開発部・室長) 小縣 綾 (国立長寿医療研究センター 脳機能画像診断開発部・流動研究員) 池沼 宏 (国立長寿医療研究センター 脳機能画像診断開発部・研究技術員) 鈴木 正昭 (国立長寿医療研究センター 脳機能画像診断開発部・特任研究員)
稲垣 瑞穂 岐阜大学 応用生物科学部・ 准教授	腸内細菌叢培養に関する 基礎研究 ～大人用モデル培地の改 良と乳児用モデル培養 条件の検討～	中村 日南 (岐阜女子大学 家政学部・助手) 早川 亨志 (岐阜大学 応用生物科学部・教授)
山根 京子 岐阜大学 応用生物科学部・ 准教授	ワサビの味の客観的評価 方法の確立	清水 祐美 (岐阜女子大学 家政学部・講師)
小山 真紀 岐阜大学 流域圏科学研究セ ンター・准教授	ぎふ災害アーカイブの構 築	井上 透 (岐阜女子大学 デジタルアーカイブ研究所・所長)
永澤 秀子 岐阜薬科大学 薬化学研究室・ 教授	子宮頸がん治療法の向上 を目指すがん治療増感 剤の開発研究	辻 美恵子 (岐阜薬科大学 薬化学研究室・助教) 鈴木 紀子 (岐阜大学 医学部産婦人科・助教) 森 美奈子 (岐阜大学 医学部産婦人科・医員/大学院生) 上田 陽子 (岐阜大学 医学部産婦人科・医員/大学院生) 森重 健一郎 (岐阜大学 医学部産婦人科・教授)
武富 利亜 岐阜薬科大学 英語研究室・教授	岐阜県の小学校英語教育 の現状と課題に関する 研究	松家 鮎美 (岐阜女子大学 文化創造学部・講師) 澁谷 真由美 (岐阜薬科大学 英語研究室・講師) リー・ジャクソン・クーン・イェッツ (岐阜大学 教育推 進・学生支援機構・特任助教)
大崎 友記子 岐阜女子大学 家政学部・教授	家政学からみた防災のあ り方—学生の意識調査 より—	小山 真紀 (岐阜大学 流域圏科学研究センター・准教授) 齋藤 益美 (岐阜女子大学 家政学部・講師) 森田 実沙 (岐阜女子大学 家政学部・講師) 大場 君枝 (岐阜女子大学 家政学部・助教)
齋藤 陽子 岐阜女子大学 文化創造学部・ 准教授	教育実践の「知の増殖型 サイクル」の究明	興戸 律子 (岐阜大学 教育学部附属学習協創開発研究センタ ー・助教) 加藤 直樹 (岐阜大学 教育学部附属学習協創開発研究センタ ー・教授) 横山 隆光 (岐阜女子大学 文化創造学部・教授)

<p><b>森本 智美</b>        アピ株式会社        戦略開発本部・        主任</p>	<p><b>蜜源植物の異なるハチミツの腸内有用細菌に対する作用の評価</b></p>	<p>田中 香お里（岐阜大学 大学院連合創薬医療情報研究科・教授）        佐溝 恭子（アピ株式会社 戦略開発本部・主任）</p>
--	--	--

文部科学省科学技術人材育成費補助事業  
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」

2019（令和元）年度 連携型共同研究助成報告書（岐阜大学用）

研究代表者

ふりがな	こやま ひろこ
氏名	古山 浩子
所属	岐阜大学工学部化学・生命工学科
職名	准教授
E-mail	hirokok@gifu-u.ac.jp
電話番号	058-230-7635

研究課題名

$^{11}\text{C}$  標識非環式レチノイドの高効率合成法とその脳透過性分子機構の解明

共同研究者名（氏名、所属機関、部局、職名、性別）

氏名	所属機関	部局	職名	性別
江坂 幸宏	岐阜薬科大学	機能分子学大講座	准教授	男
木村 泰之	国立長寿医療研究センター	脳機能画像診断開発部	室長	男
小縣 綾	国立長寿医療研究センター	脳機能画像診断開発部	流動研究員	女
池沼 宏	国立長寿医療研究センター	脳機能画像診断開発部	研究技術員	男
鈴木 正昭	国立長寿医療研究センター	脳機能画像診断開発部	特任研究員	男

研究の目的

ビタミン A の活性代謝産物である全-*trans*-レチノイン酸 (ATRA) は核内のレチノイン酸受容体のリガンドとなり抗がん活性を示すことからこれまで癌の化学療法薬としての研究・開発が行われてきた。最近, ATRA およびその人工類縁体は未だ根治治療薬のないアルツハイマー病 (AD) に対して改善効果を示すことが報告され, 大きな注目を集めている。AD などの脳を標的とした最適治療薬の開発には, 脳内移行性を有する創薬候補化合物の開発及び脳内動態の解析が重要な課題であり, 分子レベルで丸ごと観察できる陽電子断層画像撮像法 (PET) の活用が有効である。これまでに当研究グループで独自に開発した高速カップリング反応を応用して ATRA を  $^{11}\text{C}$  で標識した PET 用分子プローブを開発した<sup>[1]</sup>。しかし,

$^{11}\text{C}$ -ATRA の活用には、(1)長い標識前駆体の合成行程；(2)光や標識化反応条件下での不安定さ；(3)標識化過程で生じた複数の幾何異性体の分離精製の煩雑さ；(4) *in vivo*における数多くの代謝産物の生成に伴う脳内動態解析の複雑さなど、今後の研究の遂行には多くの問題点がある。Vasdev らにより安定人工レチノイドである高脂溶性のベキサロテンの  $^{11}\text{C}$  標識化が対応するボロン酸エステル前駆体と銅触媒を用いた  $^{11}\text{C}$ カルボキシル化により合成され、ラットおよびヒヒの PET イメージングから高い脳内移行性が観測されている<sup>[2]</sup>。しかし、 $^{11}\text{C}$  標識ベキサロテンは、非特異的に脳内に集積しており、レチノイド X 受容体 (RXR) および関連受容体の占有率を測定するには不向きであると考えられている。その後、Kakuta らは RXR パーシャルアゴニストとして同等の脂溶性をもつ CBt-PMN の  $^{11}\text{C}$  標識化が、スズ標識前駆体からリチオ化を経由する  $^{11}\text{C}$  カルボキシル化により達成され、 $^{11}\text{C}$ CBt-PMN を用いたマウスの PET イメージングにより、ベキサロテンより高い脳内移行性が観測されている<sup>[3]</sup>。しかし、その合成法は、過剰な強塩基による超微量の  $^{11}\text{C}$ CO<sub>2</sub>の捕獲という古典的な方法であり、低収率(0.33%)のために、PET イメージング研究は小動物による限定的な使用に留まっており、kinetics や脳内分布の解析など脳内動態の解明には至っていない。

そこで我々は、天然レチノイドの構造を基盤にして、ATRA と同様に核内受容体アゴニストであり、かつ、構造化学的により安定な非環式レチノイド (2*E*, 4*E*, 6*E*, 10*E*)-3, 7, 11, 15-tetramethylhexadeca-2, 4, 6, 10, 14-pentaenoic acid (別名 4,5-didehydrogeranyl geranoic acid, 略称 4,5-didehydro GGA) に注目して、独自の  $^{11}\text{C}$  標識合成法である高速  $\text{C}$ - $^{11}\text{C}$ メチル化<sup>[4]</sup>を適用した短工程による高効率な  $^{11}\text{C}$  含有 4,5-didehydro GGA の創製とともに、本  $^{11}\text{C}$  標識リガンドの脳移行性機構の解明を目的とした。

### 目的達成度および研究の成果と課題

- ・ 多量に入手できる天然化合物ファルネソールを出発原料として  $^{11}\text{C}$  標識用のスズ化合物前駆体の合成ルートを開拓した。
- ・ 放射性 $^{11}\text{C}$ ヨウ化メチルを  $^{11}\text{C}$  源として PET イメージング研究に供給できる十分量の高質な  $^{11}\text{C}$  標識 4,5-didehydro GGA が得られることがわかった。
- ・ 小中動物 PET 研究により上記  $^{11}\text{C}$  標識体の脳内移行性を評価した。

上記により  $^{11}\text{C}$  標識 4,5-didehydro GGA の合成に成功し、研究は順調に進捗していると評価される。今後、 $^{11}\text{C}$  標識 4,5-didehydro GGA の脳移行機構の解明のために、以下について順に研究を行う。

- ・  $^{11}\text{C}$  標識 4,5-didehydro GGA のラット静脈内投与後の血中および脳内の  $^{11}\text{C}$  標識代謝物を HPLC 分析により解析する。
- ・ 血中および脳内の代謝物の化学構造を液体クロマトグラフィー質量分析法を用い解析する。
- ・ 非放射化 4,5-didehydro GGA の脳機能障害に対する薬理学的評価を行う。

## 共同研究をすすめるうえでの反省点

岐阜薬科大学の江坂先生とは研究室の場所が同じ岐阜薬科棟であることから頻りに研究打ち合わせを行うことができた。研究場所が離れている国立長寿医療研究センターの共同研究者とはメールで情報交換を行うとともに、 $^{11}\text{C}$  標識合成実験のたびに対面して打ち合わせを行うことができた。このように密に情報交換を行い、その都度、研究の方向性を示すことができた。

## 共同研究の成果のうち、特に、以下の 4 点についての達成度をそれぞれ簡潔に記述してください。

一 PI 経験への貢献度（申請者が PI として、共同研究の役割分担を適切におこない、共同研究者を取りまとめながら、研究を実施することできたか。）

当該研究者はこれまでに、鈴木正昭博士（岐阜大学名誉教授、理研名誉研究員）により初めて編み出された 0 価パラジウム触媒を用いる  $^{11}\text{C}$  標識化のための高速  $\text{C}-[^{11}\text{C}]$  メチル化の拡張に務め、医薬品の構造によく見られるヘテロ芳香環上への高速  $\text{C}-[^{11}\text{C}]$  メチル化やとくに困難とされてきた  $\text{sp}^3\text{-sp}^3$  結合を介する  $^{11}\text{C}$ -標識化に成功し、高速  $\text{C}-[^{11}\text{C}]$  メチル化に基づく一般的  $^{11}\text{C}$  標識法を確立している。また、本法を活用して、複雑な構造をもつ全-*trans*-レチノイン酸の  $^{11}\text{C}$  標識化にも成功し、これらの成果は、本研究主題である非環式レチノイドの  $^{11}\text{C}$ -PET プローブ化研究の発展に深く関わっている。学術分野の専門性においては、出発点は名古屋大学野依研究室での純粋な有機化学であるが、本岐阜大学工学部（のち医学研究科に転出）鈴木研究室での PET プローブの設計・合成研究への参画の機会を得て、さらに創薬化学と放射線標識化学にも精通し、現在では、近未来の新科学分野と期待される「化学・工学・生物学・薬学・医学融合型の生体内分子科学」の発展のために活かそうとしている本格的な女性化学研究者となっている。本事業がめざす研究力向上に深く結びついている。

一 共同研究の学術的価値（共同研究の学術的価値が高く、独創性があったかどうか。）

- ・ 高速カップリング反応を難治性疾患に対応した安全性の高い短寿命 PET プローブの合成へ応用展開することは、代表者独自の発想であり、共同研究の機軸となるものである。
- ・ 本分子イメージング研究は化学から医学に渡る共同研究なしでは達成することができない新規かつ独創的課題である。
- ・  $^{11}\text{C}$  標識 4,5-didehydro GGA は購入できるリガンドではなく、共役したポリオレフィン構造からなり、標識前駆体の化学合成も  $^{11}\text{C}$ -標識化も容易ではない。したがって、合成法自身も有機合成化学的価値が高い。光や酸素及び遷移金属下での反応に敏感な構造があり、合成ルートの確立には精緻な反応条件の案出が必要不可欠であり、本格的な有機合成化学者の参画が必須である。
- ・ 高品位 PET プローブの安定供給により分子イメージング研究が初めて遂行可能となる。
- ・ 小動物からヒト臨床までの一気通貫研究にはさらに基礎から臨床までカバーできる生

物・医学研究者の共同研究体制を組み込む必要がある。

- ・ 以上の様な多分野の研究者が対等に参画できる学際的共同研究は他に例のない独創的なものである。

一 共同研究実施者の妥当性（若手女性研究者の研究力が向上したか。）

国立長寿医療研究センターの小縣博士は本学応用生物科学科で学位を取得し、本年度から岐阜医科学大学の助教に着任しているが、本研究プロジェクトを通じて先端有機化学から生物機能評価まで専門性を高めることができ、ハイブリッド的若手女性研究者として研究力を向上させることができた。

一 共同研究の地域貢献性（共同研究によって、地域活性化ができたか。）

4,5-didehydro GGA は、岐阜大学大学院医学系研究科第一内科を中心に肝発癌抑制薬として開発された人工レチノイドであり、本代表者は、国立長寿医療研究センター（大府市）と共同で脳機能疾患の診断および治療薬の開発を念頭にして新規 PET プローブの開発研究を展開してきた。本研究では、新たに、岐阜薬科大学にて開発された生体試料中の生理活性物質の高性能分離／高感度検出を可能にした高度な技術を活用し、4,5-didehydro GGA の脳内移行機構の解明に向けた脳内移行に関わる構造解析を計画した。いずれの機関も岐阜大学大学院連合創薬医療情報研究科に関わり、当該研究科の一層の連携強化を図るものである。また、代表者らは、レチノイドと同様に、脳機能改善薬の開発を目指し、高麗人蔘エキスであるギンセノシドやイチョウ葉エキス中に含まれるギンゴライド<sup>[5]</sup>にも着目し、これらの<sup>11</sup>C 標識 PET プローブの合成を基に、分子イメージング研究を展開しているが、これらの漢方薬成分は、岐阜地区の民間企業である一丸ファルコス株式会社や長良サイエンス株式会社から提供を受けてきた。将来的には、天然物抽出物を提供するアピ株式会社との連携も視野に入りたい。脳機能改善効果を示す漢方薬成分やビタミン A などの機能性食品の薬効に関する科学的根拠を示すことにより、地元産業の活性化への貢献が期待される。

参考文献

- [1] M. Suzuki, M. Takashima-Hirano, H. Ishii, C. Watanabe, K. Sumi, H. Koyama, H. Doi, *Bioorg. Med. Chem. Lett.* **2014**, *24*, 3622-3625.
- [2] B. H. Rotstein, J. M. Hooker, J. Woo, T. L. Collier, T. J. Brady, S. H. Liang, N. Vasdev, *ACS Med. Chem. Lett.* **2014**, *5*, 668-672.
- [3] O. Shibahara, M. Watanabe, S. Yamada, M. Akehi, T. Sasaki, A. Akahoshi, T. Hanada, H. Hirano, S. Nakatani, H. Nishioka, Y. Takeuchi, H. Kakuta, *J. Med. Chem.* **2017**, *60*, 7139-7145.
- [4] M. Suzuki, H. Doi, H. Koyama, Z. Zhang, T. Hosoya, H. Onoe, Y. Watanabe, *Chem. Rec.* **2014**, *14*, 516-541.

- [5] H. Doi, K. Sato, H. Shindou, K. Sumi, H. Koyama, T. Hosoya, Y. Watanabe, S. Ishii, H. Tsukada, K. Nakanishi, M. Suzuki, *Bioorg. Med. Chem.* **2016**, *24*, 5148-5157.

#### **この連携型共同研究の成果に関する研究発表・報告等**

Synthesis of (*R,S*)-isoproterenol, an inhibitor of tau aggregation, as an <sup>11</sup>C-labeled PET tracer *via* reductive alkylation of (*R,S*)-norepinephrine with [2-<sup>11</sup>C]acetone, Hiroshi Ikenuma, Hiroko Koyama, Naoya Kajino, Yasuyuki Kimura, Aya Ogata, Junichiro Abe, Yasuhiro Kawasumi, Takashi Kato, Akihiko Takashima, Kengo Ito, Masaaki Suzuki, *Bioorg. Med. Chem. Lett.* **29**, 2107-2111 (2019).

#### **その他（特記すべき事項など）**

本研究課題に関連して、特許出願および学术论文の投稿を準備中である。

文部科学省科学技術人材育成費補助事業  
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」

2019（令和元）年度 連携型共同研究助成報告書（岐阜大学用）

研究代表者

ふりがな	いながき みずほ
氏名	稲垣 瑞穂
所属	岐阜大学 応用生物科学部 応用生命科学課程
職名	准教授
E-mail	mizuho@gifu-u.ac.jp
電話番号	058-293-3419

研究課題名

腸内細菌叢培養に関する基礎研究

～大人用モデル培地の改良と乳児用モデル培養条件の検討～

共同研究者名（氏名、所属機関、部局、職名、性別）

中村日南、岐阜女子大学、家政学部、健康栄養学科、助手、女性

早川享志、岐阜大学、応用生物科学部、応用生命科学課程、教授、男性

神谷 竣、岐阜大学大学院 自然科学技術研究科、修士1年、男性

服部香織、岐阜大学大学院 自然科学技術研究科、修士1年、女性

研究の目的

数年前より動物愛護の観点から、動物実験廃止の方針を公表する企業が増えている。化粧品関連企業では、皮膚試験の代替法として三次元皮膚培養モデルが構築されている。この動物実験廃止の方針は食品製造業にも波及する可能性が極めて高く（一部の大手企業は既に表明済み）、動物実験の代替法の開発が求められている。

2016年、国内で *in vitro* 腸内細菌叢培養モデルの開発が報告された（Takagi *et al.*, PLoS ONE）（図1上）。ヒト糞便をスターターとしてヒト腸内環境を再現する *in vitro* 系モデルであり、動物実験の中でも腸内細菌代謝の代替モデルとしての期待が高い。一方で、*in vitro* 培養モデルは以下の課題を抱えている。

（課題1）培養スケールが100 mLと大きいため、多検体の同時スクリーニング試験や反復試験には不向きである。

(課題 2) 腸内環境の再現性に改善の余地がある。

(課題 3) 乳児の腸内環境再現モデルが構築されていない。

(課題 4) 培養のたびに新鮮糞便を用意する必要があり、再現性試験が行えない。

本申請では、2および3の課題に取り組んだ。(課題2) 現行では Gifu Anaerobic medium (GAM) 培地を用いている。この培地は難培養細菌の再現を可能にするが、大腸菌の増殖が強い傾向があることから、糞便の菌叢に近づけるための培地のデザインを試みる。(課題3) 乳児の腸内細菌叢は、大人の菌叢と大きく異なることが知られている。離乳食開始前の乳児の主食はミルクであることから、調製粉乳をベースに再現モデルの構築を目指した。

### 目的達成度および研究の成果と課題

<非公開>

### 共同研究をすすめるうえでの反省点

<非公開>

**共同研究の成果のうち、特に、以下の4点についての達成度をそれぞれ簡潔に記述してください。**

- PI 経験への貢献度 (申請者が PI として、共同研究の役割分担を適切におこない、共同研究者を取りまとめながら、研究を実施することができたか。)   
PI として、常に課題を整理しながら、研究を遂行することができた。共同研究者と議論する機会はもう少し増やすことができたなら尚良かった。研究課題が見えてきたので、解決につなげたい。
- 共同研究の学術的価値 (共同研究の学術的価値が高く、独創性があったかどうか。)   
本研究は、今後の腸内細菌分野を発展させるために必要な研究である。腸内細菌培養技術を持つ研究機関は限られており、独創性は高い。今後も「どこでも・誰でも・気軽に」腸内細菌培養ができるように、基本培養マニュアルを確立していきたい。
- 共同研究実施者の妥当性 (若手女性研究者の研究力が向上したか。)   
共同研究者の早川先生・中村先生は、動物実験での腸内細菌叢の解析経験を持つ。一方、私は動物実験の経験がないことから、パートナーとして妥当であり討議においても貴重な意見をいただくことができた。
- 共同研究の地域貢献性 (共同研究によって、地域活性化ができたか。)   
地域貢献と関連性が低いため評価できていない。  
ただ、本研究で用いている GAM 培地処方 は岐阜大学で開発された経緯がある。今後

も、GAM 培地を改良し、複雑な腸内細菌が再現できる改良型 GAM 培地を創ることで  
岐阜大学に貢献していきたい。

### **この連携型共同研究の成果に関する研究発表・報告等**

まだ未完であるため、次年度も研究を継続する。成果に応じて各種学会にて発表する。

### **その他（特記すべき事項など）**

本研究に関わる今年度の成果として追記します。

課題 1 について：

この課題を克服する新規培養方法を特許出願した。

発明の名称：細菌培養方法

特許出願番号：特願 2019-216083

課題 4 について：

岐阜大学応用生物科学部 C19 吉寄清己教育研究支援基金を受けて、  
腸内細菌叢の保存液の処方を開発した。

文部科学省科学技術人材育成費補助事業  
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」

2019（令和元）年度 連携型共同研究助成報告書（岐阜大学用）

**研究代表者**

ふりがな	やまね きょうこ
氏名	山根 京子
所属	岐阜大学応用生物科学部
職名	准教授
E-mail	kyamane@gifu-u.ac.jp
電話番号	058-293-2846

**研究課題名**

ワサビの味の客観的評価方法の確立

**共同研究者名**（氏名、所属機関、部局、職名、性別）

清水祐美、岐阜女子大学、家政学部健康栄養学科、講師、女性

**研究の目的**

本研究は、前回採択された『ワサビの甘味の客観的評価方法の確立』の成果をより実用に近づけ、新たな客観的指標の開発も試みることを目的とした課題である。本課題の立案は、研究代表者が平成 30 年度より全国わさび品評会の審査員を担当した経験に基づいている。そこで得られた問題点などを解決し、ワサビ生産の向上と発展につなげることを目標とする。具体的には、産地も品種も異なり、辛さや旨味に明確な違いがある個体間において、旨味や辛味と糖度計および塩分計の結果との関係を調査する。さらに今回は、糖度計と塩分計に加え、pH 試験紙を用いて、辛味や旨味の違いが評価できるかどうかにも新たに検証する。最終的には、糖度計、塩分計、pH 試験紙という比較的安価で簡便な手法を用いることで、汎用性が見込める実用的なツールを目指す。

**目的達成度および研究の成果と課題**

品評会に出品された「根茎の部」132 点のうちの上位 6 点と比較対象として、石川県の在来ワサビ等 3 点を供試材料とした。2020 年 10 月 24 日の品評会で用いた同一個体の残りを、翌日に同会場にて分析した。糖度測定にはデジタ糖度計 PAL-1 (ATAGO, Japan) を、

塩分測定にはデジタル塩分計 PAL-SALT (ATAGO, Japan) を用いた。他に、コンパクト硝酸、ナトリウム、カリウム、カルシウムイオン、pH メーター (HORIBA, Japan) を用いた。測定の方法は、生ワサビの根茎部分を品評会でも用いたステンレス製のおろし器具 (サメ吉大、ツボエ) ですりおろし、すりおろしワサビ 1 に対し、11 ミリリットルの蒸留水を加え、1 分間転倒混和した後の溶液を測定に用いた。なお、今回は、二種類 (親水性と疎水性) のフィルターを通して用いた溶液を用いた。官能評価資料としては、2018 年 10 月 18 日に行われたわさび品評会において、審査員 16 名が評価した結果を参考にした。なお、本研究は、当日審査員への説明で了承を得たうえで、後日行われた山葵連合会の理事会でも了承を得たうえで実施している。

品評会に出品されたうちの 6 点 (=6 個体) を対象に、審査委員 16 名が採点した結果を参考資料として考察に用いた。同一個体の糖度、塩分濃度やそのほかのイオン分量を調べ、産地との関係や、官能試験との関係を調べた。前回、すりおろし産物をろ過しなかったため、今回はシリンジフィルターを用いてろ過し、1 サンプルで同一項目を 2 回調べることができた。硝酸イオンを除く成分で、2 回の間にはばらつきはほとんどみられなかった。

産地と成分の間に関係性があるのかどうかを調べたところ、カルシウムイオン、硝酸イオン、糖度において産地間で差がみられた (図 1)。カルシウムは土壌成分が関係しているかもしれない。年中水温が変わらない御殿場で低い値が示されたことから、硝酸イオンは、生育場所の水温の違いがあらわれているのかもしれない (図 2)。糖度に関しては遺伝的な要因が大きいと考えられるものの、明確な原因はわからなかった。ただし、糖度に関しては、糖度の値が最も高かった個体と、低かった個体は、審査員の食味 (「うま味」) 検査の結果と完全一致していた。今回のこの重要な結果から、糖度が 3 を超える個体はうま味 (=甘味) が強い個体の可能性があると考えられた。そこで品評会での審査において、以下の新提案を行いたい。事前の糖度計測定の結果が 3 を超えたもの (あるいは 3 を超えた個体の上位数本分) に限り、食味検査を実施する。そのうえで、味専用の賞をあらたに設け評価する。というものである。

わさび品評会においては現在、外観を重視するため、最終審査に残る品種は常に同じであり、味に個性は感じられない。しかしながら、全国各地に個性的な味のするわさび個体も存在しており、こうした多様性が活用されているとは言い難い現状となっている。そこで、本研究の成果を用いて、上記のとおり今回提案したような、味を重視する賞を設けることで、外観では選ばれなかったわさびが注目され、衰退の一途をたどっている全国各地の産地の価値が見直されればと考えている。消費者側も、付加価値がつくことで選ぶ楽しさも増え、「辛いだけ」のワサビのイメージの脱却も望めるのではないだろうか。早ければ再来年度より、糖度計を用いた味だけで勝負する賞の確立を目指している。

### 産地×糖

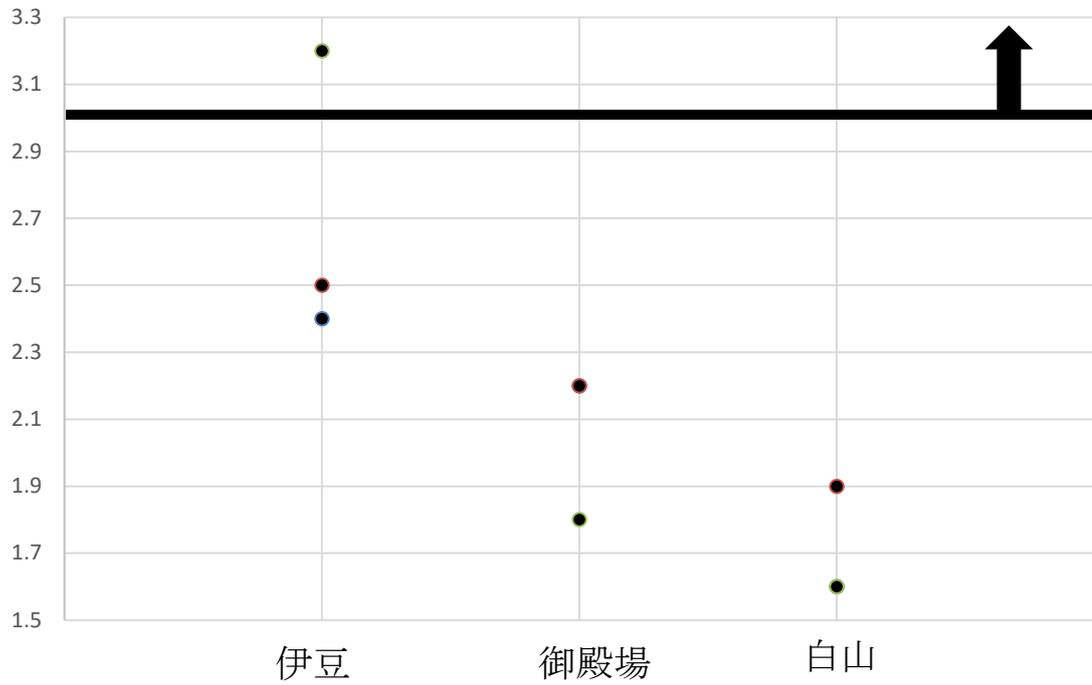


図1. 産地ごとの糖度.

### 産地×NO<sup>3-</sup>(硝酸イオン)

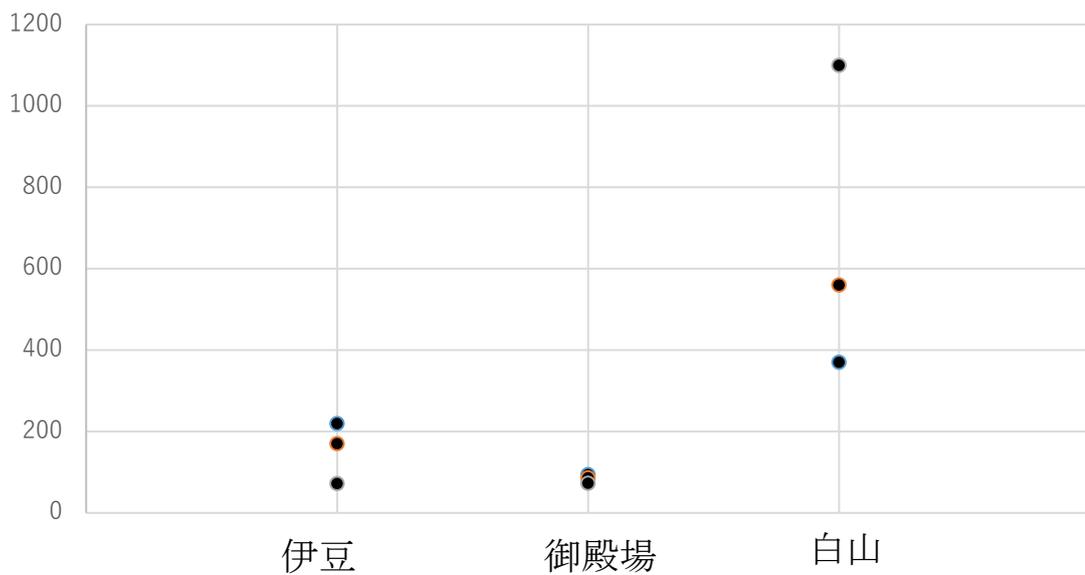


図2. 産地ごとの硝酸イオン

### 共同研究をすすめるうえでの反省点

研究協議をする時間が限られていた点が反省点である。

**共同研究の成果のうち、特に、以下の 4 点についての達成度をそれぞれ簡潔に記述してください。**

— PI 経験への貢献度（申請者が PI として、共同研究の役割分担を適切におこない、共同研究者を取りまとめながら、研究を実施することができたか。）

PI としては、何年も採択して頂いていることもあり、時期などの見極めができるようになったと自覚している。

— 共同研究の学術的価値（共同研究の学術的価値が高く、独創性があったかどうか。）

本課題は、あくまでも実用化を目指す研究であるため、海外の著名な学術論文に掲載できる内容ではないことは最初から認識している。ただし、メディアからの注目度も高く、社会的な期待度は高い。ワサビでは誰も実施してこなかった試みであるという点は主張したい。

— 共同研究実施者の妥当性（若手女性研究者の研究力が向上したか。）

本共同研究を通じて、独自の課題を見つけ、ワサビで新たな取り組みを始めたと聞いている。課題を見つけ、遂行するという点で、あらたな可能性が見いだされ、今後は期待できる。

— 共同研究の地域貢献性（共同研究によって、地域活性化ができたか。）

岐阜県において、新たなワサビ研究者を増やせたという点は大きいと考えている。岐阜県は水がきれい栽培可能な地域も存在する。岐阜大学と岐阜女子大学でワサビ研究に携わる学生を増やすことで、将来的にも地域に還元できる人材を育てることができるだろう。

### この連携型共同研究の成果に関する研究発表・報告等

山根京子、小林恵子： ワサビの辛さを低減させる調味料調査. 山葵連合会報（印刷中）

### その他（特記すべき事項など）

・本課題は、ワサビ関係者から高い関心を得ている。10 月に行われるワサビ全国生産者大会での講演を行う予定であり、早ければ来年度から、ワサビ品評会において、味を重視した新しい賞の設立を目指している。

・NHK E テレ 『天才てれびくん YOU』において、本課題に関連し、ワサビの辛味と味に関する情報を提供した。専門家として紹介される予定である（放送時期は未定）。

文部科学省科学技術人材育成費補助事業  
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」

2019（令和元）年度 連携型共同研究助成報告書（岐阜大学用）

**研究代表者**

ふりがな	こやままき
氏名	小山真紀
所属	流域圏科学研究センター
職名	准教授
E-mail	maki_k@gifu-u.ac.jp
電話番号	058-293-2441

**研究課題名**

ぎふ災害アーカイブの構築

**共同研究者名**（氏名、所属機関、部局、職名、性別）

井上透，岐阜女子大学，デジタルアーカイブ研究所，所長，男性

**研究の目的**

防災・減災の観点から，過去に起きた災害の記録は，次なる災害の備えを行う上で，非常に有用な情報である．よって，地域防災を推進する上で，災害アーカイブは非常に有用なツールとなり得る．しかしながら，岐阜県内における災害資料は，アクセス可能なアーカイブとして整理されたものはそれほど多くはない．しかも，数少ないアーカイブも，位置情報や撮影日などの統一的なメタデータの付与がされていないうえ，二次利用のガイドラインも存在しない．

このような現状を受け，岐阜県においても，地域で防災活動を行っている有志によって，災害アーカイブの構築と活用に向けた機運が高まりつつある．効果的な災害アーカイブとは，データが継続的に収集され，収集したデータが広く活用できる形式で保存され（付与すべきメタデータの整理と情報付与，ガイドラインの整理などを含む），オンラインを通じて，オフラインでもそのデータが継続的に活用し続けられるようなものである．本研究では，

主として岐阜県内の災害を対象として、このような効果的な災害アーカイブの構築、活用の形を提案することを目指すものである。本助成では、2年間をかけて、①地域における防災ワークショップ形式でのデータ収集手法の構築（継続的かつ多地域でのデータ収集と、データの権利処理）と②開かれたデジタルアーカイブに向けた環境整備の2点を進めることを目指している。

## 目的達成度および研究の成果と課題

本年度は、災害アーカイブぎふのガイドラインを試作し、データの扱いについて整理を行った。地域住民からのデータの収集方法として、ワークショップの実施を伴う収集と活用方法を確立した（以降、災害アーカイブワークショップと呼称）。災害アーカイブワークショップでは、事前に主催者の協力の下、位置情報の付与された被害当時の写真と、同場所、同アングルの現在の写真の対を収集する。資料は原則として、Creative Commons 4.0 表示-非営利-継承ライセンスとして提供することに承諾いただけたものを収集する。これらの資料をデジタル化して、データベースへ投入する。

今回提案するワークショッププログラムは以下のような構成となり、概ね2時間程度を要する。1班あたりの人数は6~8人である。ワークショップを実施するときの地域の単位はおおむね小学校区レベルを想定している。

①趣旨説明（5分）

②自己紹介とアイスブレイク（5分）

③渡された災害時の写真と現代の写真について、災害時の写真がそれぞれ現代のどの写真と対になるかを探し、写真セットに番号をつける（10分）

④写真の対に番号をつけ、白地図上の該当する場所に写真セット番号を書く（10分）

⑤グループ内で災害時の状況を知っている人は、当時の状況がどのようなであったかを紹介する。このとき、語られた内容をふせんに記し、地図上の、その内容が起きた場所付近に貼る（30分）

⑥ハザードマップを用いて白地図上に災害危険度を描き示す（10分）

⑦当時のような状況が、今発生したらどうなるかについて話し合う（30分）

⑧各班の話し合った内容を発表し共有する（20分）

1班あたりの準備物は次のとおりである。場所のわかっている災害時の写真と同アングルから撮影した現代の写真のセット（5~10セット）、人数分のサインペン、付箋、模造紙1枚、ハザードマップ1セット、白地図、カラーマジック1セット。

本年度は、以下の3箇所で開催された災害アーカイブワークショップを行い、現在までにデータベースに投入したデータは表1のとおりである。

・日時：2020/2/2 13:30-15:30

場所：多治見市根本交流センター

対象災害：平成 23 年(2011 年)9 月豪雨

主催者：多治見市根本交流センター

参加者：35 名

- 日時：2020/2/15 13:30-15:30

場所：大垣市墨俣地域事務所

対象災害：9.12 水害（1976 年安八水害）

主催者：墨俣地区防災士会

参加者：52 名

- 日時：2020/2/23 13:00-15:00

場所：郡上市大和西小学校

対象災害：昭和 56 年(1981 年)7 月 13, 14 日集中豪雨

主催者：大和西小学校 PTA

参加者：28 名（うち、子ども 12 名）

表 1. データ投入状況

災害名	市町村	投入済み		未投入
		災害時写真	現在写真	災害時写真
飛騨川バス転落事故(1968年)	川辺町	78	7	0
平成23年9月豪雨	多治見市	13	13	0
9.12水害(1976年)	大垣市	14	10	0
荒崎水害(2002年)	大垣市	5	0	0
昭和56年7月13, 14日集中豪雨	郡上市	6	6	0
水害	郡上市	18	0	0
平成30年7月豪雨	関市	0	0	126
濃尾地震(1891年)	岐阜市他	0	0	32

上述のとおり、本研究は2年計画である。本年度に、災害アーカイブぎふの基本構成およびデータの収集と活用のスキームが整理されてきたこと、次年度に、災害アーカイブワークショップの展開と効果検証を予定している。現在までの進捗は、ほぼ予定通りである。本年度の研究を通じて、継続的な運営体制が課題となっていることから、次年度は、本ワークショップの活用ニーズのある団体などへ、ワークショップの運営方法を含めた展開と持続性の効果検証を行い、災害アーカイブぎふの本格運用を目指す。

## 共同研究をすすめるうえでの反省点

準備等がかなり泥縄になってしまったため、十分な打ち合わせや情報共有が難しい状況があった。次年度は、密な情報共有を進めながら、将来的な新展開に発展できればと考えている。

### 共同研究の成果のうち、特に、以下の 4 点についての達成度をそれぞれ簡潔に記述してください。

- PI 経験への貢献度（申請者が PI として、共同研究の役割分担を適切におこない、共同研究者を取りまとめながら、研究を実施することができたか。）

申請者自身はアーカイブについては専門外であったが、共同研究によって申請者自身に不足する知識を補い、参加型のアーカイブプラットフォームの構築を実現できたことは、PI 経験に大きく貢献したと考える。

- 共同研究の学術的価値（共同研究の学術的価値が高く、独創性があったかどうか。）

災害アーカイブの分野では、収集したデータの権利処理ができていなかったり、二次使用の許諾が取れていなかったりするために、データの二次活用が課題となっている。また、権利処理ができていたとしても、どのように利用するかまで考慮され、利用法まで提案され、一般でも容易に利用できるようなアーカイブは存在していない。本研究は利用と収集を一体化した収集方法の提案、資料がある程度集まれば、参加者が資料を持っていなくても活用できる方法の提案、参加者と協働してこれを可能にするプラットフォームを実現するものであり、新規性・独創性の高いものとなっている。

- 共同研究実施者の妥当性（若手女性研究者の研究力が向上したか。）

共同研究者の井上氏は、アーカイブ分野での第一人者であり、研究をすすめる上で、氏のこれまでの知見について学ぶ機会を得られたことは、本研究を進める上で非常に有効であったと考える。

- 共同研究の地域貢献性（共同研究によって、地域活性化ができたか。）

本研究において提案している災害アーカイブワークショップは、地域の災害の歴史や当時のその地域の暮らしを知り、現在のまちと比較することで災害危険度を自分ごととして認識することを促すものであり、地域防災上の効果が高い。今回実施した 3 箇

所の地域でも、非常に好評で、繰り返し実施したいという声が聞かれている。また、過去に災害を経験した大人と、それを知らない子どもと一緒にワークショップを行うことで、知識と経験の継承が行われる効果も確認された。

### **この連携型共同研究の成果に関する研究発表・報告等**

- ・小山真紀・柴山明寛・平岡守・荒川宏・伊藤三枝子・井上透・村岡治道：防災ワークショップを活用した災害写真の収集とデータベース化:災害アーカイブぎふの取り組みから、デジタルアーカイブ学会第4回研究大会，2020年4月25-26日開催予定

### **その他（特記すべき事項など）**

本年度の研究活動は、岐阜新聞（「災害の記憶写真で継承」2020年2月1日 [https://www.gifu-np.co.jp/news/20200201/20200201-211650.html?fbclid=IwAR2u8IpkOAsc-4T6YMMjiYgNh5krQd7z6ihc-gHzzIQfl3uev0\\_o3lRqUSc](https://www.gifu-np.co.jp/news/20200201/20200201-211650.html?fbclid=IwAR2u8IpkOAsc-4T6YMMjiYgNh5krQd7z6ihc-gHzzIQfl3uev0_o3lRqUSc) および、「災害写真，教訓を回顧」2020年2月4日東濃版）で紹介されたほか、郡上のケーブルテレビ局で報道されている。

文部科学省科学技術人材育成費補助事業  
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」

令和元年度 連携型共同研究助成報告書（岐阜薬科大学用）

研究代表者

ふりがな	ながさわ ひでこ
氏名	永澤 秀子
所属	岐阜薬科大学
職名	教授
E-mail	hnagasawa@gifu-pu.ac.jp
電話番号	058-230-8112

研究課題名

子宮頸がん治療法の向上を目指す放射線/化学療法増感剤の開発研究

共同研究者名（氏名、所属機関、部局、職名、性別）

辻 美恵子、岐阜薬大 薬化学 助教 女

鈴木 紀子 岐阜大学医学部 産婦人科 学術研究補佐員 女

森 美奈子 岐阜大学医学部 産婦人科 医員 女

上田 陽子 岐阜大学医学部 産婦人科 医員/大学院生 女

森重 健一郎 岐阜大学医学部 産婦人科 教授 男

研究の目的

子宮頸がんは手術と放射線治療が主たる治療法で、これらにプラチナ製剤などの化学療法が併用されることもある。これらの治療に対する抵抗性の獲得が、重要な問題になっている。その機構は、薬剤耐性の獲得と、がん微小環境におけるストレスに対する適応系の獲得に大別される。本研究は、後者のがん微小環境のストレス応答系を修飾する治療戦略に基づき、治療増感剤の開発を目的とする。そこで、放射線やプラチナ製剤の殺細胞作用における主要な活性種である、活性酸素（ROS）による細胞障害に注目した。もともと腫瘍細胞は正常細胞に比べて酸化ストレスが亢進しているため、抗酸化ストレス系を発達させてバランスをとって生存している。そこで、このバランスを崩すために、細胞の抗酸化ストレス系であるグルタチオンやその合成系を阻害するまたは、ROSの放出を促進するような薬剤を開発し、併用することを計画した。

## 目的達成度および研究の成果と課題

フェロトーシスは RAS 遺伝子変異細胞特異的な鉄依存的な酸化ストレスによる細胞死として見出された新しい細胞死のひとつである。抗マラリア薬のアルテミシニン誘導体がフェロトーシス誘導作用を示す報告されていることから、RAS 変異細胞株の HT1080 及び RAS 変異を持たない子宮頸がん由来細胞株 HeLa 細胞に対する Artesunate の細胞毒性とその機構について調べた。Artesunate は HT1080 に対して選択的に毒性を示し、鉄キレート剤によってその毒性が消失したことから、フェロトーシスを誘導したことが分かった。一方、HeLa 細胞には毒性を示さなかった。独自に開発したマルチカラー鉄(II)プローブによるライブイメージングを行ったところ、HT1080 細胞において、Artesunate 投与後 5 時間にリソソームと小胞体で二価鉄が有意に上昇し、8 時間後に過酸化脂質が増加していた。一方、HeLa 細胞では有意な変化は認められなかった。以上から Artesunate は RAS 変異細胞特異的に二価鉄を誘導して酸化ストレスを引き起こし細胞死(フェロトーシス)に導くことが明らかになった。

抗酸化ストレス系を抑制して細胞死を引き起こすと考えられるピペロングミンを低酸素環境特異的に活性化するプロドラッグに変換することを計画し、その中間体の合成までを達成した。

今後は、種々の子宮頸がん細胞株において、Artesunate 感受性を調べ、RAS 変異以外の治療抵抗性因子についても検討し、酸化ストレス耐性解除による難治性子宮頸がんの治療増感方法を確立したい。

## 共同研究をすすめるうえでの反省点

医学部では、臨床と研究のエフォートの配分が難しく、厳しい環境で実験時間を捻出している。薬学部の研究室とは環境が大きく異なるため、実験についても分担してできるだけ協力して研究を進捗させる工夫が必要だと感じた。そのため、今後はもっと頻繁にミーティングを行う必要がある。

## 共同研究の成果のうち、特に、以下の 4 点についての達成度をそれぞれ簡潔に記述してください。

- PI 経験への貢献度 (申請者が PI として、共同研究の役割分担を適切におこない、共同研究者を取りまとめながら、研究を実施することできたか。)共同研究者との情報交換により、研究上の課題を把握し、問題解決のための新たな実験計画の立案等に貢献した。有意義な共同研究を展開できているので、今後は研究成果の論文化を行いたい。
- 共同研究の学術的価値 (共同研究の学術的価値が高く、独創性があったかどうか。)

がん微小環境における酸化ストレス-抗酸化系のバランス崩壊に基づくがん治療増感を  
目指す創薬研究は独創的な取り組みである。独自に開発した二価鉄イメージング方法  
を基盤として、難治性がん細胞の鉄動態と酸化ストレスを解析する研究戦略は他に類  
を見ない。また抗マラリア薬等を利用したがん治療増感研究によって、既存薬の新たな  
適用性を拡大（ドラッグリポジショニング）できる可能性があり、医療への貢献も見込  
まれる。

— 共同研究実施者の妥当性（若手女性研究者の研究力が向上したか。）

基礎と臨床のそれぞれの背景を生かした有意義な情報交換によって、有益な研究協力体  
制が構築できている。産婦人科との共同研究によって、あらたな創薬課題を創出するこ  
うできた。

— 共同研究の地域貢献性（共同研究によって、地域活性化ができたか。）

本研究は、産婦人科と薬化学研究室との共同研究によって、難治性子宮頸がんの新しい治  
療法を開発しようとする取り組みであり、岐阜市を中心とする地域医療への貢献が見込ま  
れる。

### **この連携型共同研究の成果に関する研究発表・報告等**

学会報告

1. 卵巣癌におけるフェロトキシ誘導剤アルテスネートの効果の検討

○小池 大我、竹中 基記、鈴木 紀子、森 美奈子、上田 陽子、平山 祐、永澤 秀子、森重  
健一郎、日本酸化ストレス学会東海支部第8回学術集会、岐阜、2020年2月

2. Artesunate 及び Artemisinin 誘導体の鉄依存性抗腫瘍効果

○上田 陽子、鈴木 紀子、平山 祐、永澤 秀子、森重 健一郎、日本酸化ストレス学会  
東海支部第8回学術集会、岐阜、2020年2月

### **その他（特記すべき事項など）**

なし

文部科学省科学技術人材育成費補助事業  
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」

令和元年度 連携型共同研究助成報告書（岐阜薬科大学用）

**研究代表者**

ふりがな	たけとみ りあ
氏名	武富 利亜
所属	岐阜薬科大学英語研究室
職名	教授
E-mail	taketomi@gifu-pu.ac.jp
電話番号	058-237-8583

**研究課題名**

岐阜県の小学校英語の現状と課題に関する研究

**共同研究者名**（氏名、所属機関、部局、職名、性別）

岐阜大学 講師 リー・ジャクソン・クーン・イエッツ

**研究の目的**

小学校英語教育においては、2008年より小学校の外国語活動がはじまり、2011年には小学校5年生から英語が必修化された。一昨年から岐阜県の小学校の英語授業を参観し、インタビューを行い、データを収集してきた。そこで、特に教員は、「英語の発音」に自信がないことが明らかになった。2020年には、英語は三年生から必修となり、五年生から成績をつける正式科目となる。教員のストレスの軽減を図るためにも、早急に「発音」の改善をはかりたい。「発音」は、「リスニング力」とも直結すると言われていることから調査は、リスニング力の測定も同時に行う。「発音矯正プログラム」を半年間行った後、発音とリスニングの習熟度と教員のストレスの相関関係を調べる。

## 目的達成度および研究の成果と課題

- ▶ 本研究は、平成 31 年度、市費の研究助成を得て、プロジェクトの一環として、8 月または、9 月より実施する予定であった。しかし、共同研究者である 1 名の先生は、出産（特に危険な状態になり、一年間の休職）で、もう 1 名は、3 月 31 日まで病欠となり、研究が一時中断した。
- ▶ 新たに、12 月より岐阜大学イングリッシュ・センター講師、リー・ジャクソン・クーン・イェッツ先生が加わり、これから実践していく予定。
- ▶ しかし、ボランティアで英語学習指導として、二年間小学校とかかわり、問題点が明らかとなった。それは、**小学校の先生は、新たに習得しないといけない課題（英語、道徳、コンピュータ、など）が多すぎる。結果、学習時間がなく、技術として英語などのスキルは、身に着くまでに至っていない。改善策として以下の二点があげられる：**
  1. 強制的に学習する時間を設ける。
  2. その分野の専門家と提携し、小学校から英語専門、コンピュータ専門の先生を常勤させる。

## 共同研究をすすめるうえでの反省点

共同研究者がいてはじめて研究が遂行されるという点で研究が中断したことは、まことに残念である。また、小学校へは頻繁に足を運ぶなどして、信頼関係を構築することも大切であることを感じた。二年間のボランティア活動のおかげで、今後は、研究をスムーズに進められることを期待している。

## 共同研究の成果のうち、特に、以下の 4 点についての達成度をそれぞれ簡潔に記述してください。

- PI 経験への貢献度（申請者が PI として、共同研究の役割分担を適切におこない、共同研究者を取りまとめながら、研究を実施することができたか。）  
今後、リー先生と話を密にはかりながら、分担をはっきりさせて進める方針。
- 共同研究の学術的価値（共同研究の学術的価値が高く、独創性があったかどうか。）  
小学校における英語教育の現場に自らも携わることで、「発音」、「リスニング」、「スピーキング」のスキル不足が明らかとなった。この点を改善することで小学校教員の英語に対する苦手意識をどのくらい軽減することができるか、プログラムを構築するという点では、学術的価値は高く、独創性があると言えるのではないだろうか。
- 共同研究実施者の妥当性（若手女性研究者の研究力が向上したか。）  
その点は、上記など諸事情で妥当性は、現時点では図ることができない。しかし、岐阜

女子大学の共同研究者は、来年度より復職予定であり、今後その成果の報告ができると期待している。

— 共同研究の地域貢献性（共同研究によって、地域活性化ができたか。）

本研究は、英語教育に直接かかわっており、小学校の英語教育に貢献するものである。よって、将来的に地域活性に直結すると考えている。

**この連携型共同研究の成果に関する研究発表・報告等**

来年度には、本研究の成果は国際・国内学会発表及び論文発表を予定している。

**その他（特記すべき事項など）**

文部科学省科学技術人材育成費補助事業  
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」

2019 年度 連携型共同研究助成報告書

**研究代表者**

大崎 友記子（岐阜女子大学家政学部生活科学科住居学専攻、教授、女性）

**研究課題名**

家政学からみた防災のあり方—学生の意識調査より—

**共同研究者名**（氏名、所属機関、部局、職名、性別）

小山 真紀（岐阜大学流域圏科学研究センター、准教授、女性）

齋藤 益美（岐阜女子大学家政学部生活科学科生活科学専攻、講師、女性）

森田 実沙（岐阜女子大学家政学部生活科学科住居学専攻、講師、女性）

大場 君枝（岐阜女子大学家政学部健康栄養学科、助教、女性）

**研究の目的**

昨今、激甚災害に指定される自然災害が各地で相次いでおり、教育の現場においても実践的な防災教育の充実が求められている。

いつ起こるかわからない災害だからこそ、災害の基本知識を習得し平常時での備えや、災害発生時の環境下においても生活を営むことができる人材が必要とされている。そして進んで他の人々や地域の安全を支えられるよう、家政学の専門分野の知識を活用し、いざという時に自ら考えて行動できる生活力・人間力を持つ人材育成が必要と考える。

そこで、生活全般を扱い生活者の視点を持つ家政学教育の衣・食・住の各分野を学んでいる学生を対象として、防災・減災について、どのような意識を持っているのか、また実行していることを明らかにするために、アンケート調査を実施した。その結果を受けて、今後の家政学教育プログラムに反映させていきたいと考えている。

**目的達成度および研究の成果と課題**

本研究では、web によるアンケートを実施することで、岐阜女子大学の家政学部に所属する1～4年生までの学生に幅広くアンケート協力を得られたことが、目的の達成度を上げることにつながった。また、家政学部に設置された衣・食・住をそれぞれ専門に学ぶ学生が、学んでいる専門領域によって防災・減災への意識の差異が結果として得られたことは、大きな研究成果となった。そしてアンケート回答者の9割が、何らかの支援活動をおこなう意欲があるとの結果が得られ、地域支援活動を見据えた家政学教育プログラムへの期待も高まった。

しかし一方で、防災、災害に対する意識が非常に低く、基本的な知識も不足していることが明らかになった。今後の課題として、大学教育の中での基本的な防災教育の必要性と家政学教育として、衣・食・住の専門分野が連携した防災教育の必要性が挙げられる。家政学を通して防災教育を学び、災害時には避難所等で衣・食・住を含む生活全体についてサポートできる人材の育成につなげたい。

### **共同研究をすすめるうえでの反省点**

共同研究者が集まって、定期的に打ち合わせをする時間がなかなか取れず、多くは各専門領域内で進めてしまったことが反省点として挙げられる。また、防災に対する実践的な活動の実施が困難になったことで、より共同研究への参画が狭められてしまったと感じている。

### **共同研究の成果のうち、特に、以下の4点についての達成度をそれぞれ簡潔に記述してください。**

— PI 経験への貢献度（申請者が PI として、共同研究の役割分担を適切におこない、共同研究者を取りまとめながら、研究を実施することができたか。）

先の反省点にも記載したが、各専門領域に分かれて進めることはできたので、共同研究の役割分担は適切におこなわれたが、共同研究者を取りまとめることにおいては、PI としての力量不足を感じている。

— 共同研究の学術的価値（共同研究の学術的価値が高く、独創性があったかどうか。）

実践科学として家政学を総合的に捉える必要がある研究の手掛かりを見つけることはできたが、学術的などころまで達することができなかった。

— 共同研究実施者の妥当性（若手女性研究者の研究力が向上したか。）

家政学の各領域と防災の専門家が集まって、防災を家政学の衣・食・住の分野から研究することができ、お互いの領域への理解が深まった。

— 共同研究の地域貢献性（共同研究によって、地域活性化ができたか。）

防災は地域との協力が必要不可欠なので、今回の研究を踏まえて、今後は地域防災等に貢献していきたい。

### **この連携型共同研究の成果に関する研究発表・報告等**

現在、本研究の報告書を作成中である。

文部科学省科学技術人材育成費補助事業  
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」

2019年度 連携型共同研究助成報告書

**研究代表者**

齋藤陽子（岐阜女子大学文化創造学部・准教授・女性）

**研究課題名**

教育実践の「知の増殖のサイクル」の究明

**共同研究者名**

興戸律子（岐阜大学教育学部附属学習協創開発研究センター・助教・女性）

加藤直樹（岐阜大学教育学部附属学習協創開発研究センター・教授・男性）

横山隆光（岐阜女子大学文化創造学部・教授・男性）

**研究の目的**

これまでの教育において、多くの教育実践がなされ、今日の教育が行われている。しかし、本当に過去の教育実践は、今の教育に対して有効に活用されているのであろうか。また、活用されているのであれば、どのように活用されており、そのエビデンスは、何であるのか、この点に関して、解明されていないことが多い。「学力の向上」においては、小学校の実践として、沖縄県での2校の実践事例がある。その実践では、過去の教育実践の「くり返しの学習指導」の成果や、「発問と反応時間の関係」、「言葉の指導」などの実践を活用して、今日的教育の課題である「学力向上」を実現した。では、岐阜県においては、どのような現状であるのか。過去の教育実践は現代の教育課題解決に対して活用はなされているのか。このことについて、究明することを本研究の目的とする。

岐阜県における過去の教育実践の現代的教育課題解決への適応の状況を究明するために、岐阜県内の小学校の教育実践記録を収集し、どのような実践がなされており、そこにはこれまでの教育実践が活用されているのか、教育課題を何と捉えて実践をしているかなどを分析していく。この分析から、岐阜県内における教育実践の「知の増殖のサイクル」が明らかになる。

**目的達成度および研究の成果と課題**

**【目的達成度】**

「岐阜県における過去の教育実践の現代的教育課題解決への適応の状況を究明」の目的達成のために今年度は、研究推進校に絞り、教育実践の分析や過去の教育実践の活用度の分析を事例的に進めることとした。

そこで、岐阜県内小学校、特に研究推進校より教育実践記録（主に研究紀要）を収集し、デジタルアーカイブ化し、保存した。デジタルアーカイブした教育実践記録より教育実践の実態調査を行った。その方法として、研究主題の明確化、実践キーワードの抽出、過去の研究の参考度合いの分析を実施した。その結果、一定程度ではあるが、過去の教育実践を活用していることが見えてきた。このことより、「知のサイクル」は行われていることの示唆を得ることができた。

したがって、今年度の事例的調査・分析の目的達成度としては、概ね 80%の達成度と考える。

## 【研究の成果】

### <研究方法>

1. 岐阜県内小学校における過去の教育実践資料のデジタルアーカイブ化
2. 教育実践の実態調査
  - (1) 2011年度と2017年度の研究紀要を対象
  - (2) 研究主題（教育の課題の明確化）
  - (3) 研究紀要のテキストマイニング
  - (4) 現代の教育課題の解決策に、過去の教育実践の知見が活用されているか
  - (5) 過去の知見が活用され、現代の教育課題解決に向っているか評価

### <結果と考察>

研究テーマが明確になり、その年の教育課題が明確になった。さらに、研究紀要のテキストマイニングをした結果、「学び」の言葉が多いが、年度により「学び」と繋がる言葉に違いがあることが分かった（図1・2）。この違いは、教育課題と結びつくものであった。

明らかとなった教育課題は、過去の知を活かし解決に向っているか評価した結果、過去（前年度）の研究の成果と課題が明記はされており、その課題より、その年度の研究テーマに繋がっていることから、過去の知を活かしていることは見えてきた。加えて、参考文献の記載があり、その中に研究紀要の記載があるかを10年間分（2010～2019年度）調査した結果、2014年度から、どの教科・領域においても参考文献の記載があることが明らかとなった（図3・4）。



しかし、これらの「知の活用」は、結果の知を活用しているにすぎず、その中で何が・どのように行われていたのかの「プロセス」の知は活用されていない。それ以前に、「プロセス」についての掲載があまりなく、デジタルアーカイブをすることができてきない。

これらのことより、

- 過去の教育実践が現代の教育実践に適応はされている
- しかし、教育課題解決へ結びついているかは、現段階では、明言できない
- 実践のプロセスの知の保管はなされていない

との結果を得ることができた。

#### <課題・今後の展望>

本研究の目的である「岐阜県における過去の教育実践の現代的教育課題解決への適応の状況を究明」のために、今年度は研究推進校に絞り、教育実践の分析や過去の教育実践の活用度の分析を事例的に進めてきたが、実態等は明確になったものの、教育課題解決に結びついているかまでの評価を行うことができていない。この点に課題が残っている。このため、目的達成度を概ね80%としている。

さらに、「岐阜県内における教育実践の「知の増殖のサイクル」が明らかになる」ことまでを考えた場合、先に述べた課題と事例的な調査に留まっていることから、調査対象校数の不足が大きな課題として残っている。

これらの課題への対応のために、調査対象校の増加、教育実践のプロセスの調査・デジタルアーカイブ化が必要不可欠であり、今後行っていきたいと考える。さらには、この知の増殖サイクルを教員養成へ適応し、教員としての資質・能力の育成の一助となるように考えていくものである。

#### 共同研究をすすめるうえでの反省点

- 共同研究者との研究当初の協議は行えたものの、その後の協議の場を設定することがなかなか難しかった
- ⇒各所属機関を人が移動することは時間を要するため、解決策として、テレビ会議システムを活用した協議の場を設定することが考えられる。

**共同研究の成果のうち、特に、以下の4点についての達成度をそれぞれ簡潔に記述してください。**

- PI 経験への貢献度（申請者がPIとして、共同研究の役割分担を適切におこない、共同研究者を取りまとめながら、研究を実施することができたか。）
- 共同研究者を取りまとめながら、研究を実施することはなかなか困難であった。
- 共同研究者一人一人に適確・明確な役割分担を行うことができなかった
- 研究を遂行しながら、役割分担として必要なことや時期などを考えることはでき、PI

の役割への理解は深化した

- 共同研究の学術的価値（共同研究の学術的価値が高く，独創性があったかどうか。）
  - 「岐阜県内における教育実践の知の増殖サイクル」の発想が，独創的であるとする
  - 「岐阜県内における教育実践の知の増殖サイクル」が究明されることにより，教員養成の教育課程に活用でき，社会に優秀な人材を輩出することに貢献できると考えられ，学術的価値が高いと判断している
  
- 共同研究実施者の妥当性（若手女性研究者の研究力が向上したか。）
  - 研究領域における若手女性研究者とのコラボレーションがなかなか難しく，女性研究者との共同研究に留まっている。
  - この点大きな課題と感じており，研究領域を同じくする若手との人的ネットワーク構築を行っていきたい
  - しかしながら，研究代表者の筆者自身が，女性研究者であり，他の共同研究者よりは若手である
  - そのことから，他の3名の共同研究者より，研究の方法や得た結果の捉え等についての確な助言をいただき，研究の視点・考え方を深化することができた
  
- 共同研究の地域貢献性（共同研究によって，地域活性化ができたか。）
  - 「岐阜県内における教育実践の知の増殖サイクル」が究明されることにより，教員養成の教育課程に活用することにより，優秀な人材を地域社会に輩出できると考えており，そのことにより，地域活性化に繋がるものと考えている
  - しかしながら，現段階での研究進捗状況においては，地域活性化までの貢献はできていないため，今後の課題である

#### **この連携型共同研究の成果に関する研究発表・報告等**

- 日本教育情報学会第35回年会における口頭発表  
タイトル：教育実践の「知の増殖型サイクル」の究明  
～過去の教育実践資料のデジタルアーカイブ化と分析～
- 第88回タブレットPC教育利用研究会における口頭発表  
タイトル：教育実践の「知の増殖型サイクル」の究明  
～過去の教育実践資料のデジタルアーカイブ化の構成と分析～

#### **その他（特記すべき事項など）**

特になし

部科学省科学技術人材育成費補助事業  
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」

2019（令和元）年度 連携型共同研究助成報告書（アピ株式会社用）

研究代表者

ふりがな	もりもと ともみ
氏名	森本 智美
所属	戦略開発本部 製品開発部 原料開発課
職名	主任
E-mail	morimoto-tomomi@api3838.co.jp
電話番号	058-232-0838

研究課題名

蜜源植物の異なるハチミツの乳酸菌増殖促進作用の評価

共同研究者名（氏名、所属機関、部局、職名、性別）

田中 香お里：岐阜大学大学院 連合創薬医療情報研究科、教授、女性  
科学研究基盤センター 嫌気性菌研究分野

佐溝（檜本）恭子：アピ株式会社 戦略開発本部 基礎・応用研究部 安全性研究課、  
主任、女性

研究の目的

腸内細菌叢は、ヒトの健康や疾病と深く関わっているとされており、腸内細菌叢を健康に保つためのプロバイオティクスやプレバイオティクスにも関心が集まっている。

ハチミツの構成成分の 80%以上は糖質で、そのほとんどは果糖、ブドウ糖であるが、生体内の消化酵素では分解されず、腸内細菌によって資化されるオリゴ糖も含有している。また、糖質以外にも、ビタミン、ミネラル、アミノ酸、有機酸などが含まれており、有機酸としては、乳酸菌の増殖を促進するとされるグルコン酸の含有量が高い。

これらのことから、一般的には、抗菌活性を有するとされるハチミツであるが、腸内細菌のうち宿主にとって有用な細菌である乳酸菌に対しては、抗菌作用ではなく、増殖促進作用を示すことが考えられる。そこで、本研究では、ハチミツが乳酸菌を中心とした腸内細菌の増殖に与える影響を評価する。

## 目的達成度および研究の成果と課題

主要な目的であった蜜源の異なるハチミツが乳酸菌をはじめとする嫌気性菌の増殖に及ぼす影響に関するデータを取得することができた。蜜源の異なるハチミツは、細菌の増殖に対して異なる影響を及ぼすことが明らかとなった。一般にオリゴ糖は、乳酸菌に対する増殖促進作用を有することが広く一般に知られている。本研究において、特定の乳酸菌に対してオリゴ糖よりも増殖促進作用の高いハチミツが存することが明らかとなった。ただし、得られた結果は *in vitro* における試験結果であるため、今後は、今回明らかとなったハチミツの乳酸菌増殖促進作用について、ヒトがハチミツを摂取した際にも同様の効果がみられるかについて検討していきたいと考えている。また、乳酸菌の増殖促進に関与する成分の同定も今後の課題となる。

### 1) ハチミツが嫌気性菌の増殖に及ぼす影響 (スクリーニング)

まず、表 1 に示した蜜源の異なる 10 種類のハチミツが約 60 種、70 株の嫌気性菌の増殖に及ぼす作用の有無についてハチミツを含有する寒天培地を用いてスクリーニングした。ここでは、*Lactobacillus* 属、*Bacteroides* 属、*Bifidobacterium* 属に対する結果を表 2 に示した。

表 1 被験試料 -2016 年産のハチミツ-

No.	ハチミツの種類(蜜源)	産地
1	百花蜜	カナダ
2	クローバー蜜	カナダ
3	ハチミツA	-
4	百花蜜	アルゼンチン
5	アカシア蜜	ハンガリー
6	百花蜜	ウクライナ
7	ハチミツB	-
8	サクランボ蜜	スペイン
9	マヌカ蜜(UMF15+)	ニュージーランド
10	アカシア蜜	中国

\*特許申請準備中のため、ハチミツ A およびハチミツ B については蜜源情報を非公開とした。



(表 2 のつづき)

	百花蜜 ウクライナ産			ハチミツ B			サクランボ蜜 スペイン産			マヌカ蜜 (UMF15+) ニュージーランド産			アカシア蜜 中国産		
	10%	5%	2.5%	10%	5%	2.5%	10%	5%	2.5%	10%	5%	2.5%	10%	5%	2.5%
<i>Lactobacillus acidophilus</i> JCM 1132	-	-	-	-	-	-	↓	-	-	↓	-	-	↓	-	-
<i>Lactobacillus brevis</i> JCM 1059	-	-	-	↑	↑	↑	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Lactobacillus casei</i> subsp. <i>casei</i> JCM 1134	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Lactobacillus fermentum</i> JCM 1173	-	-	-	↑	↑	↑	-	-	-	-	-	↑	-	-	-
<i>Lactobacillus plantarum</i> JCM 1149	-	-	↑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Lactobacillus reuteri</i> JCM 1112	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
<i>Lactobacillus salivarius</i> subsp. <i>salivarius</i> JCM 1231	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
<i>Bacteroides fragilis</i> GAI 5562	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Bacteroides fragilis</i> ATCC 25285	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Bacteroides fragilis</i> NCTC 10581	↓↓	↓↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	-	-
<i>Bacteroides fragilis</i> GAI 7955	↓	-	-	↓	-	-	↓	-	-	↓	-	-	↓	-	-
<i>Bacteroides fragilis</i> GAI 10150	↓	-	-	-	-	-	↓	-	-	-	-	-	↓	-	-
<i>Bacteroides fragilis</i> GAI 30079	↓	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Bacteroides fragilis</i> GAI 30144	↓	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Bacteroides fragilis</i> GAI 0673	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Parabacteroides distasonis</i> ATCC 8503	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Bacteroides ovatus</i> ATCC 8483	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Bacteroides thetaiotaomicron</i> ATCC 29741	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Bacteroides uniformis</i> ATCC 8492	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Bacteroides egerthii</i> ATCC 27754	↓	-	-	↓	-	-	↓	-	-	↓↓	-	-	↓↓	↓↓	-
<i>Bacteroides ureolyticus</i> NCTC 10941	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Bifidobacterium adolescentis</i> ATCC 15703	↓	-	-	ND	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Bifidobacterium bifidum</i> JCM 1255	-	-	-	-	-	-	-	↑	↑	-	-	↑	-	-	-
<i>Bifidobacterium breve</i> ATCC 15700	↓	-	-	↓	-	-	↓	-	-	↓	-	-	↓	-	-
<i>Bifidobacterium longum</i> subsp. <i>longum</i> ATCC 15707	↓	-	-	-	-	-	↓	-	-	↓	-	-	↓	-	-
<i>Bifidobacterium pseudolongum</i> ATCC 25526	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

## 2) ハチミツおよび糖の *L. fermentum* および *L. reuteri* 増殖促進作用

スクリーニングにおいてハチミツによる増殖促進作用が示唆された 2 種類の乳酸菌 *L. fermentum* (JCM 1173) および *L. reuteri* (JCM 1112) に対する作用について液体培養により確認した。4 種類のハチミツ (ハチミツ A、ハチミツ B、マヌカ蜜、アカシア蜜(中国産)) と 2 種類の液糖 (果糖ブドウ糖液糖、オリゴ糖(ラクトスクロース)) を 2 倍段階希釈して被験試料とした。

### 2-1) ハチミツおよび糖の *L. fermentum* 増殖促進作用

ハチミツ A およびハチミツ B は、*L. fermentum* に対して濃度依存的な増殖促進作用を示し、ハチミツ A がより強い増殖促進作用を示した。マヌカ蜜は、わずかに増殖促進作用を示したが、ハチミツ A やハチミツ B には及ばなかった。アカシア蜜、果糖ブドウ糖液糖およびオリゴ糖には、*L. fermentum* に対する増殖促進作用はみられなかった (図 1)。

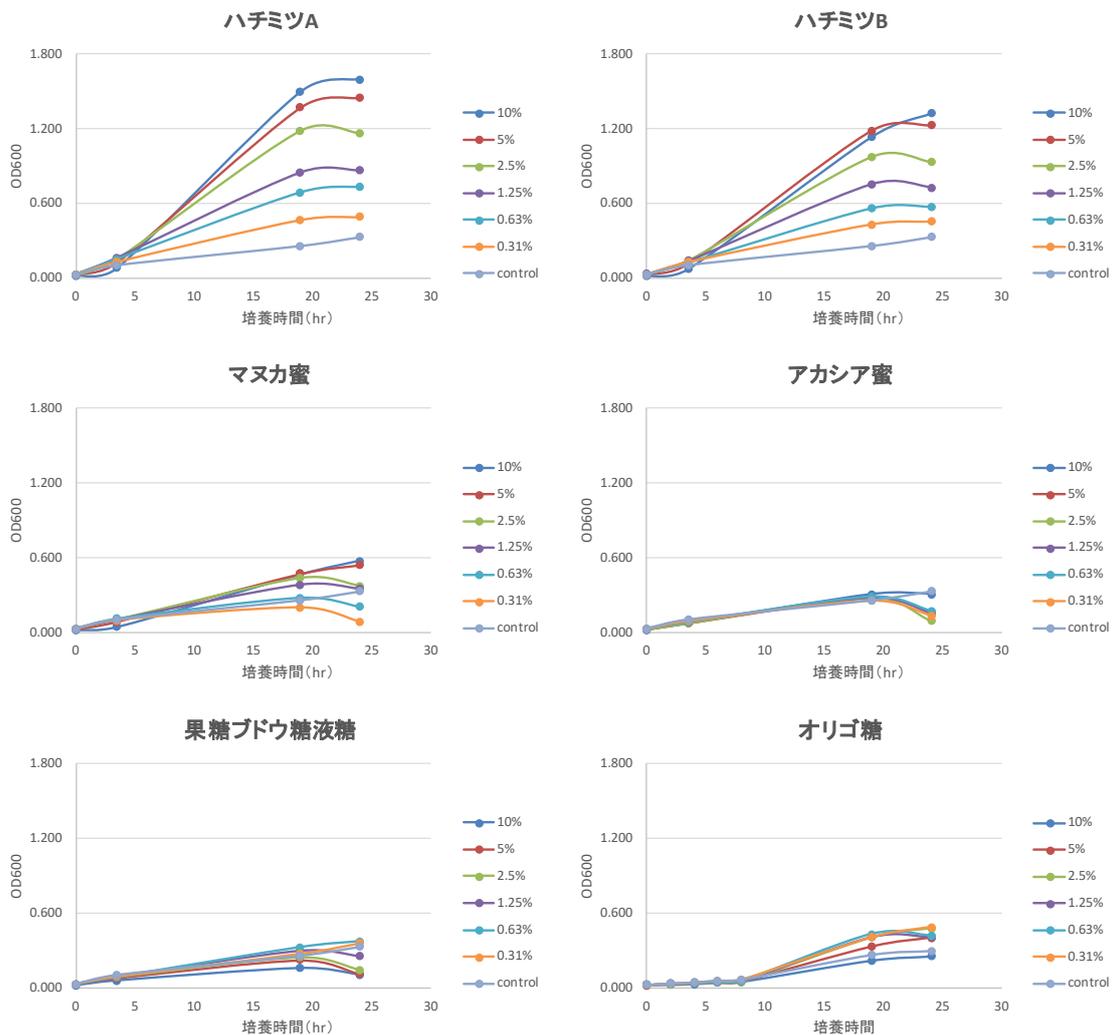


図1 ハチミツおよび糖の *L. fermentum* 増殖促進作用 (平均値、n=2)

## 2-2) ハチミツおよび糖の *L. reuteri* 増殖促進作用

ハチミツ A およびハチミツ B は、*L. reuteri* に対する増殖促進作用を示した。しかし、増殖促進作用の濃度依存性は、*L. fermentum* に対するものとは異なり、ハチミツ A では 1.25% で作用がほぼ最大となり、1.25%~10% の範囲で作用の大きさに差はみられなかった。また、ハチミツ B では、0.31%~2.5% では増殖促進作用を示したが、5% 以上の濃度では増殖促進作用はみられず、10% においては増殖を抑制した。マヌカ蜜、アカシア蜜、果糖ブドウ糖液糖およびオリゴ糖も、ハチミツ A およびハチミツ B には及ばないが、*L. reuteri* に対する増殖促進作用を示した。また、マヌカ蜜は、ハチミツ B と同様に 10% では増殖を抑制した (図 2)。

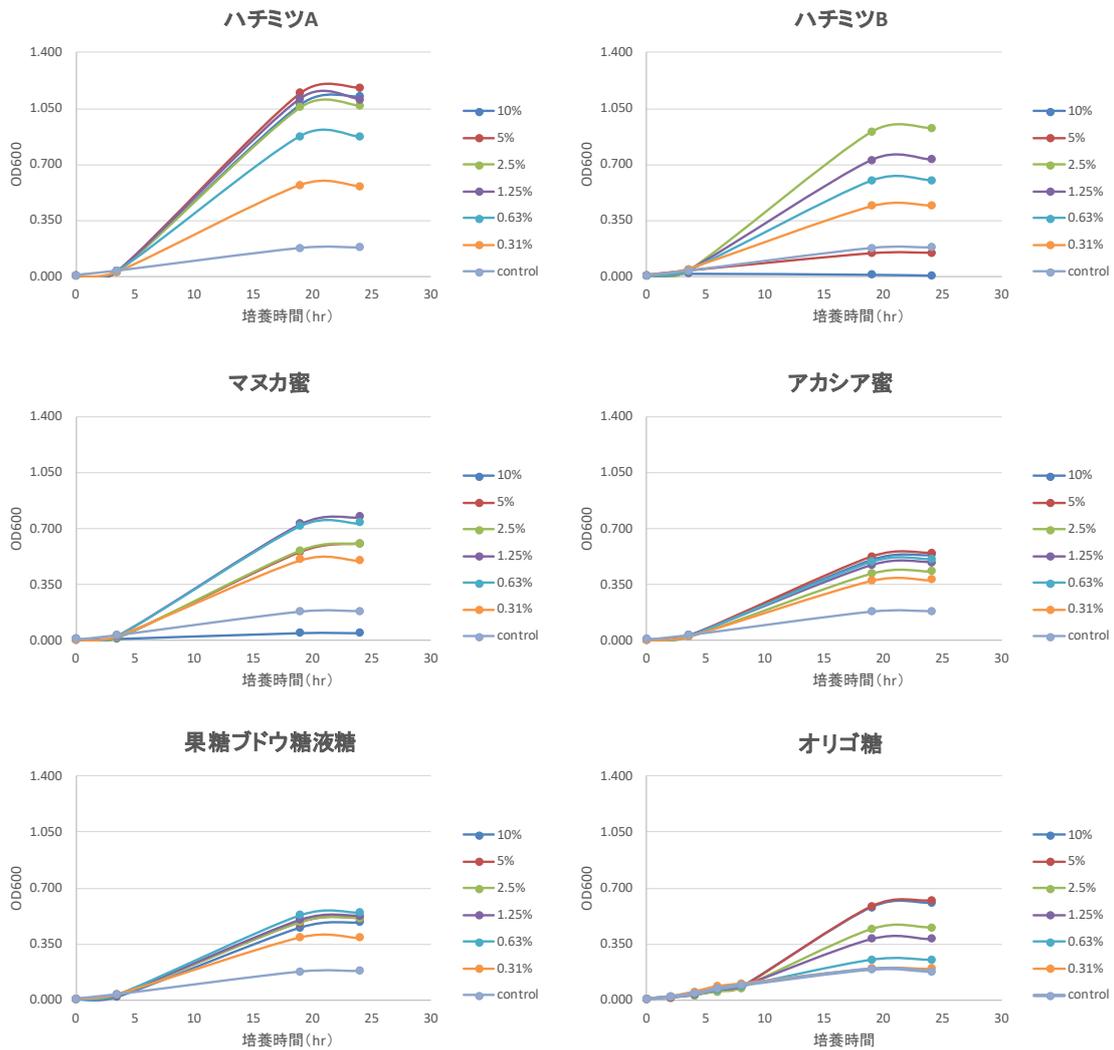


図2 ハチミツおよび糖の *L. reuteri* 増殖促進作用 (平均値、n=2)

### 共同研究をすすめるうえでの反省点

嫌気性菌の培養において汎用性の高い GAM 培地を用いてスクリーニングを行ったが、細菌種ごとに培地を変更することで、より有用なデータを取得できた可能性があり、試験系に関して、もう少し検討できるとよかった。

共同研究の成果のうち、特に、以下の4点についての達成度をそれぞれ簡潔に記述してください。

- PI 経験への貢献度 (申請者が PI として、共同研究の役割分担を適切におこない、共同研究者を取りまとめながら、研究を実施することできたか。)

本共同研究を推進する過程で、研究計画の立案、研究の実施状況の把握を主体的に行

い、外部機関に所属する共同研究者と積極的にディスカッションを行った。また、研究費の管理を適切に行い、効率的に使用した。

— 共同研究の学術的価値（共同研究の学術的価値が高く、独創性があったかどうか。）

腸内細菌の多くは嫌気性菌であり、嫌気性条件下での培養設備を持たない弊社では腸内細菌に対して広範囲にスクリーニングを実施することは困難であった。

また、ハチミツの抗菌作用については多くの報告がみられるが、腸内細菌に対する作用についての報告は少なく、蜜源植物の違いでハチミツの作用を比較したものはほとんどみられない。

— 共同研究実施者の妥当性（若手女性研究者の研究力が向上したか。）

弊社では設備の面で取り扱いが難しい嫌気性細菌を用いた研究を継続して実施することができた。嫌気性菌分野の専門家である外部機関所属の共同研究者から、研究データの解釈に関して専門的な視点から助言が得られたことは、効率的に研究を進めるための参考となった。

— 共同研究の地域貢献性（共同研究によって、地域活性化ができたか。）

岐阜県は近代養蜂発祥の地であり、現在でも養蜂関連企業が多い。蜂産品であるハチミツの効能を科学的に証明することは、地域の活性化にも有用であると考えられる。また、腸内細菌叢を整えることは、人々の健康の維持・増進の観点からも意義のあるものと考えられる。

### この連携型共同研究の成果に関する研究発表・報告等

ポスター発表

第19回日本抗加齢医学会総会（2019年6月14日～16日）

「ブラジル産グリーンプロポリスの口腔内細菌に対する作用とトローチの開発」

森本智美、田澤茂実、田中香お里、市原賢二

その他（特記すべき事項など）

## 2-2. 英語コミュニケーション力向上セミナー

【講師】津田 ひろみ氏（異文化コミュニケーション学博士）

【日時】2020年2月13日（木）13:30～16:00

【場所】岐阜薬科大学本部 大学院講義室

【参加者数】10名（うち女性研究者2名）

岐阜薬科大学9名、岐阜大学1名



多様性が重視される現代社会において、しだいに注目されてきている協働学習を通して、第一人者の津田ひろみ氏を講師に迎え、広くコミュニケーション力が向上されることを目的として実施した。

### <プログラム>

#### 第1部 協働的な学びの基本理念と枠組み

1. 協働学習の基本理念：学びにおける3つの出会いと対話とは？
2. 協働学習のキーワード：主体的に学ぶ、思考を深める、多様性の受容
3. 協働学習の効果：それぞれの段階で期待される効果とは？
4. 協働学習の進め方：まず始めに大切なこと、そして最後のまとめ

#### 第2部 協働学習を取り入れた英語指導のコツ

1. 英語が得意でない生徒を巻き込もう！：中学校のリーディング授業実践の紹介
2. どんな学生も活躍できる場を！：保育専攻、美術専攻、スポーツ推薦の学生たちの活躍の紹介
3. 協働学習の輪をもっと広げよう！：大学生と小学生の協働的な学びの紹介

#### 第3部 協働的な学びの体験（グループで英語で活動）

#### 第4部 協働的な学びについての振り返りとQ&A

セミナーではグループに分かれ、自己紹介でアイスブレイク。英語を学ぶ目的も語る。第1部と第2部では主に講義とグループワーク（日本語と英語）を行った。ディスカッションだけではなくアウトプットが重要であると学んだ。また協働学習は正答があるものには向かないとのこと。第3部でグループワークを行い、協働学習を受ける側として体験した。

教員には講義の参考になったようである。学生はもう少し英語でグループワークを行いたかったようであるが、協働学習を体験できたことはよかったようである。その効果を感じながら、英語学習に対するモチベーションが上がったとの感想もあった。



英語を使う、話す、聞く、という時間は少なかったが、今後の英語学習および研究教育活動に参考になるもので、有意義な時間となった。講義終了後に講師に質問・相談をしている学生の姿があった。講師は子育てが一段落した40歳から学校教師として活躍し、現在に至っている。フルタイムではないが自分の生活に一番あった働き方を選択・継続しており、女子学生の刺激にもなったようである。



学習者の主体性を重視し、誰もが自由に、そして平等に発信できる協働学習では学び合いによって視野が広がるだけでなく、考えが深まり新しい気づきが生まれることも期待されている。コミュニケーション力向上を目指したが、最後に diversity の考え方につながったと言える。

### 【アンケート結果】

回答数：10名（100%）

#### 1. あなたについて教えてください。

##### （性別）

項目	回答数 (人)
■男性	7
■女性	3



##### （所属機関）

項目	回答数 (人)
岐阜大学	1
岐阜薬科大学	9
岐阜女子大学	0
アピ株式会社	0

##### （職位）

項目	回答数 (人)
教員	3
学生	7

2. 本セミナーにご参加いただいた目的を教えてください。(複数回答可)

項目	回答数 (人)
■自身の研究のため、具体的に英語でやりとりする必要があるから	5
■自身の研究対象	1
学生や後輩への指導に参考に	0
■特定の目的はないが英語力向上のため	4
その他	0



「■自身の研究のため、具体的に英語でやりとりする必要があるから」の具体的状況

- ・筆頭著者で論文を書くため
- ・学会・論文など

その他

- ・自分の授業の参考に

3. 日程について

a.開催時期について

項目	回答数 (人)
■都合の良い時期だった	6
■別の時期だったらよかった	2
■どちらともいえない	2



b.時間について

項目	回答数 (人)
■長すぎた	1
■ちょうどよかった	6
短すぎた	0
■その他	3



4. 会場について

項目	回答数(人)
狭い	0
■ちょうどよい	9
■広い	1
どちらともいえない	0



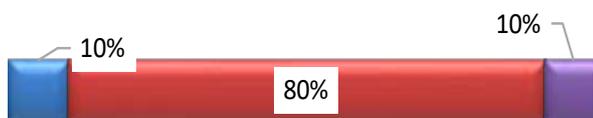
## 5. 人数について

項目	回答数(人)
多い	0
■ ちょうどよい	5
■ 少ない	4
■ どちらともいえない	1



## 6. レベルについて

項目	回答数(人)
■ 難しい	1
■ ちょうどよい	8
簡単	0
■ どちらともいえない	1



## 7. 本日のセミナーでよかった点をあげてください。

- ・実際に人と英語でコミュニケーションをとれたのはよかった。
- ・先生が魅力的でした。ずっと気になっていることを少し知ることができました。
- ・実際に協働学習を行うことで、方法や考え方を知れたこと。また効果がある理由なども知れたこと。
- ・実際に協働学習を行って、その効果を少し感じられた。英語学習に対するモチベーションが上がった。
- ・知らないことを見つけることができたような感覚で、楽しく学べた。
- ・体験型でおもしろかったです。
- ・実際に協働学習できたのが良かった。
- ・協働学習を行う上で、実際の成功例や失敗談があってわかりやすかったから。
- ・最後の協働学習体験はためになった。
- ・It was a friendly and nice teller. I could learn more than I thought. Thanks.

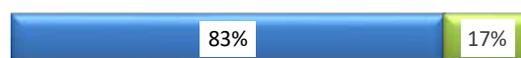
## 8. 本日セミナーでよくなかった点をあげてください。

- ・受付で部屋を尋ねましたが、「大学院講義室」がおわかりになりませんでした。学外から来る者のために案内があるとありがたいです。
- ・もう少し体験してみたかった。
- ・岐大の教育学部の学生の人数が増えるとその協働学習を広めることができたらいいと思います。

- ・スライドが見切れていた点
- ・前半でインプットする場面が長いと感じてしまった。もっとグループワークできる方が嬉しかった。
- ・ポスタータイトルから想像される内容と実際の内容に乖離がある。英語コミュニケーション向上というより、英語指導向上セミナーだった。聞き手の多くが薬学生であるのに、英語指導の話がされても、何を目的としているのかよくわからなかった。

### 9. 本日のセミナーは役に立ちましたか。

項目	回答数 (人)
■役立った (将来役に立つと思う)	5
役に立たなかった (役に立たないと思う)	0
■分からない	1



### 10. 9. でそのように答えた理由を教えてください。

- ・自分でもできそうだから。
- ・自分の授業で意識的にグループ学習/協働学習とすることができると思います。
- ・授業で採り入れたいと思います。
- ・WS系はけっこうするので、今後このノウハウをつかっていきたい
- ・英語の指導者になる可能性は低い。
- ・リスニングの講義に活用できそうだった

### 11. 今後もこのようなセミナーに参加したいと思いますか。

項目	回答数 (人)
■参加したい	3
参加したくない	0
■分からない	2



### 12. 今後、英語関連のセミナーを開催する場合、どのようなセミナーがあったら参加してみたいと思われますか。また、次回セミナーについてご要望等ありましたらお書きください。

- ・論文の書き方 ・プレゼンテーション ・コミュニケーション
- ・今まで何度か参加していますが、いずれも有益です。All English の講座が過去にありましたが、また同様のものにしていただけるとありがたいです。
- ・英語のプレゼンテーション、英語ディベートの実践
- ・国際理解系

- ・論文の書き方、プレゼンテーション、英語ディベート法
- ・discussion がよくできた

13. その他本日の感想やご意見、今後行ってほしい企画などありましたら、ご自由にお書きください。

- ・講師はひきつづき日本人がいいと思います。女性の方なのもいいと思います。
- ・せっかくの機会ですが、教員の参加が少ないのはちょっと残念でした。広報の難しさを痛感します（同じような苦勞をしておりますので）
- ・今日は本当にありがとうございました。今後も先生のお力をかりられたら幸いです。
- ・Thanks

#### 英文校閲費用助成

2019 年度も岐阜大学で 1 件、岐阜薬科大学で 5 件の英文校閲費用助成が実施された。

## 2-3. 研究倫理研修

### 研究倫理研修 1 (岐阜女子大学)

【演題】「行動には理由がある？」～不正をする時～

【講師】小林 雅典 氏

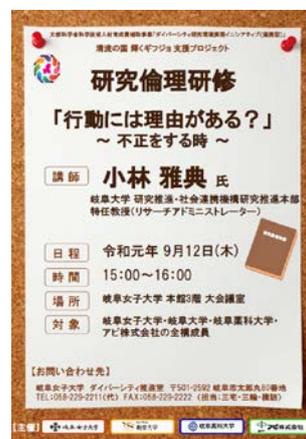
(岐阜大学 研究推進・社会連携機構研究推進本部  
特任教授 (プログラム・オフィサー))

【日時】2019年9月12日(木) 15:00～16:00

【場所】岐阜女子大学 本館3階 大会議室

【参加者数】69名 (うち女性研究者 38名)

アピ株式会社 3名 岐女大 66名



研究者の研究倫理の向上を目的として、年1回の研究倫理研修を開催した。講師の小林雅典先生は、塩野義製薬株式会社において、ワクチン開発研究、抗ウイルス薬開発研究に長年従事された後、現在、岐阜大学の研究推進・社会連携機構において、研究者の研究推進支援をされている。

人間は不正をしてしまったり、嘘、ごまかしをしてしまう。創造性と嘘には密接な関係があり、創造性が高い人ほど、自分を正当化する物語をつくるのがうまいとも述べられた。

人間とはそういうものであるということを前提にして、研究倫理を考える必要がある。不正のトライアングル、動機・プレッシャー、機会の認識、姿勢・正当化の3つの要因が揃ったときに人は不正をしてしまう。研究不正を防ぐには、その要因のどこかを無くす必要があり、一人ひとりが倫理感を高めていく必要があると述べられた。

多くのデータを示しながら、分かりやすく、人はなぜ、不正をしてしまうのか、そして、研究不正を防ぐにはどのようにしたら良いかお話しいただき、大変有意義な研修となった。



## 【アンケート結果】

回答者数：49名（回収率：71%）

### 1. あなたについて教えてください。

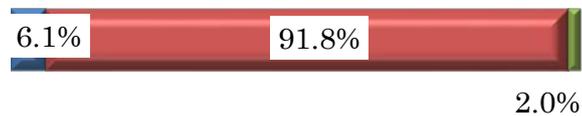
#### （性別）

項目	回答数(人)
■女性	30
■男性	19



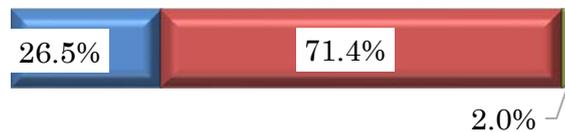
#### （所属）

項目	回答数(人)
■アピ株式会社 研究者	3
■岐阜女子大学 教員	45
■岐阜女子大学 職員	1



### 2. 本日の研究倫理研修についてお答え下さい。

項目	回答数(人)
■非常に有意義だった	13
■有意義だった	35
■あまり有意義ではなかった	1
■無回答	0



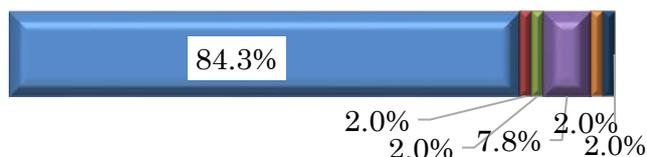
### 3.2. のお答えについて理由を教えてください。（自由記述）

- ・とてもわかりやすく、よく理解できた。
- ・課題、問題に対する背景、理由、要因を明らかにし、改善策を例示してくださったこと。
- ・「人間とは・・・」という大きなテーマに沿ったお話で、非常に興味深かったです。「自分のイメージを損ないたくない」という動機が不正に大きく影響する要因の1つというのが印象的でした。
- ・不正をする機会がごく身近なところにあることがよくわかりました。不正が身近なところで起こることを認識する良い機会となりました。
- ・不正の心理については、コンプライアンスという観点で学んだことがありましたが、違う観点を加えられると思いました。（事実、原則、限界など）

- ・興味深い内容でした。
- ・不正に関して改めて考え、学ぶことができた。
- ・研究だけでなくすべてに言えること。楽しく聞くことができました。
- ・以前にも聞いたが、再確認することができた。なぜ不正をするのかを冷静に考えられることで、自分も学生も正しい道に指導できそうだった。
- ・不正をする時は、自分の意志や不正の機会以外に精神的なことも要因としてあることが分かりました。
- ・人間の弱さ、人間とはを改めて考えさせられました。自分の良心に耳を傾け責任を果たさねばと思います。
- ・抽象的な話が多く、個人的にはもっと具体的なことを聞きたかった。
- ・日常的な出来事を理論的に説明されることで日常の行動が意味づけされることが分かりました。
- ・楽しかった。(例、が)
- ・人の心理、行動など、研究倫理面だけでなく学生対応にも参考となる。
- ・具体例をお示しいただきながらのお話で、理解しやすかった。
- ・理解しやすい。話術がすぐれている。
- ・様々な気づきがあった。私も不正のすぐ側にいることがわかった。
- ・改めて不正をすることの恐ろしさを学びました。
- ・不正に関する知識が深まりました。
- ・資料を使ってわかりやすく説明がなされた。
- ・倫理規定に学生が署名をするとごまかしをしなくなった、倫理教育が大切など、具体的な事例での説明がわかりやすかった。
- ・自分の認識を再確認できた。学生に対しても伝えたい。
- ・実験などの研究方法や、アンケート調査などの研究手法に関する倫理基準などについても具体的に勉強したかった。
- ・It's nice to know that telling fibs is "normal". As for thesis papers, it needs honing when explaining it to students.

#### 4. 今回の研究倫理研修の開催をどのように知りましたか。(複数回答可)

項目	回答数(人)
■ 岐阜女子大学からの案内	43
■ ポスター等の掲示物	1
■ eメール	1
■ 関係者から聞いた	4
■ プロジェクト通信	0
■ ホームページ	1



■その他	1
■無回答	0

5. 今後もこのような催しに参加したいと思いますか。

項目	回答数(人)
■参加したい	38
■テーマによっては参加したい	11
■参加したくない	0
■無回答	0



「テーマによっては参加したい」と答えられた方はどのようなテーマであれば参加したいとお考えですか。\*その他の回答を選択された方も、興味深い催しのアイデアがございましたらお書き込みください。

- ・研究倫理と創造性を両立させるような研修システムについて

6. 今後、どのような人の話を聞きたいですか。(複数回答可)

項目	回答数(人)
■大学関係者	20
■企業関係者	34
■行政関係者	12
■その他	2
■無回答	0



7. 具体的に話を聞きたい人がいれば、名前を書いてください。

- ・岐阜市長、議員とか
- ・東京大学時実先生（関係図書を樹村房より出版されている。）

8. その他、感想やご意見、今後行ってほしい企画など、ご自由にお書きください。

- ・大変興味深く勉強になるお話しをありがとうございました。「人間は嘘をつくものであるが、正直にありたいと願っている」ということ。自分に照らし合わせて今後の研究で意識に置きたいと思います。
- ・不正が起こらないように予防線をはることが大切だと思いました。普段意識してないことを考えさせられる良い機会でした。ありがとうございました。
- ・成果と不正行為との関係については、どうすれば不正を予防できるか、企業内でも大きな課題であると思います。

- ・文字がもう少し大きいと良いと思います。
- ・動物の話が聞きたい。
- ・画面を見ての話だったが配布物があると良かった。
- ・研究倫理の少ない高齢の先生に聞かせて下さい。大学のリスクです。
- ・作家や俳優にはホラ吹き of 才能が必要と感じていたが、研究者にもその面があるというのは興味深い。

## 研究倫理研修 2 (アピ株式会社)

【演題】 意図せぬ研究不正の防止と責任ある研究活動

【講師】 中村 征樹 氏 (大阪大学 全学教育推進機構 准教授)

【日時】 2019年 11月 29日 (金) 15:30~16:30

【場所】 アピ株式会社 長良川リサーチセンター 2階 大会議室

【参加者数】 65名 (内 女性研究者 22名)

岐阜大学 1名、岐阜薬科大学 1名

岐阜女子大学 4名、アピ株式会社 59名



中村先生は、文部科学省「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」の策定に委員として関与、研究不正対応について考えられる役職での経験を踏まえ、意図せぬ研究不正にはどのようなものがあるのか、そして、そのような不正を防ぐにはどうしたらよいかについて、講演された。

大学、企業など様々な事例を挙げながら、大規模な不正行為が発生してしまう誘因と不正行為の正当化に関する話をされた。そして代表的な不正行為として、特定不正行為とされている「捏造」「改ざん」「盗用」について解説された。刑事事件は証拠がない場合、認定されないが、特定不正行為は疑いを覆すことができない場合、不正と認定されてしまうことから、日頃から不正防止に対する意識を持つことの大切さを指摘された。さらに、特定不正行為以外の不正として、「オーサーシップ」「二重投稿」についても、どのようなものが不正と捉えられ、オーサーシップの定義と二重投稿とならないための対策を教示された。次に、全体、中堅、若手にて、それぞれが犯しやすい不正の内容をあげられ、注意喚起された。

そして、それらの発生しうる不正の話の後に、研究データ管理の大切さと参考となる具体的なデータの保管方法について紹介された。また、データ管理以外にも、信頼できる研究成果のためのチェックリストや研究指導者が研究公正推進のためにできることについて指南された。

最後に、今回詳細にお話しされた特定不正行為、「オーサーシップ」「二重投稿」以外にも好ましくない研究行為があり、研修者として、研究者コミュニティ及び社会から信頼される研究活動を行っていくことの大切さを言及された。

具体的な事例が多く、参加者が日頃の自身の研究活動について考えることができる大変有意義な研修会であった。



## 【アンケート結果】

回答数：62名（95%）※一部の設問にて無回答あり

### 1. あなたについて教えてください。

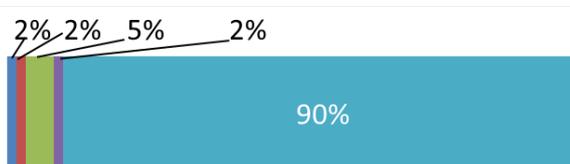
#### 性別

項目	回答数(人)
男性	31
女性	31



#### 所属

項目	回答数(人)
岐阜大学(教員)	1
岐阜薬科大学(職員)	1
岐阜女子大学(教員)	3
岐阜女子大学(職員)	1
アピグループ	56



### 2. 本日の研究倫理研修についてお答えください。

項目	回答数(人)
非常に有意義だった	17
有意義だった	42
あまり有意義ではなかった	3
有意義ではなかった	0



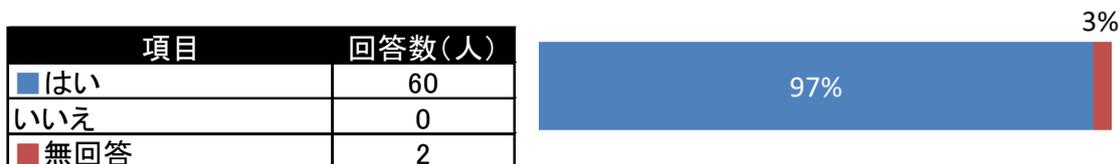
#### 理由

- ・具体的な事例を使って説明していただき、非常に理解しやすかったです。
- ・研究者として意識すべきポイントを事例を通して学べた。
- ・オーサーシップの考え方は理解していなかった。参考となった。
- ・適切なオーサーシップにのっとると、共著者を正しく掲載するには思ったより条件が厳しいと知りました。研究者として、知らなかったでは済まされないこと、心に留めておきたいです。
- ・普段意識して取り組まなければならない点を再認識する良い機会となりました。
- ・これまで何気なく行っていたことが、不正につながる可能性があるので、気をつけたいと思った。
- ・日頃、研究に関わるにあたり、自分が不正ではないと思っていても不正であると疑われる可能性のあることを改めて理解し注意しようと強く思えたから。
- ・定期的に研究不正について再考する機会を持つことは大切だと思いました。
- ・最近の研究不正防止への取り組みを知ることができた。不正を防ぐため、実験データの適切な

管理の大切さをあらためて認識する機会となったと思う。

- ・特定不正のみならず、広義の不正や好ましくない研究行為について知ることができてよかった。
- ・私は研究に関わっているわけではないですが、データをみる機会があるので、何が不正になってしまうのかを知ることが出来たのは大変勉強になりました。
- ・受託の開発試験を担当しており、対外的にも信頼性の高いデータが求められていると感じているため。
- ・三菱自動車の不正問題等は、利益を追求する企業などではおちいりやすい問題であると感じた。
- ・当部で進めている開発業務における信頼性基準の作成の役に立った。
- ・事例を見ていると特別なものばかりではなく、不正とっていないなど、認識の甘さやコミュニケーション不足という誰にでも起こりうるものであると改めて感じました。

### 3. 本研修を通じて、不正をせざるルールを遵守することの大切さを学びましたか。



### 4. 今後もこのような催しに参加したいと思いますか。



### 興味深い催しのアイデア

- ・具体的な対応策
- ・不正防止のためのしくみ作り、教育方法など、実効性につながるステップ
- ・効率的に作業、研究、分析をできる積極的な方法等（不正の防止だけを意識しすぎると、作業効率が悪くなるように思えるが、そこで作業効率を落とさない良いシステムや方法などを説明してくれるものがあるとよい）
- ・特許の抵触について
- ・データインテグリティについて
- ・最近の研究分野のはやりすたり等のトレンド
- ・成功体験談

### 5. その他、感想やご意見、今後行ってほしい企画など、ご自由にお書きください。

- ・「研究職」前提の高速仕事術、マネジメント等の書籍が世間的にとっても少ない（少ないという

より無い)。研究職は、人も仕事内容も他職と異なるのでノウハウの適用が難しく悩んでいる。  
40代後半～50代までの現職かつ成功者の話が聞きたい。

- ・問題の原因と背景について、「できないといえない構造的な問題」「不正行為の正当化」を解決する方法はないでしょうか。
- ・今後の研究の仕事をする上で、何が不正行為になるのか理解を深める良い機会になりました。不正行為にはどのようなものがあるのか理解することで、データの管理の仕方など意識が変わるので、本日の研修は今後の仕事に役立てることができると思いました。

## 2-4. 夏季休暇中の学童保育トライアル「カモミールこども大学」

小学生の子どもを持つ研究者にとって、長期休暇中の子どもの過ごし方は頭を悩ませる大きな問題である。本事業の一環として、小学生の子どもをもつ実施機関（4 機関）の構成員が夏季休暇中も安心して研究・教育活動等に取り組むことができるように、夏季休暇中の学童保育トライアル「カモミールこども大学」実施した。なお、従来から岐阜大学で実施していた夏季休暇中の学童イベントを本プログラムに組み入れるかたちで実施した。

2019 年度は、募集定員 25 名に対して 42 名から応募があり、抽選を実施した。体調不良により当日 1 名の欠席者が出たため、2 日間ともに 24 名（男女 12 名ずつ）が参加した。参加者には低・中学年の児童が多かったが、岐阜大学での農作物の収穫・動物見学、岐阜薬科大学薬草園での体験型授業、岐阜女子大学生によるおもちゃ製作・遊び体験、アピ株式会社のみつばち講座など高学年も楽しめる教育プログラムであったことから、保護者および参加児童の双方から高い評価を得た（アンケート参照）。

プログラムの策定にあたっては、実施機関（4 機関）がそれぞれの特性を活かしたプログラムを提供し、2 日間にわたって充実した内容のプログラムを子どもたちに提供することができた。また、4 機関に所属する教職員（連携協議会メンバーを含む）が主たる担当プログラム以外の時間帯にもスタッフとして参加したことにより、低学年の参加児童が多いなかで 2 日間を通して 24 名の児童全員の安全を確保しながら屋内外でのプログラムを遂行することができた。

【日時】 2019 年 8 月 19 日（月）・20 日（火）

8:45～17:00（受付・お迎え時間 8:15～8:40／17:00～17:30）

【場所】 岐阜大学、岐阜薬科大学薬草園

【募集人数】 25 名

【申込者数】 50 名（※定員を超える応募者数のため抽選を実施）

岐阜大学 42 名、岐阜薬科大学 4 名

岐阜女子大学 1 名、アピ株式会社 3 名

【参加者数】 24 名（女子 10 名、男子 14 名）

※体調不良のため 1 名欠席

一夏季休暇中の学童保育トライアルー  
カモミールこども大学 参加者募集！

開催日：2019年 8月19日(月)、20日(火) <2日間>  
開 場：8:45～17:00(8:15～受付開始)  
お迎え時間：17:00～17:30(17:30開始)  
場 所：岐阜大学 学生会館2階 第6集会室、岐阜薬科大学 薬草園(12球庭)  
担 当：岐阜大学・岐阜薬科大学・岐阜女子大学・アピ株式会社所属する  
教職員・社員の子ども(小学1～6年生)  
参加費：1日につき2,000円×2日間で4,000円  
(材料費、昼食、おやつは、実施機関持ち出し、個人参加の追加不可)  
定 員：25名(2歳以上・小学生未満の子どものみ、岐阜薬科大学は小学生)  
申込期間：7月1日(日) 10:00～7月12日(金) 16:00まで  
申込方法：参加申込書を下記メールアドレスにて提出(持ち帰り)

主なプログラム(予定)

8月19日(月)	8月20日(火)
<ul style="list-style-type: none"> <li>薬草園ツアー【岐阜薬科大学】</li> <li>【岐阜薬科大学・体験】</li> <li>【岐阜女子大学】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体験型授業・動物見学【岐阜大学】</li> <li>【岐阜薬科大学】</li> <li>【アピ株式会社】</li> <li>【岐阜女子大学】</li> </ul>

申込み・問合せ：岐阜大学男女共同参画推進室(大学会館2階)  
☎056-293-3397 ☐garkaku@ifu.uac.jp



**【2019年度】夏季休業期間学童保育(カモミールこども大学) プログラム**

2019年8月19日(月)・20日(火) 8:45～17:00(受付・お迎え時間 8:15～8:40/17:00～17:30)

8月19日(月)

時間	内容	場所	担当
8:15～8:40	受付	第6集会室	男女共同参画推進室
8:45～9:00	本日の説明、注意事項	第6集会室	男女共同参画推進室
9:00～9:30	バスで薬草園へ移動	岐阜大学 → 薬草園	男女共同参画推進室
9:30～11:30	薬草園の見学・体験	岐阜薬科大学・薬草園	岐阜薬科大学
11:30～12:00	移動	薬草園 → 岐阜大学	男女共同参画推進室
12:00～13:00	昼食(お弁当)・休憩	第6・9集会室	男女共同参画推進室
13:00～16:00	つくって、みんなで遊ぼう！！	第6集会室	岐阜女子大学
16:00～17:00	おやつ・自習(夏休みの宿題)	第6集会室	男女共同参画推進室
17:00～17:30	お迎え	第6集会室	男女共同参画推進室
17:30	閉室	第6集会室	男女共同参画推進室

8月20日(火)

時間	内容	場所	担当、備考
8:15～8:40	受付	第6集会室	男女共同参画推進室
8:45～9:00	本日の説明、注意事項	第6集会室	男女共同参画推進室
09:00～10:30	農産物の収穫・動物見学	フィールドセンター	男女共同参画推進室
10:30～12:00	マーブルタウン(職業体験)	第6集会室	男女共同参画推進室
12:00～13:00	昼食(お弁当)・休憩	第6・9集会室	男女共同参画推進室
13:00～15:45	みつばち講座	第6集会室	アビ株式会社
15:45～16:00	おやつ・トイレ	第6集会室	男女共同参画推進室
16:00～17:00	閉会の挨拶、写真撮影、自習	第6集会室	男女共同参画推進室
17:00～17:30	お迎え	第6集会室	男女共同参画推進室
17:30	閉室	第6集会室	男女共同参画推進室

## 【アンケート結果】

アンケート対象者：参加児童の保護者 19 名

アンケート回答数：18 名（女性 9 名・男性 9 名）回収率 95%

### 問1: 属性 職種

職種	全体		女性		男性	
合計	18 名	100.0%	9 名	100.0%	9 名	100.0%
教育・研究職員	10 名	55.6%	3 名	33.3%	7 名	77.8%
教育・研究職員以外	7 名	38.9%	5 名	55.6%	2 名	22.2%
無回答	1 名	5.6%	1 名	11.1%	0 名	0.0%

### 居住地 岐阜市小学校区内分布



合計	18 名	100%
岐阜市	12 名	66.7%
羽島市	1 名	5.6%
関市	1 名	5.6%
瑞穂市	1 名	5.6%
揖斐郡	1 名	5.6%
愛知県	2 名	11.1%

### 問2: 小学校が長期の休みのとき、主として子どもの面倒をみるのはどなたですか。(複数回答有)

項目	全体		女性		男性	
合計	18 名	85.7%	9 名	69.2%	9 名	112.5%
ご自身または配偶者	5 名	23.8%	1 名	7.7%	4 名	50.0%
ご自身または配偶者の親、親戚	1 名	4.8%	1 名	7.7%	0 名	0.0%
学童保育施設	12 名	57.1%	7 名	53.8%	5 名	62.5%

### 問3: 子どもが学校の授業のとき、放課後児童クラブを利用していますか。

項目	全体		女性		男性	
合計	18 名	100.0%	9 名	81.8%	9 名	100.0%
利用している。	9 名	50.0%	5 名	45.5%	4 名	44.4%
利用したいが利用できない。	4 名	22.2%	2 名	18.2%	2 名	22.2%
利用する必要がない。	5 名	27.8%	2 名	18.2%	3 名	33.3%

### 問4: 夏休み期間だけでも、子どもを職場、あるいはその近くで預かることについてどう思いますか。

項目	全体		女性		男性	
合計	18 名	100.0%	9 名	100.0%	9 名	100.0%
ぜひやってほしい	15 名	83.3%	6 名	66.7%	9 名	100.0%
興味はある	2 名	11.1%	2 名	22.2%	0 名	0.0%
あまり興味はない	1 名	5.6%	1 名	11.1%	0 名	0.0%
必要ない	0 名	0.0%	0 名	0.0%	0 名	0.0%

問5: 期間はどれくらいを希望しますか？

項目	全体		女性		男性	
合計	18名	100.0%	9名	100.0%	9名	100.0%
2-3日で十分	5名	27.8%	2名	22.2%	3名	33.3%
1週間	3名	16.7%	2名	22.2%	1名	11.1%
2週間	3名	16.7%	1名	11.1%	2名	22.2%
3週間	0名	0.0%	0名	0.0%	0名	0.0%
1ヶ月	4名	22.2%	1名	11.1%	3名	33.3%
夏休み全期間	3名	16.7%	3名	33.3%	0名	0.0%

問6: 期間が1週間の場合、費用はどの程度なら支払い可能ですか？

金額	全体		女性		男性	
合計	18名	100.0%	9名	100.0%	9名	100.0%
10,000円	14名	77.8%	9名	100.0%	5名	55.6%
20,000円	4名	22.2%	0名	0.0%	4名	44.4%
30,000円	0名	0.0%	0名	0.0%	0名	0.0%
40,000円	0名	0.0%	0名	0.0%	0名	0.0%
50,000円	0名	0.0%	0名	0.0%	0名	0.0%
その他	0名	0.0%	0名	0.0%	0名	0.0%

問7: 4の期間中に開催するとしたら、どのようなプログラムを期待しますか？(複数回答有)

項目	全体		女性		男性	
合計	35名	106%	15名	100%	20名	111%
イベント系(遊び・スポーツ)	13名	39.4%	8名	53.3%	5名	27.8%
イベント系(学び)	14名	42.4%	6名	40.0%	8名	44.4%
宿題の世話	6名	18.2%	1名	6.7%	5名	27.8%
託児(子どもの預り業務)	2名	6.1%	0名	0.0%	2名	11.1%
その他	0名	0.0%	0名	0.0%	0名	0.0%

問8: 「学童保育トライアル」の感想について、自由にご記入ください。

- ・ いろいろな体験ができることは、とても魅力だ。
- ・ 取り組みを継続して、導入に向けて検討をお願いします。
- ・ 子供はとても楽しんでいたので、また参加したいと言っている。ありがとうございました。
- ・ いつもと違う空間で、たくさんの友達や大人の方たちと触れ合うことで、新しい体験ができたようだ。とても楽しかったと家でも繰り返し話していたし、昨年も参加したがその際の出来事をよく思い出しているようだ。ありがとうございました。
- ・ 初めは仲良くやっていけるのかとても心配したが、プログラムもたくさん組んであり、すごく楽しかったようだ。普段は経験できないことが体験できて、とても充実した2日間だったと思う。ぜひ今後も続けていただけると嬉しい。
- ・ 大学に預けるので、教育的なことをやっていただけ、有難かった。先生もお友達も良い人ばかりだったと喜んでいて、手作りのおもちゃが特に楽しかったようだ。家でもずっと遊んでいた。
- ・ いつも行けないような所に行けたので、とても楽しかったようだ。薬草の話や、女子大学の方に遊んでもらったりと、また参加できるようならしたいと言っていた。
- ・ 初めての環境でも楽しめたようなので良かった。ありがとうございました。
- ・ すごく楽しかったみたいで、いろいろなことに興味を持った。
- ・ 楽しく参加させていただいたみたいだ。ありがとうございました。
- ・ 日頃、体験できないことを経験できるので有難い。
- ・ 3年連続で参加させていただいたが、こどもは「楽しかった」「また来年も行きたい」と言っており、内容には満足だ。
- ・ 一昨年は5日間開催していただいたはずなので、できれば5日ほど開催していただけると嬉しい。(2日は少し短い気がする)

問9: 職場が実施する小学生の子育て支援について、ご意見がありましたら自由にご記入ください。  
(制度改善の希望、職場の雰囲気、あったらいいと思う支援、実施してほしいイベントなど)

- ・ 子供を預ける先がない場合、とても有り難いと思う。普段、学童を嫌がる子供も、親の職場なら安心するのではないか。

- ・ 台風などの際に、警報で学校が休校になることが多く、その際に一時的な託児があるととても助かる。(職場は休めないことがある・・・)託児は特に勉強などではなく、のびのびと楽しめる場であってほしいと思っている。
- ・ やはり、職場自体にこのような学童システムが欲しい。なかなか小学校、特に低学年は微妙な年齢で、1人で家にもいられないので、このようなシステムは欲しい。また、学校が急に休みの日になど利用できるところが職場にあれば、仕事にもすぐに行けるので助かる。2日間、大変お世話になり、ありがとうございました。
- ・ 台風などの時の留守番部屋が岐大に設置されたと聞き、とても良い制度だと思った。薬大所属だが、利用できる大変有難い。(仕事上、どうしても休みにくい時があるので)
- ・ できれば長期休み(夏・冬・春)に、こういった保育があると助かる。
- ・ 何かを実習で作成したり、実験などできると楽しいと思う。

## 2-5. メンター制度

今年度も各機関でメンター制度を継続して実施した。岐阜大学では、女性研究者からハラスメントに関する相談が寄せられ、相談者の意向を確認しながら他部署と連携して問題に対応した。



### 3. 女性研究者の上位職への積極登用に向けた取り組み

連携機関の機関長および教育職員の人事に権限を有する管理職層を主な対象とし、本事業の趣旨、女性研究者の活躍推進やダイバーシティの必要性と効果についての理解を深めることを目的とした**トップマネジメントセミナー**を開催した。講師は、日本における「女性活躍推進」の遅れやその背景としての根強い性別役割分業意識および性差に関する誤解（偏見）等について各種データを用いながら説明したほか、講師が副理事を務める名古屋大学での女性活躍推進に向けた取り組みについて紹介した。参加者は管理・運営する側の意識変革の重要性について再確認した。

**リーダーシップ研修**は、性別にかかわらず研究者としてキャリアを構築するうえでの意識改革を目指すためのものである。2019年度は、長年にわたって製薬会社で管理職として勤務したのちに現在は人材コンサルタント会社の代表を務める講師が、リーダーシップとマネジメントの相違等についてスライド資料を通じて説明したほか、少人数ごとに分かれてグループワークを行いチームワークや自己評価等について話し合った。アンケート結果からは、自分の内面について改めて考える機会になった等、有意義な研修となったことが認められた。

岐阜大学では、育児や介護等の理由により支援が必要な研究者に対して研究補助員を配置する**研究補助員配置制度**を2010年から導入している。2015年に本事業に採択されて以降の状況を見ると、研究補助員を配置した女性研究者の多くが配偶者と別居しながら家庭においてほぼ1人で育児を担っているケースが目立っている。また、とりわけ夫婦ともに若手研究者の場合、夫婦双方が研究業績に対する重いプレッシャーを抱えており、夫の育児への協力を得られていない女性研究者もいる。利用者への聞き取りや報告書からは、本制度を利用したことで育児をしながら長期間の実験・計測やデータ整理などを効率よく継続することができた等、研究と生活を維持するうえで本制度が大きな支えになっていることが明らかになった。本制度は事業開始後に他機関にも普及し、女性研究者の離職防止や育児による研究中断の回避といった効果を発揮している。なお、アピ株式会社においては、民間企業のため労務管理上の諸事情から研究補助員配置制度とは異なるかたちで独自の対応を講じている。

**企業インターンシップ**は、本事業の主要な目標である「地域循環型」女性研究者支援の土壌整備につながるると同時に、インターンシップに参加する女性研究者の満足度も高いユニークな取り組みである。昨年度（2018年度）は、岐阜薬科大学からアピ株式会社へ女性研究者が派遣された。今年度（2019年度）は、岐阜大学からアピ株式会社へ女性研究者が派遣され、民間企業における製品化プロセスについて理解を深めるために研究所、工場、養蜂場などを見学したほか、女性研究者と企業内研究者との交流・情報交換会を開催し、大学および企業を横断する研究者ネットワークの構築・拡大につなげることができた。

### 3-1. トップマネジメントセミナー

【演題】組織の活性化戦略として女性活躍支援

【講師】東村 博子 氏（名古屋大学 副理事・男女共同参画センター長/生命農学研究科教授）

【日時】2019年12月2日（月）10:00～11:15

【場所】アビ株式会社 本社 4階 大会議室

【参加者数】43名（内 トップクラス36名 女性研究者7名）



東村博子氏は、名古屋大学での長年にわたる男女共同参画の取り組みにて培われた知見と生命農学研究科の研究者としての側面より、「組織の活性化戦略として女性活躍支援」というテーマに対し、主に下記4点について講演された。

- ・日本における女性活躍の現状
- ・生物学的な男女の違い
- ・組織戦略における女性活躍推進
- ・名古屋大学の取り組み



最初に、各国と日本を比較した多数の事例をみると、日本の女性活躍推進は遅れており、上位職となるためには相当な努力が求められると、言及された。このような格差の要因の1つは、性別による固定的役割分担の意識が考えられると述べられた。

次に、少しの差が曲解され、性別によって、空間認知能力や言語能力等、能力差があるという内容が注目されたことがあるが、科学的にみて性別による能力差はなく、機能的な差が少しある程度であることを教示された。性別による大きな能力差はないため、「男性、女性だからこれが苦手」と無意識のバイアスによって決めつけてしまうと、本来の能力を発揮できないことがあるため、人は褒めて伸ばすことがよいと話された。

さらに、女性活躍推進のメリットとして、男性が家庭に参加することで男女ともに生活者の視点をもてるようになり経済の活性につながることを挙げられた。そして、性差による課題をなくすためには、家庭と仕事を両立できる環境整備、育児休業後の復帰に対するフォローとスーパー

ウーマンではないロールモデルを増やす必要性を言及された。女性活躍推進は、時に逆差別と指摘されることもあるが、故意に行わなければ、教授選出の際など、女性の存在を無意識のうちに忘れてしまう事例を話された。効果的な方法として、トップダウンの大切さと就業時間内に男女関係なく帰宅できる環境作りと女性リーダーの育成について語られた。そして、育児に対応できなければ、今後増えていく育児に比べ期間が分からない介護に対応できないことを強く主張された。

最後に、学童保育等の名古屋大学の具体的な施策を紹介され、多様な個人が活躍できる組織にするために、まずは、男女共同参画のための積極的な改善措置が必要と訴えられた。

参加者に男女共同参画に積極的に関わる必要性を感じさせる有意義なセミナーであった。

### 3-2. リーダーシップ研修

【講師】 菊岡 正芳氏（合同会社K i k u塾 代表）

【日時】 2019年12月16日（月）15：30～17：00

【場所】 岐阜薬科大学本部 大学院講義室

【参加者数】 59名（うち女性研究者 10名）

岐阜薬科大学 57名、岐阜大学 1名

岐阜女子大学 1名

講師は岐阜薬科大学卒業生であり、製薬会社のMR、マーケティング部門長などを歴任し、現在は人材育成コンサルタント会社の代表として広く活躍している。

研修は、「自分らしいリーダーシップを創造・選択し、小さな行動を実行する」をゴールにさだめ、以下のプログラムで進められた。



#### 1. マネジメントとリーダーシップの違い・共通点・誤解

WS：マネジメントとリーダーシップの定義

WS：自己がマネジメントとリーダーシップを発揮している場面は

#### 2. 研究者のリーダーシップとは？

WS：研究者のアイデンティティとは、大切にしていることは

WS：あなたの強みは、大切にしていることは

WS：今までの時間であなたの発揮していたリーダーシップは？

WS：研究者のアイデンティティとあなたの強みを加味したあなたらしいリーダーシップを創る

#### 3. 組織目標達成のための、人材育成 一自ら考えて行動できる人、自ら自己と周囲の望む方向に動く人を創り出す、その関わり方（応用行動心理学を基に）

行動の定義と、行動を継続させる力・周囲の影響、ABCモデル

- ・ WS：ABCモデル体験

- ・ 自己に影響を与える言葉・態度・表情、ロールプレイ



講師の話を受け、必ず一人1回発言するように時間設定され、3人1組でワークを行った。プログラム1では、マネジメントとリーダーシップとの違いについて個人で考えたのち、グループ内で意見交換をした。プログラム2では、自分らしいリーダーシップについて考えグループワークを行った。自分自身を見つめ直すことにより新しい気づきを得ていた。プログラム3では、「リイ

ンフォース」「承認されること」について、人は選考条件による行動から結果が生まれるとし、人を動かすために影響することについて講義を受けた。WSではその事例を考え、意見交換をした。最後に、グループ内で「承認の実践」を行い、前向きな気持ちで終わることができた。

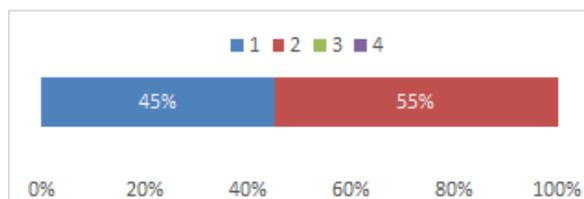
本事業の一環では初めて行ったワークショップ形式の研修であったが、教職員のみならず、就職活動を控えた学生も多く参加して、活発に積極的に取り組む姿が見られた。自分なりのリーダーシップについて考え、それを他者と交換することにより、様々なリーダーシップについて考えることができた。参加者にとって有意義なセミナーとなった。

### 【アンケート結果】

回答数：53名（90%）

#### 2. 本日のリーダーシップ研修についてお答え下さい。

項目	回答数 (人)
1. 非常に有意義だった	24
2. 有意義だった	29
3. あまり有意義ではなかった	0
4. 有意義ではなかった	0



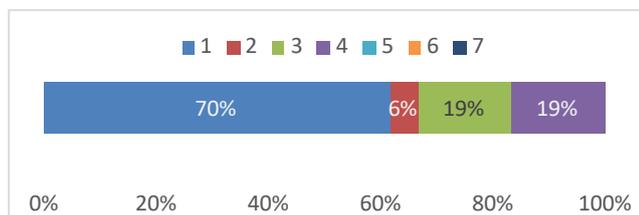
#### 3.2. でそのように答えた理由を教えてください。（自由記述）

- ・ リンフォースについてのお話が興味深かったから。
- ・ マネジメントとリーダーシップを対比させながら、ワークショップを通した非常にアクティブな会で楽しく学ぶことができました。
- ・ 普段あまり考えていないことを考える機会を得ることができた。
- ・ 自身のリーダーシップに対する抵抗感が払拭できた。
- ・ 内面を改めて考える機会になった。
- ・ リーダーシップについて新しい気づきがあった。

- ・ ポジティブになれた。今後のモチベーションがあがった。
- ・ 自己をみつめて、自分らしいリーダーシップについて考えることができた。
- ・ とつともためになる研修でした。一方で、既に聞いたことがある、実体験したことのある内容が多かったとも感じました。大切なことはどの著者、人物が抽出しても共通であると認識できた一方で、何か新しいことを得たかったと感じました。
- ・ ワーク and ワークのメンバーがすばらしかった。
- ・ 自身のリーダーシップ、個性、考え方を見つめ直す良い機会になった。
- ・ 普段聞くことができない、貴重な話を聞くことができた。
- ・ リーダーシップとは、いいリーダーとは、ということが学べたからです。
- ・ リーダーシップ、マネジメントについて考えるいい機会になった。
- ・ ワークショップを通して色々考えることができた。
- ・ 色々使える内容がありました。
- ・ 自分の考えを整理でき、新たな考えを持つことができた。
- ・ 自分を見直すことができた。リーダーシップとマネジメントのちがいが意識できた。
- ・ 日常の課題と明日から出来ることを考えるきっかけになった。
- ・ 学生のモチベーションをあげられる行動について考える事ができたところ。
- ・ 自分をみつめなおすよい機会でした。
- ・ 現在就職活動で悩んでおり、その中で自己分析が不十分だと自分で感じていた。参加して自己分析の助けになり、自分の強みが分かったため。
- ・ 自分を客観的にみる機会はなかなかないため、有意義だった。また、承認することやされることの大切さと嬉しさを実感できたから。
- ・ WS 形式でテンポよくアウトプットとディスカッションができた。
- ・ 新しい考えを得られたため
- ・ リーダーシップについて、あまり自分で考えたことがなかったため、非常に良い機会になりました。リーダーシップはもっと全員で意識をもってやっていくことが大切なのでと感じました。
- ・ 今までにない知識や、講演者の経験を聞くことができた。
- ・ 来年、就職をするのですが、その前にとつとも勉強になりました。
- ・ 自分のリーダーシップについて考えるきっかけになった。
- ・ グループ交流が多くあり、話したことのなかった人とたくさん話せて楽しかったから。リーダーシップとマネジメントの違いについて理解できた。
- ・ 選考条件 — 行動 — 結果 の間の関係が特に勉強になったから。
- ・ 自分を改めて見つめ直す機会になりました。就職活動においても自分を PR できる部分を新たにみつける手がかりになりました。
- ・ workshop

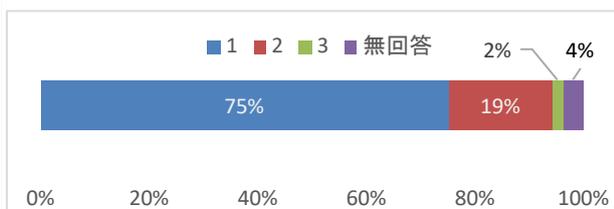
4. 今回のリーダーシップ研修の開催をどのように知りましたか。(複数回答可)

項目	回答数
1. 岐阜薬科大学からの案内	37
2. ポスター等の掲示物	3
3. eメール	10
4. 関係者から聞いた	10
5. プロジェクト通信	0
6. ホームページ	0
7. その他	0



5. 今後もこのような催しに参加したいと思いますか。

項目	回答数
1. 参加したい	40
2. テーマによっては参加したい	10
3. 参加したくない	1

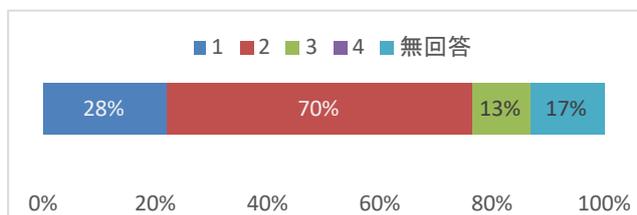


「テーマによっては参加したい」と答えられた方はどのようなテーマであれば参加したいとお考えですか。

- ・ 今回のような、今後の行動に取り入れやすいテーマ。

6. 今後、どのような人の話を聞きたいですか。(複数回答可)

項目	回答数
1. 大学関係者	15
2. 企業関係者	37
3. 行政関係者	7
4. その他	0



**7. 具体的に話を聞きたい人がいれば、名前を書いてください。**

- ・行動心理について、企業内での取り組み等

**8. その他、感想やご意見、今後行ってほしい企画など、ご自由にお書きください。**

・今日のようにただ座って講義を受けるだけでなく、アクティブに他の人と意見交換できて楽しい授業でした。

・面白かったです。

・ワークショップは初のトライだったが、多くの参加者が積極的に参加してよかった。

・体験型ということで、楽しく参加できました。ありがとうございました。

・過去のダイバーシティ研修の中で、最も良い研修でした。

・時間があっというまに感じました。ありがとうございました。

・せっかく学んだので今後がんばりたい。

### 3-3. 研究補助員配置制度

2019年度の研究補助員配置の実績は以下のとおりである。来年度も今年度実績に基づいて実施する予定である。

#### 岐阜大学

2019年度 I期		2019年度 II期
採択者数	4名（うち女性4名）	8名（うち女性7名）
【効果】2018年度（I・II期）	書籍1件、論文10件、学会発表17件 ポスター発表5件、講演1件、受賞1件、その他2件	
2019年度（I期）	論文5件	

#### 岐阜薬科大学

2019年度 前期		2019年度 後期
採択者数	2名（うち女性2名）	2名（うち女性2名）
【効果】2018年度	論文6件、学会発表8件	
2019年度	論文4件、学会発表3件、学位論文1件	

#### 岐阜女子大学

2019年度	
採択者数	1名（うち女性1名）
【効果】2018年度	論文2件、研究会発表1件
2019年度	論文1件

#### アピ株式会社

2019年度	
採択者数	0名

※アピ株式会社においては、研究補助員雇用における労務管理上の問題から本制度については実施しない。

### 3-4. 企業インターンシップ

岐阜大学の女性研究者（1名）がアピ株式会社にて4日間のインターンシップを実施した。インターンシップは、大学における研究成果を地域社会に還元すると同時に大学研究者と民間企業研究者との交流促進を通じて更なる研究の発展を目指す本事業のユニークな取り組みであり、来年度も引き続き実施する予定である。

#### 【インターンシップ実施概要】

参加者：稲垣 瑞穂（岐阜大学 応用生物科学部 准教授）

文科省科学技術人材育成補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」

### インターンシップ実施記録簿

実施日	2019年 9月 6日（金）	担当者	荒木 陽子 
時間	13:30 ~ 15:40		
実施内容	<p>○セミナーと研究所の見学 腸内細菌に関する自身の研究・取り組みについて、30名弱の研究所の方々にご紹介させていただきました。「乳児腸内細菌叢がどのように形成されるのか」を話題とし、乳児の行動との乳児腸内細菌叢の関係、母体と母乳と乳児の腸内細菌叢、ヒト腸内細菌叢再現モデルの培養方法など多岐にわたりご質問いただきました。個別ディスカッションでは、今後の腸内細菌叢の展望について、学術や産業の角度から様々な意見交換を行いました。</p> <p>合わせて、長良川リサーチセンター内の実験施設を見学させていただきました。実験室やデスクワークスペースのデザインなど、新しい試みを拝見させていただきました。討議を重ねる中で、大学での働き方についても、よりシンプルにして時間を作りだす工夫を考えてみたいと思いました（稲垣 記）。</p>		
			
実施日	2019年 9月18日（水）	担当者	荒木 陽子 
時間	15:30 ~ 17:00		
実施内容	<p>○異分野交流 ディスカッション ヒト大腸フローラモデルを中心に討議しました。リサーチセンターの方からは、培養方法や解析方法に関する質問をいただきました。また商品開発が抱えている一般的な問題点をお聞きすることができました。自身の研究が、開発の現場でどのような部分でお役に立てるかを考える機会となりました（稲垣 記）。</p>		
実施日	2019年 9月19日（木）	担当者	荒木 陽子 
時間	13:30 ~ 17:30		
実施内容	<p>○アピ池田工場の見学 生産現場を見学いたしました。OEM企業として顧客のニーズに応えるため、様々な機器・商品形状を揃えてありました。品質検査では、装置に頼るだけでなく、検査員の眼に頼る判断も合わせることで、品質を保証している旨をお聞きしました。入念なリスク管理により、顧客や取引先との信頼を築かれていることを感じました。学生との信頼関係を構築する上で、真摯・誠実であることが重要と思います。場所は違えど、仕事を進める上で信頼は欠かせない事を改めて感じました（稲垣 記）。</p>		
実施日	2019年 9月20日（金）	担当者	荒木 陽子 
時間	13:30 ~ 17:00		
実施内容	<p>○川島養蜂場の見学 ミツバチの生態や習性を中心に話をお伺いしました。「ミツバチ=ハチ=危険！」との認識を持っていましたので触れ合う機会を持ち、ミツバチの印象が随分と変わりました。ミツバチの集団性のお話は大変興味深く、良い刺激となりました（稲垣 記）。</p>		
			



#### 4. 意識啓発のための取り組み

本事業を発展させるためには、性別や役職等にかかわらず連携機関の全構成員、ひいては社会一般の意識変革が重要であるとの認識から、本事業ではシンポジウム、各種セミナーや講習会等を開催している。

2019年度は、9月27日に岐阜大学においてシンポジウム「人口減少時代における新たな社会デザインの構築に向けて―男女共同参画の視点から―」を開催した。第1部では、野田聖子衆議院議員（元女性活躍担当大臣）および柴橋正直岐阜市長による講演、続いて第2部では企業、行政、大学などで活躍する5名が登壇してテーマに関するトークセッションを行った。

シンポジウムが連携機関の取り組みを一般に向けて広く発信する機会であるのに対して、機関内部における意識変革を目指す取り組みとして**意識啓発セミナー**がある。今年度は、アピ株式会社において意識啓発セミナーを実施し、共同実施機関からも多くの構成員が参加した。

**キャリアパス支援講演会**および**ロールモデル講演会**は、大学院生やポスドクなど若手研究者を含めて自身の将来像やキャリアパスについて考える機会提供として位置づけている。研究者としてのキャリアを構築する際、育児や介護などのライフイベントといかに向き合っていくのかについて経験者である女性研究者の話聴くことは、研究者が家庭生活を大切にしながら意欲的に研究者としてのキャリアを追求するうえで重要である。2019年度は、岐阜薬科大学において両講演会が開催され、薬学分野で教鞭をとる女性研究者がそれぞれの経験に基づいてキャリア形成について講演した。

今年度も昨年度に引き続き**ニューズレター**として岐阜大学男女共同参画推進室「かもみーる通信」を毎月発行した。「かもみーる通信」は、岐阜大学および共同実施機関のほか、広く社会に対して本事業の取り組みを発信する媒体として重要な役割を担っている。

#### 4-1. シンポジウム

【演題】 人口減少時代における新たな社会デザインの構築に向けて  
—男女共同参画の視点から—

【日時】 2019年9月27日 14:00～17:00

【場所】 岐阜大学 講堂

【参加者数】 228名（うち女性研究者44名）

岐阜大学 151名、岐阜薬科大学 3名  
岐阜女子大学 5名、アピ株式会社 31名  
その他 38名

#### 【プログラム】

第1部 講演 14:05～15:15

14:05～14:45 野田 聖子 元女性活躍担当大臣・衆議院議員

14:45～15:15 柴橋 正直 岐阜市長

<15:15～15:25 休憩>

第2部 トークセッション 15:25～16:30

柴橋 正直 岐阜市長

野々垣 孝彦 アピ株式会社 代表取締役社長

原 永子 岐阜県 男女共同参画・女性の活躍支援センター長

速水 悟 岐阜大学 工学部教授

落合 絵美 岐阜大学 男女共同参画推進室特任助教

16:30～16:45 質疑応答



9月27日（金）、シンポジウム「人口減少時代における新たな社会デザインの構築に向けて—男女共同参画の視点から—」（文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）・岐阜大学創立70周年記念事業）を開催した。

第1部では、野田聖子衆議院議員（元女性活躍担当大臣）および柴橋正直岐阜市長が講演した。野田議員は、意思決定の場に女性が少ないことが日常生活や法律に及ぼす影響について具体例を挙げながら説明し、男女共同参画やダイバーシティの重要性について強調した。柴橋市長は、「岐阜市の政策・課題」をテーマに、人口減少対策としての子育て支援や観光振興および都市整備構想について、各種データを用いながら紹介した。

第2部のトークセッションでは、柴橋市長のほか野々垣孝彦アピ株式会社代表取締役社長、原永子岐阜県男女共同参画・女性の活躍支援センター長、速水悟岐阜大学工学部教授、落合絵美岐阜大学男女共同参画推進室特任助教が登壇した。ここでは、人口減少が地域経済や地域社会に及ぼす影響、限られた人材でよりよいサービスを提供するための職場環境の整備やテクノロジーの活用など、企業、行政、大学で活躍する登壇者が多角的な視点から「新たな社会デザイン」について議論した。

二百人を超える参加者からは、「男女共同参画が『女性の問題』ではなく『社会全体の問題』であることが理解できた」等の感想が寄せられるなど、充実した内容のシンポジウムとなった。



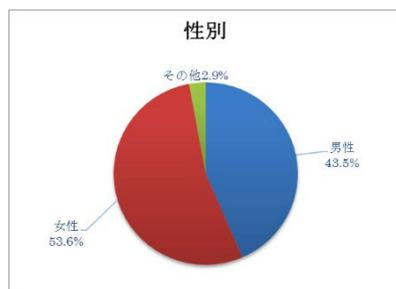
**【アンケート結果】**

回答数：69名（回収率 30.3%）

1. あなたについて教えてください。

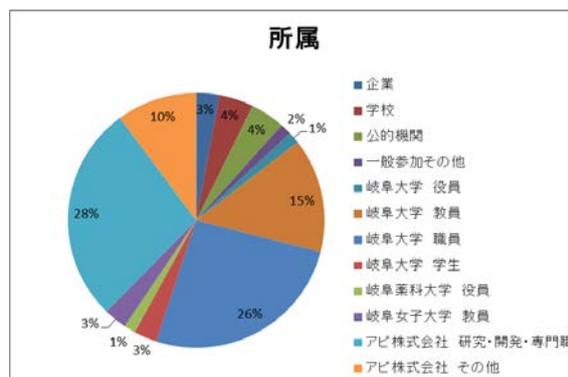
■性別

項目	回答数 (人)	%
全体	69	100.0%
男性	30	43.5%
女性	37	53.6%
その他	2	2.9%



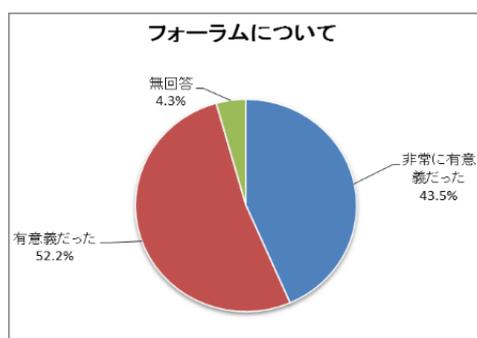
## ■所属

項目	回答数 (人)	%
全体	69	100.0%
企業	2	2.9%
学校	3	4.3%
公的機関	3	4.3%
一般参加その他	1	1.4%
岐阜大学 役員	1	1.4%
岐阜大学 教員	10	14.5%
岐阜大学 職員	18	26.1%
岐阜大学 学生	2	2.9%
岐阜薬科大学 役員	1	1.4%
岐阜女子大学 教員	2	2.9%
アビ株式会社 研究・開発・専門職	19	27.5%
アビ株式会社 その他	7	10.1%



## 2. 本日のシンポジウムについてお答えください。

項目	回答数 (人)	%
全体	69	100.0%
非常に有意義だった	30	43.5%
有意義だった	36	52.2%
無回答	3	4.3%



## 3. 2.のお答えについて理由を教えてください。

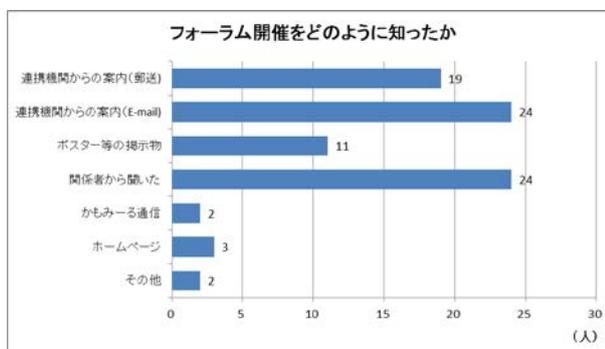
- ・ ダイバーシティ推進と働き方改革がリンクしていた点が秀逸だった。ボトムアップとトップダウンの両方から議論があって良かった。
- ・ 産官学それぞれの特色を活かした今後を探る取り組みが分かった。
- ・ 野田議員の発言は、男性・女性に偏りなく「トータルに考える」という一言があり、男女共同参画にふさわしい内容であり、気持ちよく聞くことができたため、参加して満足感を得ることができた。

- ・ 野田議員の講演に男性の方々が頷きながら聞いていた。他分野からのご意見が聞けた（トークセッション）。特に速水教授の登壇は興味深かった。
- ・ 様々な立場の方々の話が聞けたため。改めてダイバーシティのとらえ方を確かめることができ、視点が広がった。
- ・ 各分野の立場から、色々な考えを聞くことができて良かった。
- ・ これまで深く考えてこなかった、分かっているようで知らなかったことを具体的に教えてもらうことができた。
- ・ 女性の働き方について、市や県、企業の取り組みが聞けて良かった。
- ・ 今後、結婚・出産してからの働き方改革を考えるきっかけになった。
- ・ 女性だけでなく、子供、高齢者、性的マイノリティー等の人々が生きやすい社会は、全ての人々にとって生きやすい社会だというメッセージが心に残った。
- ・ 女性の活躍は社会全体の問題だということ。
- ・ 行政・企業と全ての環境が連携して改革していくことが必要と考える。このような取り組みを岐阜が行なっていることを知り大変有意義。
- ・ 岐阜市の取組が興味深かった。
- ・ 少子高齢化の中で日本は男女共同参画を含めて考えねばならないから。
- ・ 幅広い情報を得られた。
- ・ 改めて男女共同参画について考えることができた。
- ・ プロセスに女性が常に関与することで社会の仕組みが最適化できるのではないかというイメージを持つことができた。
- ・ 女性が働き方について相談できる場所があると知ることができた。
- ・ 各分野の方々の話が聞けた。人工知能の多くの分野での現在の導入実績を知ることができた。
- ・ 国会議員や企業といった立場の違う人々の意見が聞けた。
- ・ 新しい取り組みについて、具体的に知ることができた。
- ・ 野田議員のお話を直接伺うのは初めてで、とても心に残った。
- ・ 市長の話が直接伺える機会を得られた。
- ・ 講演の内容に特に説得力があった。
- ・ 岐阜市やスマート社会など知らないことが多くあり、大変興味深かった。
- ・ 岐阜市政について詳しく聞けた。
- ・ 女性活躍という言葉をよく耳にするが、国会で活躍されている野田議員のお話を聞き、まだまだ男性と女性で待遇が異なることがよく分かった。男性が多く働く職場にいる方のお話を聞くことができ、有意義な時間を過ごせた。
- ・ 男女共同参画を社会デザインの切り口で見直すきっかけになる。
- ・ 女性の活躍推進の妨げになるのは、反対意見ではなく無関心であるという新しい気づきを得られた。

- ・ 野田議員の講話がとても興味深かった。
- ・ 女性が活躍できる社会という言葉をよく聞くが具体的にどう変化していくが必要になるかについてあまり分かっていなかったが、野田議員の講話を聞いたことで現在何が問題でどのように行動していくべきかを少し考える良い機会になった。
- ・ 県、市からの政策の方針をいただけた。速水先生の AI 関係のトークを聞いたことで視野が広がった。非常に有意義と思う。
- ・ ダイバーシティ社会を実現するには、多方面からの改革が必要であることがよく分かった。
- ・ 意識改革の場として。
- ・ 産官学のダイバーシティのリーダーが一堂に集まり、シンポジウムを開催されたことは有意義だった。
- ・ 人口減少の深刻さが分かった。
- ・ ダイバーシティの視点から、様々な情報を知ることができた。
- ・ これからの日本について考える良いきっかけになった。また、岐阜市の取り組みについても具体的に知ることができた。
- ・ 野田議員の話を直接聞ける機会は貴重だ。
- ・ 有識者からの多様な考えが聞けて良かった。
- ・ 柴橋市長の話は興味深かった。
- ・ 岐阜で現在実施している施設を紹介いただき、参考になった。原センター長の相談者のお声は身近に感じる内容で、「自分も何とかなる」と思える内容だった。
- ・ 野田議員の講演や柴橋市長の岐阜市ビジョンが聞けたことで、改めて岐阜市の良さを知ることができた。「ええとこたんと岐阜市 2019」は素敵だと思う。
- ・ 野田議員の講演があったから。不妊治療（子を産む選択）、子育て（息子様）との両立を身をもって実践されている鉄母で、10 年以上前からずっと尊敬している方の一人。こういう方からの言葉には説得力がある。
- ・ シンポジウムのテーマに関して、無知 and 無関心であった自分を気付かせてくれた。非常に勉強になった。
- ・ 娘が 6 ヶ月の男の子の子育て真っ最中であるため、里帰り 2 か月、アパートに戻って 1 ヶ月、計 3 ヶ月のサポートをして子育ての大変さを再実感している。自分の時間のないストレスの多い娘の子育ての悩みと関係のある内容ばかりで参考になった。特に後半のセッションは、関わってみえた皆様のお人柄や解りやすいお話に幸せを感じた。参加できたことにご縁を感じた。目先の自分の仕事だけを如何に楽に過ごすかという姿勢の職員ばかりの狭い考えのところで仕事していることを淋しく感じる。先を見据えた未来を考えている方々の話に感動した。
- ・ 外国人に関する言及があると尚良かった。

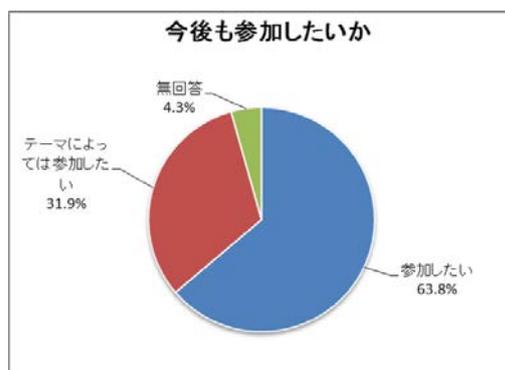
4. 今回のシンポジウムの開催をどのように知りましたか。(複数回答可)

項目	回答数(人)
連携機関からの案内(郵送)	19
連携機関からの案内 (E-mail)	24
ポスター等の掲示物	11
関係者から聞いた	24
かもみーる通信	2
ホームページ	3
その他	2



5. 今後もこのような催しに参加したいと思いますか。

項目	回答数(人)	%
全体	69	100.0%
参加したい	44	63.8%
テーマによっては参加 したい	22	31.9%
無回答	3	4.3%



「テーマによっては参加したい」と答えられた方はどのようなテーマであれば参加したいとお考えですか。※その他の回答を選択された方も、興味深い催しのアイデアがございましたらお書き込みください。

- ・ 子育て中の女性をサポートする家族などにも何ができるのかについて。男性側の子育て 1 日体験をしてもらうなど、たまに手伝うだけでは本当の大変さが実感できないという主婦の気持ちを解ってもらえる催し。
- ・ 生産性を高める働き方。新しい雇用形態と働き方など。
- ・ ダイバーシティとテクノロジーという観点から、障害者、特に重度障害者の社会参加をテーマにしてはどうか。
- ・ 女性の働き方。
- ・ 他社企業で働く女性の仕事の捉え方や考え方について。
- ・ 岐阜の魅力。

- ・ 女性のキャリアについて。
- ・ 「女性と技術」 女性と技術について、トーク・講演会があれば参加したい。
- ・ 人づくり、人格形成。
- ・ 貴重な体験ができるもの。

#### 6. 今後、女性の活躍推進のために、どのような取り組みが必要だと思いますか。

- ・ アピ社・野々垣社長のお話にあったように、企業における育児に役立つ施設の導入。娘の配偶者が教師をしており、育休の取りにくさや、年休の取得推進で初めて平日の休暇を取得してもそのしわ寄せで土日の休暇が削られてしまう現実がある。サービス残業の酷さ。女性が働きやすい社会で男性も、の前に「男性の働きやすさ」を見直さなければ女性一人で子育てを抱え込んでしまう。
- ・ 女性の多様性に対応できる支援。男女共同参画の視点を全ての人に伝えていくこと。
- ・ 制度の整備と徹底した実施。また、それが実現されるような工夫の創出（例：スウェーデンの480日制度）。
- ・ 幼少期からの人権教育と自立のための責任感の醸成。こどもの頃から将来に向けてあらゆる可能性を応援すること（性差にこだわらず）。バリアを取り除く努力、気づく感性を持つこと。
- ・ 今の日本社会は、日本の文化が基盤にあり、それに基づいた意識があり、それをいかに変革させるかに関わる。
- ・ 全ての人の意識改革。
- ・ 柔軟な働き方や雇用契約が増えること。
- ・ 文化（社会デザイン）の変革により、全ての人が生きやすい社会の実現。
- ・ 地域をあげて魅力のある岐阜市を創る。人を集める必要がある。
- ・ 育児休暇など社会インフラの整備。
- ・ このような会を繰り返し行い、理解を深めることが大切だ。
- ・ 母でも嫁でも妻でもない時間を作る取り組み。
- ・ 社会的な補助、企業の考え方の変革。
- ・ 制度を整えることも重要だが、互いに理解していく下地を構築していく努力も必要だ。
- ・ 子育て中の女性がフレックスタイムを利用するなど、子育てをおろそかにすることなく働ける会社の取り組み。個々に合った仕事の紹介。
- ・ 男性の多い職種、業界に女性を増やすこと（逆も大事）。
- ・ 男性の視点からできる取り組みに関するシンポジウム、セミナー等。人口減少を考えるテーマは良い。
- ・ 客観的視点からあらゆる偏見をなくす取り組み。
- ・ 様々な業種、職種の女性が抱えている悩みや職場の問題をヒアリングし発信していく必要がある。義務教育を受けるこどもたちに、大人になってから男女差別をしないように話し

合いの場や教育をする必要がある。

- ・ 同じペースで進んでいる少子化問題は、高齢者問題でもあるとみなし、まとめて議論する場があると新しい視点がまた得られるのではないか。
- ・ 活躍推進に携わる人のみならずこれまで無関心だった人々にも問題を知ってもらい、関心を持っていただくことが必要だ。
- ・ 男性の育児休暇の取得しやすさ。産休育休を含めたキャリアプランの作成。
- ・ 様々な立場の女性同士が、意見を交換できる場、または男女の働き方に対する考え方の違いについてすり合わせを行えるような場があれば、男女で同じ方向に向かうことができるのではないか。
- ・ 女性が職場で自分の考えをどのように伝えるかについてのセミナーが欲しい。
- ・ 男性、女性双方の意識改革。
- ・ 職場復帰の支援（産育休後すぐに戻れる）。
- ・ 男性の理解・行動。企業のダイバーシティに対する体系的な取り組み。
- ・ このようなシンポジウムを続けていくことが必要。
- ・ こどもを育てる支援隊の発足（比較的元気なお年寄り、又は社会復帰を願う引きこもり/不登校だった青年に認証を与えて、保育園・幼稚園で遊びや歌や先生たちのサポートに関わってもらえる等の実施（場合によっては予算を出す）。夫（妻）の交代制（役割分割）Work Breakdown Structure 時期による。（例 0～6 歳、6～15 歳）
- ・ ダイバーシティを阻害するもの＝多数者の無関心と理解した。他社への興味を持つかどうかは鍵かもしれない。
- ・ 女性が教育研究に安心して取り組めるようにこどもの保育施設の充実、学校教育施設の充実を進めてほしい。
- ・ 家庭との両立のために、休暇を取りやすくし（子育て、介護等）、こどもが病気・学校行事の時に抜けられるような職場の理解。保育園の充実。
- ・ 柴橋市長の話にもあったが、男性に対する取り組みも必要だ。
- ・ 育児短時間勤務者及びその部署へのフォロー。
- ・ 現代よりも性別役割意識が強いなかで鍛え抜かれ仕事との両立に成功してしまった先輩女性、家族・子育てを望まないことを選択した女性や社会人になる前の若者への理解促進のための取り組み。男性（特に若年）は思いのほか理解に努めて下さっている印象を受けている。
- ・ 各個人の意識改革を行なうこと。

#### 7. その他、感想やご意見、今後行ってほしい企画など、ご自由にお書きください。

- ・ 狭いアパートで母子二人で子育てしているのを見ていると、外へ連れ出しモレラやマーサで気晴らしすることは重要。（他施設など）ベビーの部屋も充実してきており、そういった施設が今後も増えることも期待する。岐大西の巨大モール計画が進んでいないと聞いている。

るが、岐阜市長にはこの計画が進むことで子育て世代の女性の助けになると伝えて欲しい。前半（第1部）で帰る方が多い中、後半（第2部）まで残って本当に良かったと満足している。

- ・ 最後の林副学長の挨拶がとても素敵だった。
- ・ 本日は誠にありがとうございました。
- ・ 最新技術とそれにより変化するであろう生活の予想。
- ・ 良い学びになった。ありがとうございました！
- ・ 貴重な体験ができた。ありがとうございました。
- ・ ありがとうございました。
- ・ 初めて政治家の話真剣に聞いたが、面白かった。
- ・ 女性が今後どのように活躍するのか、少しでも具体的に考える良い機会になった。このようなシンポジウムに出席できてとても貴重な経験をさせていただいた。ありがとうございました。
- ・ 大変素晴らしい企画だった。ありがとうございました。
- ・ 最後の1分トークが、同じ話が一部あり長く感じた（動画を活用してほしい）。トークセッションの中にユーモアなどがあれば、もっと多くの方が聞いてくれると思う。最後の速水先生の話が少なかったのが残念。最後の大藤理事の話がよかった。
- ・ 第2部のトークセッションで参加者数が減ったのが残念だった。

## 4-2. 意識啓発セミナー

【演題】 私からの多様性活躍支援メッセージ

～しなやかに、そしてたくましく～

【講師】 清島 真理子氏（岐阜大学 医学系研究科

皮膚病態学 教授）

【日時】 2020年2月12日（水）13：30～14：45

【場所】 アビ株式会社 本社 4階 大会議室

【参加者数】 60名（内 女性研究者7名）

岐阜大学1名、岐阜女子大学1名、アビグループ58名



清島先生は、2009年に岐阜大学初の臨床系女性教授に就任される。同時に、2009年より、岐阜大学医学部・附属病院女性医師就労支援の会代表を務められ、キッズサマースクール、お留守番部屋、女性医師支援懇親会等の行事開催に携わられる。又、2010年～2015年の期間、岐阜大学男女共同参画推進室室員も務められる。家庭では、既に独立されている2人の息子の母親でもあります。



本セミナーでは、医療業界における女性の現状を説明され、ご自身のキャリアについて話された。そのキャリアを踏まえ、今後、女性が働き続けるためには、どのような心がけや対策をするとよいかを具体的にアドバイスされた。

日本女性の年齢階級別労働率と同様に、医療業界の女性においても、M字カーブが描かれる30代あたりに労働力率が下がることは変わらない。しかし、医師の場合、一般的な出産時期とされる

30代前半に、専門医になるために必要な常勤、専門医試験など、忙しい時期が重なり、女性医師が減少する。従って、女性医師を増やすためには、仕事と家庭の両立支援が必要と主張された。また、女性医師のアンケートをみると、柔軟な勤務体制に対処できるような「お留守番部屋」や、男女が協力して男女ともに働き続けられるような意識改革などの対応が求められていた。現在、それらの対応を推進しつつ、今後、更なる改善のため、「主治医制度」「宿直勤務」「評価制度」の見直しの必要性を言及された。

清島先生は、子育ての時期に、夫の看病、医師としてのキャリア形成を両立されている。そのような経験を踏まえ、女性が働き続けるためには、女性自身が考え方を「時に柔軟に考えるしなやかさ」と「時に、強気でやり遂げるたくましさ」を持つこと、そして、努力を楽しむこと、感謝し、振り返ることの大切さを語られた。さらに、事前準備や協力体制の構築など具体的な対策

についても言及された。この実体験を踏まえた考え方や具体的な対策には、参加者から賛同の声も多く、有意義なものとなった。

### 【アンケート結果（抜粋）】

アンケート回答数：60名/60名（回答率100%） ※一部の設問にて無回答あり

#### 1. あなたについて教えてください。

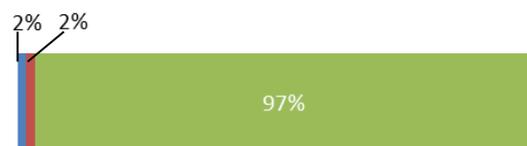
##### 性別

項目	回答数(人)	割合
■ 男性	33	55%
■ 女性	27	45%
その他	0	0%



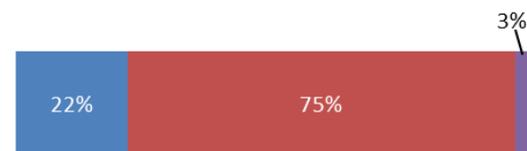
##### 所属

項目	回答数(人)	割合
■ 岐阜大学(職員)	1	2%
■ 岐阜女子大学(教員)	1	2%
■ アピグループ	58	97%



#### 2. 本日の意識啓発セミナーについてお答えください。

項目	回答数(人)	割合
■ 非常に有意義だった	13	22%
■ 有意義だった	45	75%
あまり有意義ではなかった	0	0%
■ 有意義ではなかった	2	3%



#### ※理由

- ・ご自身の経験をもとにしたアドバイスが非常に説得力がありました。困難な時代（子育て期）を乗り越られたモチベーションとそれを支えた周囲の環境が参考になりました。アピとしても、そこを乗り越える支援を考えていかないといけないと感じました。
- ・実体験を踏まえ、お話しされ、大変感銘を受けました。
- ・働くということに対する自分の意識について、また改善点等を発見できたため。
- ・女性視点の社会における将来の在り方を考えさせられました。
- ・医療、一般企業も仕事と育児の両立について、同様の課題があると感じました。日本における30歳のM字カーブから脱却できる様、支援プロジェクトに賛同致します。
- ・医者の世界は高度プロフェSSIONナルであり、自分の時間が取れない。職務として、どのよう

にしたら働き易い世の中になれるか是非とも教示願えればよいと思った。

- ・日本医療の詳しい現状を知ることができました。
- ・仕事を上手に続けるためのアドバイスや子供の教育方法など、いろいろ教えて頂き、今後の生活に役立つと思います。
- ・現在、自分自身の生活の中で、仕事と家庭を両立することにいっぱいいな毎日であり、いずれも育児と母親というのが自分にできるのか不安しかありませんでした。ですが、今回のセミナーに参加させていただいたことで、今後の考え方が変わり、自分にももっと努力をしていきたいと思えるようになりました。
- ・自身の疲れ、グチを家庭内に持ち込まない事、幼稚園の送りお迎えなど、男性側が協力すべき事（できる事）があるのを学べた。
- ・女性の年齢階級を上げるためには、社会、周囲の理解が必要だと感じます。男性の家庭への参画はもっと必要。
- ・評価するという視点の重要性を考えることができたから
- ・様々な人がいて、様々な考え方があり、それに対する考え方・対応が必要だと感じた。
- ・多様化していくなかで、個人の意識や周囲の協力以外にも、国、会社のレベルで対応していかないと、女性が望むような働き方は難しい。しかし、まずは個人のレベルで変化していけることをやっていくことも大切だと感じた。
- ・仕事に向ける姿勢を見直す機会になりました。社会のしくみを欧米並みに成熟させていく重要性がよくわかりました。

### 3. 今後もこのような催しに参加したいと思いますか。

項目	回答数(人)	割合
■ 参加したい	37	62%
■ テーマによっては参加したい	21	35%
■ 参加したくない	0	0%
■ 無回答	2	3%



#### ※興味深い催しのアイデア

- ・男性からみた育児について
- ・男性の立場から育児支援、介護支援
- ・仕事と家庭の両立について
- ・保育問題に関する企業、行政の取り組み姿勢について  
(何が課題解決への阻害要因となっているか等)
- ・少子高齢化
- ・研究、開発、技術者の取り組み事例等
- ・職場環境改善など
- ・これからの日本未来について

- ・管理職の育成など

4. どのような人の話を聴きたいですか。(複数回答可)

項目	回答数(人)
大学関係者	14
企業関係者	47
行政関係者	14
その他	1

**※具体的に**

- ・地元出身の官僚

5. その他、感想やご意見、今後行ってほしい企画など、ご自由にお書きください。

- ・本日は有意義なセミナーに参加し、良い機会となりました。ありがとうございました。
- ・普段では聞けない話は聞けたので、参考になった。
- ・県内企業でのキャリアアップが進んでいると思われる企業経営者、又は女性経営者の生の声が聞きたい。
- ・男性社員向けの意識啓発セミナー。
- ・ダイバーシティに対する取組について、企業、行政における実例を聴きたいです。
- ・職種・立場が違う方々のお話しを聞きたいです。又、男性の意識が育児・介護協力できる様、高めていけるセミナーも良いかと思います。
- ・勤務時間、特に時間外勤務に対する意識改革に関する問題。効率よく勤務するには？
- ・今後、2025年に向けて、高齢者活躍や、労働者人口減少の中で、企業は、どんな事に気をつけたらよいか、そんな話が聞きたい。
- ・介護と病気の仕事の両立について。

### 4-3. キャリアパス支援講演会およびロールモデル講演会

#### キャリアパス支援講演会

【演題】 ノーベル賞の薬イベルメクチンを妊婦や子供に届けるために  
～女性薬剤師が研究者となり夢の実現～

【講師】 小茂田 昌代 氏（東京理科大学薬学部薬学科 教授）

【日時】 2020年1月28日（火） 15：00～16：30

【場所】 岐阜薬科大学本部 第二講義室

【参加者数】 104名（うち女性研究者 6名）

岐阜薬科大学 99名、岐阜女子大学 1名、アビ株式会社 4名



講師は、現職の大学教授に至るまで、研究職と病院薬剤師と経験し、学位を取得した。研究職であるあいだに出産され、保育園に預けながら仕事を続けたという。昭和50年代後半～60年代、子供を預けて働くからには意義のある仕事、世の中の役に立つ仕事をしたいという気持ちを支えるに頑張ってきた。

講演では、テーマにあるとおり、ノーベル生理学・医学賞受賞で注目されたイベルメクチンについて、日本で発見されたにもかかわらず国内未認可であった薬が厚生労働省において承認されるまでの活動・取組みについて紹介された。エビデンスを出すため臨床試験を行ったが、この経験により、臨床試験から薬剤師が関与していくことの重要性を実感したという。大学の研究室の第一歩が苦しんでいる患者を救うこともある。薬剤師とは、薬がないのであれば患者を守るために動かなければ存在意義がないと実感したという。

また、疥癬治療に有効であるイベルメクチンを、子供から大人まで安全に使用できるように研究してきたことを紹介していただいた。ここでも、疾病治療チームとして、病気を治療する医師だけではなく、薬を適切に使用するために薬剤師の存在意義があると話された。

最後に、講師の現在の研究テーマの一つでもある日本版アカデミック・ディテリング（公正中立な基礎を臨床につなぐ科学的視点とエビデンスを基に医薬品比較情報を能動的に発信する新たな医薬品情報提供アプローチ）について、紹介された。医薬品について患者への丁寧な説明以上に、医師に説得力をもって説明することにより医師の処方行動に影響を与えることができる。結果、患者を救うことになる。薬



剤師にはまだやるべきこと、できることがある。

薬剤師を目指す学生に、「薬剤師になるのは、活躍するため。医師が知らないこと、分からないことを薬剤師は行うことができる。薬の専門家として処方最適化に貢献して。」と激励の言葉をうけた。

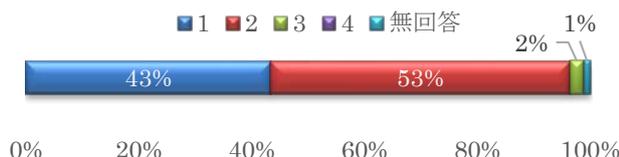
今回の講演会では学部生が多く聴講しており、臨床薬剤師と研究者と両者を経験している講師の話は非常に有意義で、卒業後のキャリアパスがイメージしやすかったと思われる。若手の研究者・薬剤師にとっても自分の現時点の課題や、今後に向けて取り組むべきことなど、具体的に考えることができる有意義な機会となったと思われる。

### 【アンケート結果】

回答数：83名（79.8%）

#### 2. 本日のキャリアパス支援講演会についてお答え下さい。

項目	回答数(人)
1. 非常に有意義だった	36
2. 有意義だった	44
3. あまり有意義ではなかった	2
4. 有意義ではなかった	0



#### 3.2. でそのように答えた理由を教えてください。（自由記述）

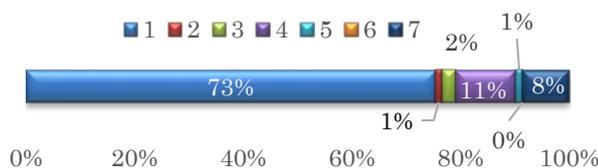
- ・ これからの臨床現場での薬剤師の仕事について知ることができたのでよかったです。
- ・ とても興味のある演題で、女性の視点からのお話が聞けた。
- ・ 薬剤師の活躍の仕方が具体的にわかったため。
- ・ 新たな知識を得ることができ、また、海外の状況や新たな視点を知ることができたから。
- ・ 女性薬剤師の方で研究をされている方のお話を聞く機会がなかなかなかったため。
- ・ 薬剤師ならではの科学的な視点が、医師から求められていることが分かり、今後自分がどんな薬剤師を目指すのかという部分で参考になった。
- ・ 研究の苦勞を知ることができた。
- ・ ノーベル賞を受賞された大村智教授が見つけたイベルメクチンが寄生虫だけでなく様々なものに効果があることが分かった。臨床試験を行うさいのデザインについて、どのような点について議論し、注意するかがとても分かりやすかった。
- ・ これからの薬剤師の職能、伸びしろを知ることができたから。
- ・ 自分の知らないことがあって興味深かったから。お風呂での治療など。
- ・ アカデミックディテリングについては知らなかったので学べたから。またイベルメクチンのお風呂での治療法は画期的であり、興味をもったから。

- ・ 海外と比べた日本の現状や、日本の薬剤師がこれからどうなっていかなければいけないかを非常に考えさせられたから。
- ・ 女性でノーベル賞の科・化学部門で受賞は少ないため興味深かった。
- ・ 薬剤師の職務について考えさせられる内容だったため。
- ・ アタマジラミ症の現状について知ることができた。イベルメクチンのお風呂など面白いアイデアについて知ることができた。
- ・ 薬剤師の今後の在り方を考えることのできる講演であった。
- ・ 目指すべき薬剤師像の参考になった。
- ・ 普段薬剤師の方の仕事内容をここまで深く知る機会はないので、面白かったです。ただ、ダイバーシティという視点と今回の内容がっているか、少しひっかかりました。
- ・ 薬剤師ののびしろについて、米国と日本との違いについてとても理解できた。また、将来の薬剤師像を想像できたので非常に有意義だった。
- ・ 女性薬剤師が研究をして治療薬を上市する過程が分かった。
- ・ 様々な分野（研究、臨床）での話を聞くことができ、刺激となりました。
- ・ ノーベル生理・医学賞の内容をきけたから。
- ・ アタマジラミ症や疥癬などの治療については詳しく知らなかったので興味深かったです。またイベルメクチンについてアタマジラミ症に使われているのを知らなかったのが驚きでした。
- ・ 薬剤師の今後の臨床現場での希望を見せてもらえました。
- ・ 普通の学習とは異なる視点からイベルメクチンの有用性・可能性について知ることができたため。
- ・ 薬剤師の将来あるべき姿をイメージできたから。
- ・ 将来、薬剤師としてはたらく上で目指すべき姿を明確にするために、参考になりました。
- ・ 同じ女性としてどのようなことを研究してきたなどを聞いてよかった。
- ・ イベルメクチンの新たな可能性を知ることができた。
- ・ アカデミック・ディテリングについて知ることができたから。
- ・ 話題になったイベルメクチンを取り巻く現状について詳しく知ることができ興味深かったです。
- ・ 具体的な話が多く、将来の薬剤師像を考えるのに、とても役立ちました。
- ・ 今ある薬を日本でも使えるように精力的に活動されており、薬剤師もこんなにやれることがあるのかと思いました。
- ・ 同じ子供を持つ身であり、また薬剤師として大変な点や、仕事内容に関して有意義な所が伺えたため。
- ・ 薬剤師の方が臨床で業務されるという話は初めて伺いました。機会があれば Informed Choice にして、自分が処方される薬を選択してみたいと感じました。より納得のいく、満足度の高い治療になると思います。

- ・ 治療薬の日本における現状や、米国での事例を通じた事例紹介によって、今後の意欲が増しました。
- ・ 研究者で薬剤師の人の話を聞いて、キャリアの勉強になった。
- ・ 頭じらみや、かんせんなどの日常生活にかかわる疾患の薬の認可に向けた動きについての講義をうけたことがなかったから。
- ・ 実験デザインの考え方を学んだ。
- ・ 薬剤師の役割について再認識できた。
- ・ 臨床の話聞いた。
- ・ イベルメクチンお風呂など、大変興味深かったです。
- ・ 薬剤師としてどうあるべきか自覚できたから。
- ・ 臨床での疥癬患者ケアを経験していたので、今回の薬物療法について興味があった。よく分かり有意義だった。
- ・ 薬剤師から研究員になられたということに興味をもったから。
- ・ 薬剤師の職域が広くなりつつあることを知れてよかった。
- ・ 具体的な病院患者の薬の相互作用に対する体験の話に興味深かった。
- ・ イベルメクチンというあまり知らない薬について様々な側面から知ることができた。
- ・ ノーベル賞受賞の新薬の臨床試験の様子を聞いたこと。
- ・ 効く薬がない、副作用の問題で服用できないなど問題がある時もあきらめずに考えて行動することが患者を救うことが分かった。
- ・ 今までになかった新しいテーマであったため。
- ・ 薬剤師の職域のあるべき姿を示していただき感銘を受けた。
- ・ ノーベル賞薬イベルメクチンを深く知り得た。又、有意義な薬の商品化がアメリカであったこと、日本の力の微力さを認識した。女性薬剤師の重要性を再認識した。ディテリングの意味を深く認識した。

#### 4. 今回のキャリアパス支援講演会の開催をどのように知りましたか。(複数回答可)

項目	回答数
1. 岐阜薬科大学からの案内	61
2. ポスター等の掲示物	1
3. eメール	2
4. 関係者から聞いた	9
5. プロジェクト通信	1
6. ホームページ	0
7. その他	7



5. 今後もこのような催しに参加したいと思いますか。

項目	回答数
1. 参加したい	54
2. テーマによっては参加したい	24
3. 参加したくない	3



「テーマによっては参加したい」と答えられた方はどのようなテーマであれば参加したいとお考えですか。

- ・ 自分の将来の進路に関わるようなテーマ
- ・ 希少疾患の創薬研究
- ・ 臨床薬剤師を目指そうと思っているので、それに役立つテーマ
- ・ 製薬会社の研究職、開発職について
- ・ 介護と仕事の両立
- ・ 進路に一致する職業
- ・ 医師 長谷川和夫先生
- ・ 女性が社会で貢献しているお話が聞けると励みになります。
- ・ ウイルス系や微生物系

6. 今後、どのような人の話を聞きたいですか。(複数回答可)

項目	回答数
1. 大学関係者	33
2. 企業関係者	42
3. 行政関係者	27
4. その他	3



その他

- ・ 病院、薬局で働く薬剤師

7. 具体的に話を聞きたい人がいれば、名前を書いてください。

- ・ 県庁
- ・ 研究室の教授

8. その他、感想やご意見、今後行ってほしい企画など、ご自由にお書きください。

- ・ 貴重な講演いただきありがとうございます。
- ・ とても興味深い話をありがとうございました。

## ロールモデル講演会

【演題】女性研究者・医療職として等身大で生きる  
～ワークライフバランス～

【講師】錦織 淳美 氏 (岡山大学病院薬剤部・薬剤師、Pharm.D.)

【日時】2019年11月19日(火) 13:00~14:30

【場所】岐阜薬科大学本部 第二講義室

【参加者数】97名(うち女性研究者 3名)

岐阜薬科大学 94名、岐阜大学 1名

岐阜女子大学 1名、アピ(株) 1名

岡山大学大学院薬学系附属岡山大学病院薬剤部・薬剤師、Pharm.D. 錦織 淳美 氏

日時：令和元年11月19日(火) 13:00~14:30  
場所：岐阜薬科大学本部 第二講義室

岐阜薬科大学 岐阜大学 岐阜女子大学 アピ株式会社

〒505-8585 岐阜県岐阜市学館1-1-1  
Tel: 058-209-4100  
e-mail: shunami@phs.gyus.ac.jp

講師は岐阜薬科大学卒業生であり、卒業後にアメリカのフロリダ大学薬学部にて臨床薬剤師の学位である Doctor of Pharmacy (Pharm.D.) を取得した経歴を持つ。現在は大学病院の薬剤師として、調剤や服薬指導などを行う薬剤師業務、臨床研究活動、大学の講義で教壇に立つなど、幅広く活躍されている。

まず、医療人が行う研究について、講師が行っている研究の概要紹介された。業務中に持った疑問点が研究課題になるという。また、科研費を取得し、地域医療に貢献すべく活発に研究活動を行っていることが紹介された。研究の一環として行った海外視察や、岡山大学の海外派遣プログラムにより得られた海外の状況について紹介があった。

続いて、保険薬局薬剤師向けのシミュレーション教育の開発について紹介があった。

最後に、ワーク&ライフ・バランスのとり方について、講師の実経験にもとづき話していただいた。岡山大学の取り組み、さらに今後の目標についてお話しいただいた。家庭(プライベート)と仕事のバランスをとり、そのために家族や友人の協力を得たり、仕事の選択(在宅でできる業務)を行ってきたりした。気力、体力、公私ともに時間を確保し自分の中で優先順位をつけてバランスをとり、志を維持していくことの重要性をお話しいただいた。学生や研究者にとって励みになるものであったと思われる。岡山大学ではロールモデルの紹介やメンター制度拡充などで働きやすい環境づくりに取り組んでいる。また医療現場でも WEB カンファレンスの浸透などでキャリアアップ・スキルアップする機会が多くある。

まとめとして、研究者として続けていくために重要なこととして、研究マインド(疑問点や問題点の抽出、気力の維持)、チームの協力、情報収集・推進力と時流を感じるアンテナを常に立てているこ



と、を挙げられた。また、自身のキャリアに特性を見つけて伸ばしていく努力を惜しまない重要性も述べられた。周囲の人々の協力や理解を得る努力も重要である。

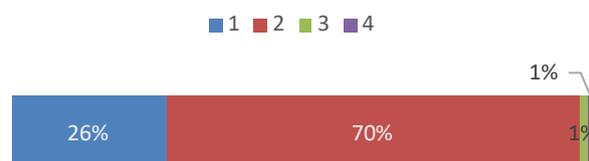
病院薬剤師としての業務、臨床研究者としての取り組み、大学教員としての業務など、様々な働きや取り組みについて紹介してもらい、大学病院勤務の薬剤師の姿を具体的に知ることができた。また、結婚、出産などライフイベントの話だけではなく、仕事に取り組む姿勢について多く話していただき、学生にとっては今後の人生設計において大いに参考になる有意義な講演会であった。

### 【アンケート結果】

回答数：80名（82%）

#### 2. 本日のロールモデル講演会についてお答え下さい。

項目	回答数（人）
1. 非常に有意義だった	21
2. 有意義だった	56
3. あまり有意義ではなかった	1
4. 有意義ではなかった	1



#### 3. 2. でそのように答えた理由を教えてください。（自由記述）

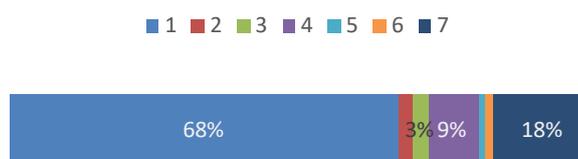
- ・ 諸外国の薬剤師の状況が具体的に理解できた。
- ・ 女性が海外・臨床で活躍できることのロールモデルであった。
- ・ 病院薬剤師さんの現実的な研究、業務についてよくわかり、女性の専門職（薬剤師）がどのように生き生きと働いておられるかを感じることができた。学生さんへもロールモデルとしてよい刺激になったと思う。
- ・ 海外の医療状況について聞いたので、日本と全然違って興味深くて良かった。
- ・ 海外での薬剤師さんの働き方や医療の制度が知れて良かった。結婚後の働き方について考えられた。
- ・ それなりにためになったから。
- ・ 海外の臨床現場の様子が知れた。
- ・ 様々な取り組みを知ることができたため。
- ・ 家庭を持ちながら仕事をしたいと思っていただけ参考になりました。
- ・ 病院勤務志望のため
- ・ ワーク&ライフバランスの話が将来の参考になると感じたため。
- ・ 現場で活躍している人だったから。

- ・ 海外ではどうなのかを知ることができた。
- ・ 女性のワークライフバランスについて聞くことができたのは興味深かった。
- ・ 海外での情報など興味深かった。
- ・ 臨床研究に特化した女性のお話が聞けたことが新鮮だったため。
- ・ 海外の事情を知れた。
- ・ 臨床研究について詳しくきけたのがよかった。
- ・ これからの人生で何を大切に将来を決めるか改めて考えさせる機会になった。
- ・ 業務内容から職場環境の実際まで有意義な話を聞くことができた。
- ・ 女性薬剤師のワーク・ライフバランスについて知りたかったから。
- ・ 女性の働き方を知ることができたから
- ・ 現在進行している取り組みを知れた。
- ・ 育休明けの女性の現場復帰について詳しくきけた。
- ・ 様々な取組みをされていて勉強になりました。
- ・ 臨床研究における着眼点を学ぶことができた。
- ・ 今の薬剤師の連携体制の状況を知ることができた。
- ・ 病院での研究内容や海外での話はなかなか聞けないから。
- ・ 錦織先生のモチベーションの高さや向上心に驚かされた。
- ・ 女性のライフワークバランスについて、薬剤師としてのキャリアを聞いてよかった。
- ・ 病院薬剤師は結婚のタイミングでやめてしまう人が多いイメージがあったが、産休・育休をとってキャリアアップをつづけられている人の話がきけて有意義だった。
- ・ 今後の働き方などについて参考になった。
- ・ 今までいろいろな講演を聞いてきたが、今までにない新しい角度からの講演を聞いたため。
- ・ 様々な取組についての話を多く聞いた。
- ・ 海外の臨床現場の状況を知ることができたから。
- ・ 日本だけでなく、海外の事情も知ることができたから。
- ・ ワーク・ライフバランスの話などが同じ女性として興味深かったからです。
- ・ 薬剤師としてはたらいていく上で、実際の状況や研究において大切なことを知ることができた。
- ・ 海外でどのような状況で臨床薬剤師が活動しているかとか、女性ならではの姿勢（目線）で出産・育児と両立する術など聞くことができたから。
- ・ 実際の現場で働いている方から今の病院や企業で働くために必要なことをきくことができたため。
- ・ 今、何をすべきなのかを学ぶことができたため。
- ・ 女性研究者として必要な考え方が分かったから。
- ・ 臨床研究は未経験なので、イメージしづらい部分もあったが、説明をよくして下さったので分かりやすかった。

- ・ 病院薬剤師のワーク・ライフバランスについて知ることができた。
- ・ 研究や海外の状況等、今まで知らなかったことを詳しく知れたから。
- ・ 実際に経験しないとわからないようなことを学ぶことができたため。
- ・ 外国の薬局の現状について学ぶことができたのは初めてだったから。
- ・ 産休、育休の現状について学べたから。
- ・ 自分が将来子どもを産んだ時のキャリアの参考になった。
- ・ 地域での情報共有のための取組みや、業務のみの話に留まらず産休・育休など知らない話が色々と聞けた点がよかった。
- ・ 海外の臨床の現状なども知れて興味深かった。
- ・ 報告会のようでストーリー性がなく、話が多く、どれも中途半端な感じがした。また、講演中に歩き回るのが話を聞くのに不便に感じた。きいたことあるような感じの話が多かった。

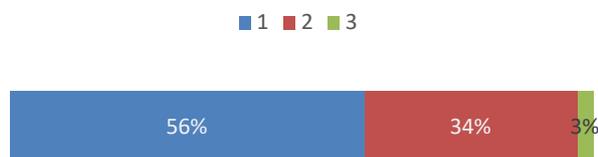
#### 4. 今回のロールモデル講演会の開催をどのように知りましたか。(複数回答可)

項目	回答数
1. 岐阜薬科大学からの案内	54
2. ポスター等の掲示物	2
3. eメール	2
4. 関係者から聞いた	7
5. プロジェクト通信	1
6. ホームページ	1
7. その他	14



#### 5. 今後もこのような催しに参加したいと思いますか。

項目	回答数
1. 参加したい	45
2. テーマによっては参加したい	27
3. 参加したくない	2



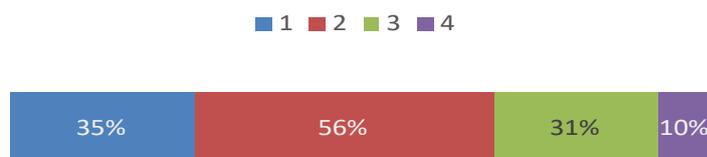
「テーマによっては参加したい」と答えられた方はどのようなテーマであれば参加したいとお考えですか。

- ・ 薬剤師と薬を服用する側の患者の声を代弁するような講演
- ・ 普段聞けない話
- ・ 海外の薬局事情

- ・ 留学について
- ・ 薬剤師として海外で働くには
- ・ 企業研究者において、生涯に渡るライフ、キャリア設計についてのテーマ。
- ・ 研究、病院薬剤師という一つのものにしっかりフォーカスが当てられていて、ストーリー性がある、意外性のある講演。
- ・ 海外研修
- ・ 実臨床における業務・研究について
- ・ 多職種連携の現状と展望
- ・ 子育てについて大変だったことをより詳細に。
- ・ 大学病院ではなく中小病院で働かれてる方の話を聞きたい。学校が呼ぶ講師の方は大病院や大企業勤務の方ばかりな気がします。もっとリアルな話がききたい。
- ・ 研究・開発について

6. 今後、どのような人の話を聞きたいですか。(複数回答可)

項目	回答数
1. 大学関係者	28
2. 企業関係者	45
3. 行政関係者	25
4. その他	8



その他

- ・ 患者側の声
- ・ 臨床現場で働いているが研究を主に行っている方
- ・ 企業の研究者
- ・ 薬局
- ・ 病院
- ・ 病院薬剤師
- ・ 麻薬取締官

7. 具体的に話を聞きたい人がいれば、名前を書いてください。

- ・ 薬局で研究を行っている人

8. その他、感想やご意見、今後行ってほしい企画など、ご自由にお書きください。

- ・ 化粧品関係の企業ではたらく人の講演に参加してみたいです。
- ・ 起業や薬局開設について知りたいです。

- ・具体的にどういうことをしているのか、実際学校で学んだことがどう生きるのか、何を知っておけばよいのか、実はこれはあまり役に立たない知識など、実際の薬剤師の体験をききたい。
- ・薬学部を卒業して製薬企業以外の企業へ就職した人の話をききたい

#### 4-4. ニュースレターの発行

本事業内容を紹介するとともに必要な方々に広く本事業を活用して頂けるように、岐阜大学男女共同参画推進室のニュースレター「かもみーる通信」を毎月1回の頻度で発行している（2020年3月に117号を発行）。今後も学内外の読者に対して岐阜大学および共同実施機関における女性研究者支援を中心とした各種取組に関する情報を積極的に発信して行く予定である。

CONTENTS

- \* 男女共同参画推進室ご紹介
- \* カミメール月曆

- \* 名古屋大学シンポジウム
- \* 保育園「ほほえみ」拡大充実!

## 男女共同参画推進室ご紹介

2019年度、竹内 保さん、今田葉子さん、斎藤 琢さん、4名の新室員をお迎えしました。事務部については、早野美里 職員養成課長と黒木伸彦 男女共同参画係長、カミメール・カフェの松居啓子さんが担当して下さっています。皆さん、どうぞよろしくお願いたします。

### 男女共同参画推進室員

 <p><b>林 正子</b> 副学長・室長 地域科学部 教授</p> <p>— 担当 — 総括、地域連携 大学連携、シンポジウム 共同研究助成</p>	 <p><b>興戸 律子</b> 教育学部 助教</p> <p>— 担当 — 研究補助員配属制度 学生コミュニケーション構築 サイエンス夢見いん 育成プロジェクト</p>	 <p><b>松尾 幸忠</b> 地域科学部 教授</p> <p>— 担当 — 研究補助員配属制度 外国籍教員支援の取組</p>
 <p><b>竹内 保</b> 医学系研究科 教授</p> <p>— 担当 — 英文校閲 研究補助員配属制度</p>	 <p><b>今田 葉子</b> 医学部看護学科 准教授</p> <p>— 担当 — メンター制度、生涯支援 学生コミュニケーション構築</p>	 <p><b>古山 浩子</b> 工学部 准教授</p> <p>— 担当 — 学生コミュニケーション構築 サイエンス夢見いん 育成プロジェクト</p>
 <p><b>山本 朱美</b> 応用生物科学部 教授</p> <p>— 担当 — 学生コミュニケーション構築 サイエンス夢見いん 育成プロジェクト</p>	 <p><b>加納 亜紀</b> 保健管理センター 助教</p> <p>— 担当 — 研究補助員配属制度 メンター制度、生涯支援 協がいのある協成委員会の取組</p>	 <p><b>高藤 琢</b> 流域圏科学研究センター 助教</p> <p>— 担当 — 英文校閲 外国籍教員支援の取組</p>
 <p><b>上田 浩司</b> 人材開発部長</p> <p>— 担当 — 研究補助員配属制度 岐阜大学基金の運用 女性管理職の比率向上</p>	 <p><b>落合 絵美</b> 特任助教</p> <p>— 担当 — コーディネーター全般 各種相談対応</p>	<p>男女共同参画推進室</p> <p>WEB <a href="http://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/">http://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/</a></p> <p>E-mail sankaku@gifu-u.ac.jp</p>

## カミメール月曆 (室長からのメッセージ)

副学長 (多様性人材活カ推進担当) 林 正子

### 第16回 多様性人材活用推進会議 / 保育園「ほほえみ」拡大充実!

2019年3月7日(木)、第16回 多様性人材活用推進会議が開催されました。この会議は学長を議長とし、理事、副学長、部局長、大学本部の各部長、医学部付属病院事務部長、合計29名の会議メンバーが、岐阜大学における多様な人材活用推進のための基本方針および実施方針を審議するとともに、多様な人材活用推進に関する必要な連絡や調整をおこなうことを趣旨としています。

1. 男女共同参画の推進について (教員の部局別女性比率について)
2. 外国人教員採用の推進について (外国人教員の在籍状況について)
3. 岐阜大学保育園「ほほえみ」新園舎竣工について
4. 多様性人材活用推進行動計画にかかわる実施状況について

以上、1～3 について現状を確認するとともに、意見交換をおこないました。

4. については、「岐阜大学における多様性人材活カ推進の基本方針及び行動計画」(2014年11月策定)にもとづく、各部署の2018年度実施状況と2019年度実施計画に関する調査報告を依頼しました。

#### 1. 男女共同参画の推進について

**岐阜大学教員の部局別女性比率** (医員を除く) は、2019年3月1日現在、16.4%。機構・センター等を除く各学部・附属病院の内訳は、教育学部 16.8%、地域科学部 21.4%、医学系研究科 15.9%、看護学科 74.3%、医学部附属病院 11.2%、工学部 7.4%、応用生物科学部 16.5%と なっています。

女性教員在職比率の数値目標については、文部科学省人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)」の取り組み、および「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」にもとづく行動計画において、2021年3月末までに20.4%にすることを申告し、また第3期中期目標・計画においては2021年度(2022年3月末)までに21%にすることを明記しています。岐阜大学における女性教員の積極的採用が、女性教員在職比率の数値目標達成に向けて、大いに期待・要請されているところです。

#### 2. 外国人教員採用の推進について

岐阜大学には、2019年3月1日現在、国籍別に中国10名、韓国4名、カナダ3名、タイおよび英国が各2名、インド、オランダ、ドイツ、フランス、マレーシア、台湾、米国が各1名、合計28名の外国人教員の方々が在職しています。外国人教員の採用をややくもに進めることが趣意ではなく、「岐阜大学多様性人材活カ推進行動計画」第3項に掲げる「外国人構成員の支援と文化的多様性の促進」に向けての取組の取組が課題となっています。

#### 3. 保育園「ほほえみ」新園舎竣工について

岐阜大学では、女性職員の産休・育児休業からの復帰支援、共働きの男性職員の家庭生活との両立支援として、保育園の拡大充実が重要な課題となっています。「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」にもとづく行動計画においても、「学内保育園を充実させるなど、職場復帰しやすい環境を整備する。」と明記しています。

取組の一環として、2017年4月、岐阜大学保育園「ほほえみ」が認可保育園(地域枠のある事業所内保育事業)に移行し、園舎の増築によって、看護師舎の1階にあった認可外保育園「すこやか」も「ほほえみ」に統合され、2019年3月18日(月)、柴橋正直 岐阜市長をお招きして「ほほえみ」新園舎竣工式が開催されました。(4頁「保育園たより」参照)この4月からは、収容定員が50名から95名(地域枠12名から21名)に増加し、0歳児、1歳児、2歳児に特化した保育体制が整備され、大学職員分として74名の受け入れが可能になりました。10年前と比べ環境整備が格段に進んだといえるでしょう。保育園を利用なさっている方々、また今後利用なさる方々に、安心して岐阜大学でのお仕事に励んでいただけたらと思います。

以上、第16回「多様性人材活用推進会議」の議事の概略についてご紹介しました。岐阜大学の多様な人材活カ推進に向けて、構成員の皆さんには現状を把握し課題を共有していただきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

## 名古屋大学シンポジウム

2月4日(月)、名古屋大学において「全国ダイバーシティ・ネットワーク組織東海・北陸ブロッククックオフシンポジウム「医学系の女性活躍推進と働き方改革」が開催されました。

冒頭、名古屋大学の松尾清一総長および高橋雅英理事によるシンポジウムの趣旨説明のあと、伊東昌子長崎大学ダイバーシティ推進センター教授が「長崎大学ワークスタイルイノベーションの試み」と題して講演しました。講演では、長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンターおよび長崎大学ダイバーシティ推進センターにおける多岐にわたる取り組み事例(育児中の医師と保育サポーターのマッチング、イブニングシッターサービス、マタニティ白衣のレンタル、医学部生向けのキャリア教育、各種講演会、女性医師ネットワークの構築とデータベース登録者向け情報発信、アンケート調査、県内医療機関16か所にワークライフバランス推進員40名を配置、研究費支援、保育園の開説、テレワークなど)について紹介しました。

これらの活動を通じて、2016年度の発表論文数が2015年度に比べて大幅に増加し(研究力の向上)、同僚との意思疎通の改善や女性医師の離職予防にも貢献していると報告しました。

続いて、加藤英子公立陶生病院小児科医師が「女性医師のキャリアデザイン～Diversityが医局を活性化する～」と題して、3人のお子さんを育てながら医師としてのキャリアを構築されてきたご自身のご経験や女性医師の抱えがちな就業継続の阻害要因(長時間労働、女性に偏る家事育児負担、職場の無理解)および子育て支援制度の成果等について、名古屋大学での取り組み事例や国際比較の観点から講演しました。また、女性医師が育児等の制約を抱えながらも「できること」を探して周囲にアピールすること、ロールモデルになる女性医師の存在や成功体験、そして上位職に就き後輩のために制度や職場風土を変えていくことの重要性について強調しました。

全体を通じて、女性医師向けの支援制度が女性医師のキャリア形成にとどまらず男性医師の労働環境改善につながることを実感できる充実した内容のシンポジウムでした。

## サイエンス夢追い人育成プロジェクト

(女子大学院生による出前講義)

女子大学院生の皆さんに、県内の中・高等学校で自らの研究内容とこれまでの進路選択の経緯をお話していただいているこのプロジェクトでは、目下、出前講義をしていただく女子大学院生を募集しています。講師として参加すると、学会発表などにも役に立つプレゼンテーション能力を修得でき、自分の経験を振り返ることにより自身の研究の社会的意義を再認識できます。

### ランチタイムカモミール・カフェ

一出前講義説明会開催

日にち: 4月24日(水)

時間: 12:10~12:50

場所: カモミール・カフェ

(大会会館2F 協働中央店前)

昼食をご持参  
ください

みなさまのご参加をお待ちしています。

## 新園舎竣工記念式典

3月18日(月)に、岐阜大学保育園「ほほえみ」の新園舎が完成したことを記念して式典がおこなわれました。



## 保育園たより



かもめ



すこやか



つばめ



ひよこ



## 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ・研究環境実現イニシアティブ(連携型)」

### 意識啓発セミナー

2月20日、アピ株式会社(岐阜市)において意識啓発セミナー「人を育てる職場づくり～個性を活かしたキャリア形成～」が開催されました。

講師の安原文美 中部電力株式会社販売カンパニーお客さま営業部 WEBサービスグループ部長は、冒頭で会社概要や社内制度について紹介したうえで、現在に至るまでのご自身のキャリア形成過程について紹介しました。そのなかで、ご自身が「初〇〇」となる経験の積み重ねのなかで自分の強みを活かすことや働きやすい環境整備を求め続けることが、結果として女性にとって働きやすい職場環境へとつながった事例(単身赴任時の女子寮の整備、育児休業の取得および周囲の理解、資格取得など)や、女性社員による生活者としてのアイデアや技術開発が新たなサービスや特許の取得につながった事例などについて語りました。さらに、経済産業省や中部経済産業局が主催した女性リーダー育成研修へ参加されたご経験から、女性管理職(候補)が管理職としての知識や技能を学び、訓練を受け、実践する機会を与えられる(育成される)ことの重要性について強調しました。

全体を通して、女性を含む多様な人材が協働することが新しいモノやサービスを生み出す原動力になることを実感したセミナーでした。

CONTENTS

- \* ランチタイム カモミール・カフェ (5/14) \* 岐阜県女性活躍イベント
- \* カモミール月曆 \* ランチタイム 保育園たより

## ランチタイム カモミール・カフェ

サイエンス憲法人育成プロジェクト  
(女子大学院生による出前講義) 説明会

5月14日(火)のお昼休みに出前講義登録者向けの講習会を開催します。講師は教育学部理科教育講座の中村琢先生です。中高生を前に講義する際のコツや注意点などについて教えていただく予定です。出前講義の登録者や出前講義に関心がある人だけでなく、「中高生に講義する際のコツが知りたい!」という方のご参加も歓迎します!

お弁当を食べながらご参加いただけますので、お気軽に男女共同参画推進室(カモミール・カフェ)へお越しください。

## ランチタイム カモミール・カフェ

一出前講義講習会のお知らせ

日時: 5月14日(火) 12:10~12:50

場所: カモミール・カフェ (学生会館2F 生協中央店前)

お問い合わせ: 058-293-3397 sankaku@gifu-u.ac.jp

### 【出前講義ってなに?】

男女共同参画推進室では、女性研究者の裾野拡大を目的として、岐阜大学の女子大学院生が県内の小中等学校に赴き、自身の研究やこれまでの進路選択の経緯について講義をおこなう「サイエンス憲法人育成プロジェクト(女子大学院生による出前講義)」を実施しています。日本における女性研究者比率は先進国と比べて低く、なかでも自然科学分野においてその傾向が顕著です。岐阜大学で女性研究者比率の向上に向けた取り組みを展開しており、出前講義はそのひとつです。そのため、本業において講師として登録できるのは【岐阜大学に在籍する女子大学院生】に限定しています。

## カモミール月曆 (室長からのメッセージ)

副学長(多様性人材活力推進担当) 林 正子

### 清流の国ぎふ女性の活躍推進フォーラム \* 「ダイバーシティの魅力と効力」

「かもみーる通信」第105号(2019年3月)の「カモミール月曆」で、岐阜県・清流の国ぎふ女性の活躍推進会議が主催する「清流の国ぎふ女性の活躍推進フォーラム」についてご案内しました。今回の「月曆」では、3月19日(火)13:00~16:00 岐阜都ホテルで「**「クマ」女性の力が新たな価値を創造する**」と題して開催されたこのフォーラムの詳細について紹介いたします。フォーラムで提示された「**ワーク・ライフ・バランスに関する素養な定義をはじめ、「ぎふ女」の活躍に幸じています。**」

題について、若者男女を問わず、大勢の構成員の方たちから「**佐々木をり氏**による「**企業力を高める女性活躍**」(株)イー・ウー・マン代表取締役社長の「**佐々木をり氏**による「**企業力を高める女性活躍**」~**ダイバーシティが成長のキーワード**」。性別、年齢、学歴、社歴等々、さまざまな属性の人々の視点や知恵によって支えられた組織の〈強さ〉が語られました。「**ダイバーシティ**」の目的は、「チーム全体の総合得点を高めること」、すなわち「**三人寄れば文殊の知恵**」の実践であるとし、佐々木氏がこれまで食品メーカーなどにも取り組んできた商品開発の好事例について紹介されました。

とくに印象深かったのは、「**私**」が「**働く**」ということの意義について。「**work**」とは「**機能する、役に立つ**」、また「**周囲に貢献する**」ことを意味しており、**ダイバーシティ**の時代には、**組織の構成員ひとりひとりの力が活かされること**によって、**社会に貢献することが可能になる**ことが語られたのでした。佐々木氏は、働き手自身が幸福な状況を実現するために、「**主体を明確にし自分自身を予約する**」という発想での時間管理をすること、**多様な人々の考えを受容し互いに活かしながら自分の重要性を指し示しました**。俯瞰した視点で自分を前進させてくれる仲間をどうしようか、自分自身の内側の**ダイバーシティ**を上げることであり、仕事のさまざまな局面に、傍観者ではなく当事者としてかかわってゆくことが、**自分自身を成長させること**につながると語りました。

「**ワーク・ライフ・バランスとは、自分自身の最大の力を発揮し最高の成果を出すこと**」、「**ダイバーシティは自分自身の成長のキーワード**」という、講師自身の実感から発せられた定義は、さまざまな職業に普遍的な至言であり、魅力にあふれる講演でした。

続いておこなわれた「**ぎふ女のすべれもの**」認定式では、アイデアの光る商品開発に携わった女性16人に、古田肇 岐阜県知事より認定証が手渡されました。知事の挨拶では、「**ぎふ女のすべれもの**」認定の取り組みは、「**岐阜のすべれものを発掘するのと同時に、すべれぎふ女を発見、発信したいという制度**」であることが説明され、「**新しい未来を切り開くきっかけにしてほしい**」とのエールが送られました。

百貨店の仕入れ担当者をはじめとする審査委員の方たちによって、獨創性などの指標のもと28件の応募商品から認定された16件のうち、「**濃濃政宗アイスクリーム**」(白木恒助商店/岐阜市)、「**ハリヨの柿餅**」(リパークレス/海津市)、「**除塩素入浴料おびるシリーズ**」(水生活製作所/山県市)、「**陶育 美濃焼**」(正しく使うことを学ぶ) (美濃焼おかみ塾/土岐市)の担当者が、それぞれの商品開発秘話を紹介し、さまざまな制約条件があるなかでの創意工夫や連携力が遺憾なく発揮された成果をアピールしました。

「**ぎふ女のすべれもの**」認定審査委員会歴長である佐藤美加(株)Fifty代表取締役と設楽 洋(株)ビーム代表取締役社長による講評・トークセッションでは、「**プリン・プリンセス**」(AQプランニング/神戸市)、「**無添加グラノーラ・無添加プリズポール**」(ひろがる家/岐阜市)、「**飛騨高山産米粉のカップケーキ**」(ホワイトトルネ/高山市)について、「**文句なしにおいしい**」、また、「**鮎果糖**」(あのかりん) (長良川温泉若女将會・いぶき福祉会/岐阜市)の「**意外な組み合わせには、女性ならではの発想と実現力がうかがえる**」などと賛辞とエールを送りました。

女性の行動力が商品開発に直結した2018年度「**ぎふ女のすべれもの**」16件は、

<https://www.pref.gifu.lg.jp/event-calendar/c11234/H30sifujionosuguremono.data/suguremonohappyou.pdf>

でどうぞお楽しみください。

「**すべての企画に重要なのは、コクとキシ**。勝負するには長い年月がかかるが、同じく長く愛されるコク、一発芸に終わらせないキシ、両方ともたいてつである」という設楽氏の講評は、佐々木氏の基調講演や「**ぎふ女のすべれもの**」開発担当者のプレゼンとも響き合い、さまざまな職業に携わる参加者にとって、それぞれ学ぶことの多い有意義なフォーラムとなりました。構成員の皆さんにおかれましても、このフォーラムの成果から、**ご自身を(開発)なさるヒントを受け取ってくださいますように**—。

## 新室員ご挨拶

今田 葉子 医学部看護学科 准教授

本年度、男女共同参画推進室の室員を拝命いたしました。母親、助産師、研究者であることを通し、周囲の皆様の支援をいただきながら毎日貴重な体験をさせていただいております。それぞれの環境におかれた人々が自分らしく輝いて働ける環境を整うことを切に願い、微力ながらお手伝いさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

山本 朱美 応用生物科学部 教授

今年度より男女共同参画推進室の室員を拝命いたしました。私自身は、これまで教育研究に専念してききました。本学における男女共同参画推進のため、微力ですがお手伝いさせていただきます。よろしくお願いたします。

斎藤 琢 流域圏科学研究センター 助教

4月から男女共同参画推進室の室員を務めさせていただくことになりました。私自身、7歳と3歳の息子の子育て中、かつフルタイム同士の共働きということもあり、本推進室の取り組みには関心をもっておりました。微力ながら推進室の活動のお手伝いができればと考えております。

## ランチタイム カモミール・カフェ

サイエンス夢追い人育成プロジェクト  
(女子大学院生による出前講義) 説明会

4月24日(水)に男女共同参画推進室(カモミール・カフェ)にて「サイエンス夢追い人育成プロジェクト(女子大学院生による出前講義)」説明会を開催しました。

説明会では、男女共同参画推進室の担当教員(コーディネーター)が出前講義の趣旨や内容について説明したあと、これまでの出前講義の実際の映像を見ながら参加者からの質問に答えました。

5月14日(火)のランチタイムには講習会(講師：教育学部・中村琢先生)が開催されます(1頁参照)。出前講義に関心のある方、登録を迷っている方など、お気軽にご参加ください。

## あなたも出前講義の講師になってみませんか？

男女共同参画推進室では、出前講義の講師(岐阜大学に所属する女子大学院生)を随時募集しています。専門分野は文系・理系どちらでもOK!

2019年度も7月から12月にかけて岐阜県内の高校(10校前後)で出前講義を実施する予定です。☆発表資料の作成については担当教員がサポートします!ご安心ください。

## 岐阜県女性活躍イベント参加報告

2月9日(土)、長良川国際会議場で岐阜県主催「岐阜で活躍する女性の交流会」が開催されました。第1部の基調講演は、NHKドラマ「主婦カツ!」原案者で『専業主婦が就職するまで』にやっておくべき8つのこと』著者の薄井シンシア 日本コカ・コーラ東京2020ホスピタリティ責任者が、海外での専業主婦生活から日本帰国後のアルバイト、その後の有名ホテルへの転職と昇進(副支配人)、そして現職(コカ・コーラ)に至るまでの軌跡について約1時間にわたって講演しました。

講演では、ご自身の子育てやPTA活動といった17年間の専業主婦時代の経験がその後の職業人としての強み(周囲の人々のニーズをくみ取る能力)となってビジネスチャンスを獲得し、キャリアアップの礎となったご経験について熱く語りました。また、子どもや家庭優先の専業主婦生活を終えた後に自分自身の時間を取り戻す過程のなかで直面した困難と挑戦、自分の能力や可能性を信じてくれる周囲の人々の存在、そして好奇心を持って成長し続けることの大切さについて触れたうえで、労働力不足が叫ばれる現代は専業主婦期間の長期化した女性が再び働き始めるうえでチャンスの時代であるとエールを送りました。

第2部の交流会では、1つのテーブルごとに5~6人の参加者が着席し、第1部の講演内容の振り返りや自己紹介、そして周囲の人々のためにどのようなサポートができるのか等について自由に語り合いました。年代や職業、直面している課題などの多様な岐阜の女性たちが集い、講演者や参加者の話に耳を傾け、自らの今後の生き方について再考する有意義な交流会となりました。



## 保育園たより



岐阜大学男女共同参画推進室(人材開発部職員育成課男女共同参画係) URL: <http://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/>  
〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 TEL: 058-293-3397 FAX: 058-293-3396 E-mail: [sankaku@gifu-u.ac.jp](mailto:sankaku@gifu-u.ac.jp)

\*男女共同参画に関するご意見・ご要望は、男女共同参画推進室にお願いします。

CONTENTS

- \* 学童保育トライアル
- \* カモミール月曆
- \* ランチタイム カモミール・カフェ
- ～ サイエンス夢追い人育成プロジェクト
- \* 男女共同参画週間
- \* 発行物ご紹介
- \* 保育園たより



文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」

## 学童保育トライアル

開催日：2019年8月19日(月)、20日(火) <2日間>

時間：8：45～17：00（8：15～受付開始）

お迎え時間：17：00～17：30（17：30 閉室）

場所：岐阜大学 大学会館2階 第6集会所、岐阜薬科大学 薬草園（バス移動）

対象：岐阜大学・岐阜薬科大学・岐阜女子大学・アピ株式会社所属する

教職員・社員の子ども（小学1～6年生）

参加費：1日につき2,000円×2日間＝4,000円

（材料費、昼食・おやつ代、傷害保険料を含む。納入後の返金不可）

定員：25名（両日・全行程に参加できる方を優先します）

申込期間：7月1日（月）10：00～7月12日（金）16：00まで

申込方法：参加申込書を下記Eメールにて提出（持参も可）

※申込書は、7/1以降にWEBまたはG-groupからダウンロード可能になります。

主なプログラム(予定)

8月19日(月)

- ◆ 薬草園の見学・体験 <岐阜薬科大学> (マイクロバスで学外へ移動します。)

- ◆ つくって、みんなで遊ぼう!! <岐阜女子大学>

8月20日(火)

- ◆ 産物収穫体験&動物見学 <岐阜大学>
- ◆ マーブルタウン（職業体験）<岐阜大学>
- ◆ みつばち講座<アピ株式会社> (はちみつ採集・試食体験)

## カモミール月曆 (室長からのメッセージ)

副学長 (多様な人材活カ推進担当) 林 正子

### 令和元年度「清流の国さむ女性」の活躍推進会議 検討委員会合同会議

2019年6月5日(水)、岐阜県 男女共同参画・女性の活躍支援センター (OKBふれあい会館) にて、岐阜県子ども・女性局が主催する「清流の国さむ女性」の活躍推進会議 検討委員会合同会議が開催されました。「IMフォーラム」で検討委員会「女性管理職登用検討委員会」「女性の活躍総合支援体制検討委員会」の3検討委員会合同の会議で、今年1月28日(月)に開催された前回の議事の一部は、「かもみーる通信」105号(2019年3月)でご報告しています。今回の合同会議では、

- ① 岐阜県における女性の活躍推進にかかるとる動向
- ② 「岐阜県女性活躍推進調査」の実施
- ③ 岐阜県男女共同参画・女性の活躍支援センターの活動状況
- ④ 岐阜県ワーク・ライフ・バランス推進エクセレント企業認定制度の見直し

をおもな議題として、岐阜県の企業、労働組合総連合会、NPO法人、岐阜労働局などに所属する委員メンバー20名によって意見交換がおこなわれました。今回も会議の一部をここに紹介いたします。岐阜大学構成員の皆さんに、職場やご家庭で何らかのご参考にしていただければ幸いです。

① 2015年の国勢調査では、岐阜県の女性の労働力率はほとんどの世代で全国より高いが、25歳～34歳で全国を下回っていること(全国38位) (岐阜県75.4%、全国77.1%)。2015年の県民意識調査では、岐阜県では「子どもができれば職業をやめ、大きくならなければ再就職に就く方がよい」が38.4%と最も高く、全国の26.3%と12.1ポイントの差があること、岐阜県の女性は35歳以上(全国の女性は40歳以上)で「派遣社員・パート・アルバイト・その他」が多くなっていること、2016年の社会生活基本調査では、岐阜県の6歳未満の子どもがいる夫婦の家事・育児平均時間は68分と、全国平均の83分を下回り、全国38位にとどまっていることなどが確認されました。

② 2019年9月、県内企業(2,000社)とそこに勤める女性従業員(2,000人)を対象として、「岐阜県女性活躍推進調査」が実施される予定となっています。女性が個性と能力を十分に発揮し、活躍できる環境づくりを推進するため、女性活躍の取り組みや課題、その意識を深めるとともに、結果を分析・検討し、今後の県の施策に活用することを目的とするものです。調査項目設定の指標は、

- (1) 25歳から34歳の女性の労働力率が低い(全国38位)、女性管理職の比率が低い(全国40位)といたった、岐阜県の特徴を踏まえ、現状の把握に必要とある項目
- (2) 岐阜県男女共同参画計画(第4次)の政策の柱「働く場における男女共同参画」の現状と課題の分析に必要となる項目
- (3) 現行の女性の活躍推進計画の現状把握を把握するために女性比較が可能となる項目(2015年)のなかで、岐阜県の特徴を把握するために女性比較が可能となる項目

③ 2016年11月にOKBふれあい会館内に開設された、岐阜県の女性の活躍にかんする総合支援拠点「岐阜県男女共同参画・女性の活躍支援センター」は、就労や子育てなどの女性の悩みに寄り添い、ともに解決方法を探る「伴走型サポート」に特色があります。昨年度は、「センタープラザ機能」が設置され、所在地である岐阜市のみならず県下広域にわたって出張相談(32回)も実施。相談者に加えて自治体やNPO<法人等の支援者も参加することによって、サポートのための研修機能もはたしています。2019年度には「女性の起業講座」も予定されており、ますます充実した支援体制がととのえられています。

④ 誰もが働きやすく、魅力的な職場環境づくりを推進するため、従業員の「仕事と家庭の両立支援」や「女性の活躍推進」に取り組む企業等を「岐阜県ワーク・ライフ・バランス推進企業」として登録(2018年度末3,233社)し、そのなかで他社のロールモデルとなる優れた取り組みをおこなう企業が「岐阜県ワーク・ライフ・バランス推進エクセレント企業」(2018年度末124社)に認定されています。評価項目は、

1. 年休取得率、年休取得促進策、多様な休暇制度の整備
2. 所定外労働時間数、所定外労働時間削減策
3. 育休取得率、介護休業等の取得状況
4. 育児や介護のための多様な働き方のための制度整備
5. 事業所内保育施設等の設置・運営
6. 女性管理職登用、女性の活躍推進のための企業内推進制度 など28項目



## ランチタイム カモミール・カフェ

### サイエンス夢追い人育成プロジェクト (女子大学院生による出前講義) 講習会



5月14日（火）、男女共同参画推進室（カモミール・カフェ）にて「サイエンス夢追い人育成プロジェクト（女子大学院生による出前講義）」登録者向け講習会を開催し、4名（大学院生3名、学部生1名）が参加しました。

「高校生への出前講義を考える～出前講義を実施する大学院生の皆さんのために～」と題した講習会では、教育学部理学科教育講座（物理学）の中村琢准教授が高校教員だったご自身の経験を紹介しながら、高校生に授業する際のコツや注意点についてマンダラートや付箋などを用いながら約1時間の講義をおこないました。



参加した学生たちはそれぞれ興味深い研究テーマを持っており、中村先生はその面白さをいかにして高校生に効果的に伝えられるのかについて助言くださるなど、有意義で充実した講習会となりました。

今年度出前講義は7月にスタートします。岐阜県内の高校への講師派遣に関する詳細につきましては、男女共同参画推進室のWEBにて確認のうえ、男女共同参画推進室までご連絡ください。申し込みが今年度の予定校数に達し次第、受付を終了させていただきます。ご了承ください。

本事業が小中高等学校の児童・生徒のサイエンスへの興味・関心を高めると同時に、担い手である女子大学院生の研究発表を含めた研究・教育スキル向上に資することを願っています。

### 講師募集中

出前講義の講師になってくださる女子大学院生を随時募集しております！  
関心のある方は、お気軽に男女共同参画推進室までお問合せください。

お問い合わせ：058-293-3397 sankaku@gifu-u.ac.jp

### 男女共同参画週間

6月23日（日）～29日（土）は、男女共同参画週間です。

私たちのまわりの男女のパートナーシップについて、この機会に考えてみませんか？



### 発行物ご紹介

冊子をご希望の方は、男女共同参画推進室（カモミール・カフェ）にお立ち寄りください。  
下記URLからPDFをダウンロードしていただくこともできます。

<https://www1.gifu-u.ac.jp/~kaeavakur/data/>



仕事と介護の両立に向けて介護難問を防ぐために

仕事と介護の両立 に向けて

### 保育園たより



CONTENTS

- \* カモミール月曆
- \* 学童保育トライアル・英文校開助成・
- \* 研究補助員配置制度
- \* 岐阜市女性センター講演会
- \* 保育園たより

夏休み子どもガイドのお知らせ

文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」

研究補助員配置制度

募集予告

2019年第2期 研究補助員（研究支援者）の配置を希望する研究者の募集についての詳細を、7月中旬頃に男女共同参画推進室WEB（研究補助員配置制度ページ）<https://www1.gifu-u.ac.jp/sankaku/activity/05.html> に掲載します。（各部署へメールでもご案内します。）

< 申請期間 >

2019年 7月29日（月）～ 8月7日（水）午後4時

< 配置期間 >

2019年 11月1日（金）～ 2020年 3月31日（火）

< 申請資格 >

本学に雇用される研究者で次のいずれかに該当する者  
 (1) 小学校3年生までの子どもをもつ研究者（休暇、休業中を除く）  
 (2) 市町村から要介護、要支援、障害者の認定を受けている親族について、主たる介護・看護者が申請者自身である研究者  
 \*上記(1)(2)の申請資格に関しては、配偶者がいる場合は、配偶者がフルタイム就労者である者に限る。  
 (3) 妊娠中の体調不良により、研究活動等の遂行に支障がある女性研究者（産前休職中を除く）  
 \*上記(3)の申請資格に関しては、配偶者の就労形態に関しては問わないが、申請者の体調に関して、配偶者、研究室責任者あるいは部署長、医師などとよく相談し、研究継続が可能かどうかを確認のうえ申請すること。  
 (4) 男女共同参画推進室長が認める者

一 対象となる職一

- ①常勤職員のうち、以下の職に従事している者  
 (a)教授、准教授、講師、助教、助手  
 (b)医員（専攻医、臨床助教）\*
- ②有期雇用職員（フルタイム）のうち、以下の職に従事している者  
 (a)特任教員（特任教授、特任准教授、特任講師、特任助教）  
 (b)研究員・研究支援員\*
- ③男女共同参画推進室長が認める者

\*ただし、大学院生は不可。

申請資格条件を満たす男性研究者の方にもご利用いただけます。

カモミール月曆（室長からのメッセージ）

副学長（多様性人材活力推進担当） 林 正子

第17回 多様性人材活用推進会議

\* 「多様性人材活力推進行動計画」にもとづく各部署の取り組み等 \*

岐阜大学は、多様な人材の活躍が大学全体の教育・研究・社会貢献の活力の源泉であるとの認識のもと、「多様性人材活力推進行動計画」（2014年11月策定）<https://www.gifu-u.ac.jp/about/approach/diversity.html> に則り、構成員の意識改革・環境整備を進めています。ダイバーシティ推進のための企画・立案・実施方針の策定などをおこなう「多様性人材活用推進会議」は、学長を議長として、理事、副学長、部署長、大学本部の各部長、医学部付属病院事務部長等、合計30名の会議室メンバーで構成されています。2019年6月13日（木）に開催された第17回「多様性人材活用推進会議」の議事（概略）を以下にご紹介します。多様性人材活力推進に向けての現状と課題を、構成員の皆さんに共有していただければ幸いです。

- 今回の議事は、
1. 多様性人材活力推進行動計画に係る実施状況
  2. 男女共同参画の推進（教員の部署別女性比率）
  3. 外国人教員採用の推進（外国人教員の在籍状況）
  4. 岐阜大学保育園「ほほえみ」の保育士確保状況
  5. パワハラ防止法成立

1. 多様性人材活力推進行動計画に係る実施状況について

「岐阜大学における多様性人材活力推進の基本計画・行動計画」にもとづく各部署の取り組みについて、2018年度の実施状況と2019年度の実施計画を確認し、意見交換をおこないました。多くの部署において、男女を問わず、育児・介護中の教職員に対する労働条件や入社業務の割り当てなどの配慮がなされていることが明らかになりました。とくに工学部からは、育児休業・育児短時間勤務等を推進するため、「岐阜大学工学部研究補助員制度実施要項」を策定し、教員がワーク・ライフ・バランスを保ちながら研究活動に従事するための制度をととのえ、2018年度には2件の活用実績があったことが報告されました。

2. 男女共同参画の推進（教員の部署別女性比率）について

岐阜大学「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」に基づく行動計画（計画期間：2016年4月～2021年3月）には、女性教員の採用比率を向上させるとともに、在職比率を20.4%以上に向上させること、女性教員の上位職比率を向上させ、教授11.4%以上、准教授・講師18.9%以上とすることを掲げています。2019年5月1日現在の女性教員在職比率は、2019年5月1日現在16.9%、教授10.2%、准教授18.5%、講師15.0%、助教22.6%となっています。今後の人事案件における女性教員の積極的採用の重要性が、改めて確認されました。

3. 外国人教員採用の推進（外国人教員の在籍状況）について

岐阜大学には2019年5月1日現在、26名の外国人教員が在職しています。中国9名、韓国4名、カナダ3名、英国2名、インド・オランダ・タイ・ドイツ・フランス・マレーシア・台湾・米国が各1名、809名の教員における比率としては、まだわずかであることから、適材適所の理念のもと、より多くの外国人教員の方々の活躍が期待されます。

4. 岐阜大学保育園「ほほえみ」の保育士確保状況について

2019年6月1日現在、岐阜大学保育園「ほほえみ」では、必要条件の保育士配置基準を上回る保育士数を確保していること、今後、園児が定員に達した場合は、現下の保育士不足は発生しない状況であることが確認されました。保育園の詳細については、<https://www1.gifu-u.ac.jp/sankaku/pdf/shiori2019-2.pdf> をどうぞご覧ください。

5. パワハラ防止法成立について

2019年5月29日、参院本会議において、事業主にパワハラ防止を義務づける「改正労働施策総合推進法」（パワハラ防止法）が可決・成立しました。岐阜大学では教職員に配布している『法令遵守の推進について』一法令遵守マニュアル』に、各種ハラスメントの説明と相談窓口についての情報（Ⅲ. 遵守事項等 5. ハラスメントの防止）を掲載しています。2018年度、男女共同参画推進室メンバー制度をとおして、育児・介護に携わる教員からの相談を受けました。出産・育児・介護等のライフステージにある同僚に対して、配慮ある対応をするよう、各部署での注意喚起がなされました。

## お知らせ

文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境イニシアティブ事業（連携型）」

### 児童保育トライアル (カモミールこども大学)

募集中  
7/12まで

開催日：2019年8月19日(月)、20日(火) <2日間>  
申し込み締め切り：7月12日(金)16時まで



詳細は、男女共同参画推進室WEB <https://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/news/488.html>  
又は、G-group [https://gugr.gifu-u.ac.jp/cb/cbgrn/grn.cgi/bulletin/view?aid=5988&cid=1](https://gugr.gifu-u.ac.jp/cb/cbgrn/grn.cgi/bulletin/view?aid=5988&cid=1&nid=5561983)  
&nid=5561983 でご確認ください。

文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境イニシアティブ事業（連携型）」

### 英文校閲助成

8月上旬に英文校閲費用助成希望者募集の受付を開始します。

本助成は、2015（平成27）年度に採択された「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」事業の一環として、女性研究者の研究力向上を目的に、学術雑誌への論文投稿に必要な英文校閲費を助成するものです。

7月中旬に、男女共同参画推進室WEB <https://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/> に詳細を掲載予定

### 夏休みこどもガイド

「働く親のための夏休みこどもガイド」を発行しました。

こどもガイドは、G-groupからPDFをダウンロードしてご利用ください。

夏休みに岐阜市近郊で開催される  
幼児～中学生向けイベントを中心に掲載しています。



## 岐阜市女性センター 講演会

6月8日（土）、ハートフルスクエア-G（岐阜駅）にて岐阜市女性センター主催（長良川大学講座）男女共同参画週間事業 講演会「新しい時代へどう変わる？政治とわたし自身～」が開催されました。

女性政治リーダーを養成する一般社団法人パリティ・アカデミー共同代表理事を務める三浦まり上智大法学部教授は、国際社会では1990年代から女性議員比率が大きく上昇したものの日本における女性議員比率は依然として低水準であり、その理由として「政治は男性のもの」という意識や性別役割分業を前提とした政治文化（宴席など夜間まで及ぶ政治活動など）などが壁となり、女性の立候補を構造的に難しくしている、と指摘しました。

また、女性が主たる担い手になりやすい育児や介護などの公的サービスの拡充や暴力防止に関する政策が女性議員の増加によって進展する傾向があることについて、海外の事例や日本におけるDV防止法の制定過程を例に挙げながら紹介しました。

そのうえで、「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」（候補者男女均等法、2018年公布・施行）によって政党は候補者擁立の際に男女の数の均等を目指すことが求められるようになったこと、男性とは異なる経験や状況にある女性たちが自ら政治家になることで多様な意見が意思決定の場に反映されやすい社会になること等について語りました。講演会終了後には、岐阜県内で活躍する女性政治家を含む参加者同士が講演会の感想や個人の経験などについて語り合う交流の時間が設けられるなど、有意義な会となりました。



## 保育園たより

りず



ばんだ



きりん



岐阜大学男女共同参画推進室（人材開発部職員育成課男女共同参画係） URL: <http://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/>  
〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 TEL: 058-293-3397 FAX: 058-293-3396 E-mail: [sankaku@gifu-u.ac.jp](mailto:sankaku@gifu-u.ac.jp)  
\*男女共同参画に関するご意見・ご要望は、男女共同参画推進室にお願いします。



110号  
2019年8月

CONTENTS

- \* 英文校閲助成
- \* カモミール月曆
- \* サイエンス夢追い人育成プロジェクト (出前講義・研究室見学会)
- \* 図書紹介
- \* 保育園たより



文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」

英文校閲助成

2015（平成27）年度に採択された「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」事業の  
一環として、女性研究者の研究力向上を目的に、学術雑誌への論文投稿に必要な英文校閲費を助成します。

＜ 申込期間 ＞

2019年8月5日（月）～ 2019年 9月6日（金）

＜ 応募資格 ＞

岐阜大学に所属し、国際誌に英語論文を  
投稿する女性研究者（常勤の教員に限る。）  
研究分野は問いません。ただし、原則とし  
て投稿する論文の筆頭著者であること。

＜ 助成金額 ＞

1件につき3万円を上限とする。ただし、  
予算の関係上、申込多数の場合は受付順を  
考慮のうえ減額する場合があります。

＜ 助成対象 ＞

2019年8月5日から2019年12月31日  
の期間内に学術雑誌（Web of Science Car  
e Collection登録誌に限る）への投稿用論文  
の英文校閲を行い、納品および委託業者へ  
の支払いが完了するもの（申し込み以前に  
支払いが完了しているものを除く）。申請は  
1人につき1件とし、過去に本助成を受給し  
ていない研究者および他の外部資金（科研  
費など）を持たない研究者に限ります。

応募方法などの詳細は、男女共同参画推進室WEBでご確認ください。  
<https://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/>

かちみーる月曆（室長からのメッセージ）

副学長（多様性人材活力推進担当） 林 正子

全国ダイバーシティネットワーク組織 東海・北陸ブロック会議

岐阜薬科大学・岐阜女子大学・アビ株式会社との連携事業「地域循環型女性研究者育成・支援プログ  
ラム」（「清流の国 輝くギフジョ 支援プロジェクト」）が、文部科学省科学技術人材育成費補助事業  
「ダイバーシティ研究環境イニシアティブ（連携型）」（2015年度～2020年度）に採択されて、早く  
も4年の月日が流れました。これまで数多くの方々のご支援ご協力を得て、4連携機関の多様な設置主  
体（国立・市立・私立・民間企業）の特長を活かし、女性研究者の研究環境整備、研究力向上、上位職登用  
に向けてさまざまな取り組みを展開してきたことは、「かもみーる通信」でも頻繁にご報告してきたと  
おりです。

その「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」事業に、昨年度、「全国ネットワーク中核機関  
（群）」の種目が設定され、女性研究者の活躍促進を図ることを趣旨とする全国の大学ネットワーク組  
織が構築されています（幹事機関：大阪大学、協働機関：東京農工大学、日本アイ・ピー・エム株式会社）  
<https://www.opened.network/>。北海道から九州・沖縄まで全国8ブロックに分かれたの活動も展  
開されており、7月17日（水）ANAクラウンプラザホテル金沢にて、2019年度 第1回 全国ダイバ  
シティネットワーク組織 東海・北陸ブロック会議が開催されました。

以下に、当会議で紹介された東海・北陸ブロック16参加大学の取り組みと成果のなかから、紙幅の都  
合により、メインとなる特記事項に限ってご報告します。詳細については、各大学の男女共同参画ホ  
ムページをご覧くださいませようか。構成員の皆さんに、他大学における女性研究者育成・支援に  
関するさまざまな取り組みについて、情報共有していただければ幸いです。

- 教育研究評議会の女性割合が2割以上となるよう学内規定を改正【名古屋大学】
- 学長・理事・副学長によるイクボス宣言、イクボス講演会【三重大学】
- 2019年2月ダイバーシティ宣言【名古屋市立大学】
- OGA財バンク、「ものづくり企業のための女性技術者リーダー養成塾」  
【名古屋工業大学】
- 随床系女性教員特別短時間勤務（1週間の勤務時間を24時間）  
【愛知医科大学】
- 子育て中の医師について勤務時間を軽減【藤田医科大学】
- 2018年度女性研究者比率が向上した大学、国大協ランキング4位【豊橋技術科学大学】
- 復職プログラム作成・運用による復帰促進【浜松医科大学】
- 多目的保育施設、学童保育一時保育支援制度【静岡大学】
- 育児・介護コンシェルジュの配置【福井大学】
- 工学系学科の女子学生比率向上【公立小松大学】
- 育児休業中および育児休業復帰教員についての評価への合理的配慮  
【北陸先端科学技術大学院大学】
- 病児保育室、院内保育園【金沢医科大学】
- 工学系大学、看護学部の開設、女性研究者による展示会の開催【富山県立大学】
- 海外短期留学助成、「未知に挑む女性研究者」賞（学長賞）、「スマートポリネーター」  
（理系女子大学院生チーム）の学長任命【富山大学】
- 理工系分野のすべての人事において女性限定公募【金沢大学】

## サイエンス夢追い人育成プロジェクト

### （女子大学院生による出前講義）

7月1日（月）、岐阜県立大垣工業高校において大学院生の松本昇子さん（自然科学技術研究科 修士課程2年）が出前講義（第139回）を実施しました。松本さんは、「私の進路—大学生を終えて思うこと—」と題して情報技術科2年生（29名）を前に、大学生生活や研究内容、そして幼少期から現在に至るまでの興味関心と進路選択の経緯などについて語り、生徒たちは約1時間の講義に熱心に耳を傾けました。

講義後のアンケートには、「大学進学について迷っていたが、講義を聞いて進路したくなった」「研究の話だけでなくサークル活動やアルバイトの話も聞くことができ、分かりやすかった」「自分以外の他人の経験にこれまで興味がなかったが、有意義な話を聞くことができ、ありがたく、面白かった」など、高校の先生とは立場や視点の異なる松本さんの経験やアドバイスは、高校生たちにとって大いに参考になったようです。



男女共同参画推進室では、2019年度の出前講義実施校（岐阜県内）を受付中です。  
男女共同参画推進室WEBの「出前講義」をご確認のうえ、お気軽にお問合せください。

### 研究室見学会（発展型出前講義）

7月18日（木）、岐阜県立長良高校2年生（理系クラス）女子生徒40名が岐阜大学を訪問し、今年で8回目となる研究室見学会を開催しました。

見学会では、4つの見学コースに分かれて工学部および応用生物科学部の計4研究室のなかから2研究室をそれぞれ見学しました。各研究室では、施設や実験装置などを見学したほか、各研究室に所属する女子大学院生が研究内容の紹介や大学・大学院での学生生活などについて説明しました。

研究室見学会後の交流会では、「オープンキャンパスで見えるべきポイントはどこですか?」「英単語を覚えるコツは?」など、大学受験を来年に控えた女子生徒から様々な質問が上がりました。



#### 【参加女子大学院生】

自然科学技術研究科 生物生産環境科学専攻	自然科学技術研究科 生物生産環境科学専攻	自然科学技術研究科 工ネルギー変換領域	自然科学技術研究科 工ネルギー変換領域
小川 史衣	卓雄 志穂	土屋 有希	松井 友梨

## 図書紹介

### 『ワークデザイン—行動経済学でジェンダー格差を克服する—』

イリス・ホネット著（池村千秋訳、大竹文雄解説）2018年  
NTT出版 2700円+税 ISBN：978-4-7571-2359-5



本書では、「悪いデザインは悪い結果を生む」「バイアス（偏見）は、私たちの頭の中に根を張っているだけでなく、制度や慣行にも根を張っている」（6頁）ことから、誰もが平等な条件で才能を開花できる環境を作り出すとともに、組織が最良の人材を確保するためのデザインについて、様々な事例を通じて紹介しています。

その典型的な例として、オーケストラの採用試験があります（3~4頁）。アメリカの5大オーケストラでは1970年代後半までは女性演奏家の割合が5%程度と少なかったのですが、「ブラインド・オーディション」（採用試験で審査員と演奏家の間をカーテンなどで遮り、演奏者を審査員に見えないようにする）を取り入れた結果、女性演奏家の採用比率は飛躍的に増加し、いまや一流オーケストラの女性比率は35%以上になっているとのことだ。

私たちは、能力評価や人材育成の場面で無意識のバイアスから少なからず影響を受けている、と著者は指摘します。「私たちの社会にデザインと無縁の場はない」（9頁）。本書を読めば、私たちの無意識のバイアスが引き起こすジェンダー格差を緩和そして克服するための方法について、より理解を深めることができるでしょう。（落合絵美）

## 保育園たより



岐阜大学男女共同参画推進室（人材開発部職員育成課男女共同参画係） URL：http://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/  
〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 TEL：058-293-3397 FAX：058-293-3396 E-mail：sankaku@gifu-u.ac.jp  
\*男女共同参画推進室のご意見・ご要望は、男女共同参画推進室にお願いします。



# かもみーる通信

## CONTENTS

- \* シンポジウム
- \* カモミール月曆
- \* 学童保育トライアル
- \* 後期授業ご案内
- \* 保育園たより



文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」

## シンポジウム

入場無料

### 新たな社会デザインに向けて — 人口減少時代における シンポジウム —

日本社会は、少子高齢化による労働力人口の減少、高齢者比率の相対的な高まりによる社会保障制度の揺らぎ、都市部の人口集中と地方の過疎化など、既存の枠組みだけでは対応できない大きな社会変容に直面しています。他方で、AIや産業ロボットをはじめとする技術革新やイノベーションが生み出す新たな社会サービスは、私たちの働き方だけでなく生活スタイルにも大きな変革をもたらして始めています。このように経済社会情勢が大きく変容する「新たな時代」に向かうなかで、私たちは「新たな社会デザイン」をどのように描くことができるのでしょうか。

本シンポジウムでは、国会、企業、行政、大学などで活躍する登壇者が、世界と地方都市（岐阜）、家族と女性、企業と地域社会、イノベーションと生活、そして男女共同参画/ダイバーシティの視点から、変化する社会における「新たな社会デザイン」について多角的に構想します。

日時：2019年9月27日（金）14:00～17:00（開場 13:30）  
会場：岐阜大学 講堂（岐阜県岐阜市柳戸1-1）

#### 第1部：講演

- 14:05～15:15
- 野田 聖子 元女性活躍担当大臣 衆議院議員（14:05～14:45）
- 柴橋 正直 岐阜市長（14:45～15:15）

#### 第2部：トークセッション

- 15:25～16:30
- 柴橋 正直 岐阜市長
- 野々垣 孝彦 アビ株式会社 代表取締役社長
- 原 永子 岐阜県 男女共同参画・女性の活躍支援センター長
- 速水 悟 岐阜大学 工学部教授
- 落合 絵美 岐阜大学 男女共同参画推進室特任助教

詳細は、男女共同参画推進室WEB <http://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/> でご確認ください。

## カモミール月曆（室長からのメッセージ）

副学長（多様性人材活力推進担当） 林 正子

### 〈男女共同参画推進〉名古屋大学の精力的な取り組み

今回の「カモミール月曆」では、2020年4月、国立大学法人 東海国立大学機構としてともに歩むこととなった名古屋大学の男女共同参画推進の取り組みについてご紹介いたします。

「男女共同参画社会基本法」の施行（1999年6月）を受け、名古屋大学は全国の大学に先駆けて活動を開始しました。2015年5月には、女性の権利拡大をめざす国連機関 UN Women による「He For She」事業「IMPACT 10×10×10」（10国家元首、10企業CEO、10大学長）において、ジェンダー平等を推進する世界の主要10大学と、日本唯一の大学として選出されました。名古屋大学 男女共同参画推進の取り組みが、先進的かつ精力的であることの一証左であるといえるでしょう。

岐阜大学 男女共同参画推進室より7年早く、2003年1月に創設された名古屋大学「男女共同参画室」は、2017年7月には「男女共同参画センター」<http://www.kyodo-sankaku.provost.nagoya-u.ac.jp/> に改組され、名古屋大学における男女共同参画推進体制が一層拡充されることとなりました。当初より室長、センター長を歴任なさってこられたのが、生命農学研究科の東村博子教授です。現在、男女共同参画センターは、副理事をお務めの東村センター長のもと、3名の専任教員と2名の兼任教員で構成され、事務体制は総務部職員課が担っています。部長長により構成される「男女共同参画推進専門委員会」との連携のもと、「女性教員比率向上のためのポジティブアクション」<http://www.nagoya-u.ac.jp/about-nru/declaration/positive/> が提言され実践されています。

松尾清一 総長のリーダーシップのもと名古屋大学挙げての画期的な取り組みの一例は、今年5月の各紙で紹介された「学内評議会、2割女性に 名大、規定で比率引き上げ」（「日本経済新聞」2019年5月27日（月））でしょう。年度当初、28人の評議会メンバーのうち女性教員は2人だけだったことから、新たに定めた学内規定にもつき学内の選挙で女性評議員4人を加えたとのこと。

このような画期的な取り組みをはじめ、名古屋大学男女共同参画推進の堅実かつ実効性のある取り組みの数々（一部のみ紹介）は、次のとおりです。

地域社会全体の男女共同参画推進に寄与することを趣旨として、愛知県・名古屋市長・愛知県経営者協会とともに「あいち男女共同参画社会推進・産官連携フォーラム」結成（2004年）。

構成員の家庭と仕事の両立支援を趣旨として、学内保育園「こすもす」を東山キャンパスに開園（2006年）、「あすなろ」保育園を鶴舞キャンパスに開園（2009年）、全国で初めての大学内 学童施設「ポピンスアフタースクール」を東山キャンパスに開所（2009年）。

文部科学省科学技術人材育成費補助事業については、「女性研究者支援モデル育成」事業（2007年）、「女性研究者養成システム改革加速」事業（2010年）、「女性研究者研究活動支援事業（連携型）」（2014年）、「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」にそれぞれ採択され、さらに博士課程教育リーディング・プログラム「『ウエルビーイング in アジア』実現のための女性リーダー養成プログラム」にも従事（2013年）し、数々の成果を挙げています。現在、名古屋大学で実施展開されている「女性研究者研究活動支援事業」の詳細については、<http://www.kyodo-sankaku.provost.nagoya-u.ac.jp/diversity/effort.html> をご覧ください。

また、名古屋大学では理系女子学生のコミュニティ「あかりんご隊」<https://acalingo.jimdo.com/> が結成されており、男女共同参画センターがその活動を支援しています。学生自身が主体的に「理系女子学生エンカレッジ交流会」「女子中高生理系進学推進セミナー」「若手女性研究者サイエンスフォーラム」「出張実験セミナー」などを企画実施し、女性研究者の活躍に向けての学生自身による取り組みも精彩を放っています。

男女共同参画推進の取り組みにおける名古屋大学との具体的な連携については、今後、それぞれの現場の実情や課題をふまえて協議を重ねてゆくこととなります。実効性のある制度をととのえ、精力的な活動を展開している名古屋大学の取り組みに、岐阜大学構成員の皆さんとともに大いに学ばせていただきます。たく願っています。

## 後期授業ご案内

水曜  
1限

### 全学共通教育科目

#### ～ワーク・ライフ・バランス (男女共同参画論)～

「ワーク・ライフ・バランス」や「男女共同参画」という言葉を聞いて皆さんは何を思い浮かべるでしょうか。ワーク・ライフ・バランスや男女共同参画は、政府や企業が掲げる重点課題であると同時に、私たちの日常生活に深く関わっている事柄でもあります。授業では、様々な専門分野の担当者がオムニバス形式で政策、仕事と育児の両立、身体、テクノロジー、DV (ドメスティック・バイオレンス)、生物学、文学など様々な視点から「男/女 (共同参画)」とは何か、またその関係性について、諸外国の例も取り上げながら学びます。

回	開講日	タイトル	講師
第1回	10月2日	イントロダクション 一現代社会における男女共同参画論の意義	落合 絵美 (男女共同参画推進室)
第2回	10月9日	岐阜大学における男女共同参画推進の取り組み	林 正子 (副学長・男女共同参画推進室長)
第3回	10月16日	ライフ・デザインを考える	高橋 玖未子 (日本政策金融公庫)
第4回	10月23日	健康で充実した人生のための健康基礎知識	山本 真由美 (保健管理センター)
第5回	10月30日	中国古典世界における女と男	松尾 幸忠 (地域科学部 地域文化学科)
第6回	11月13日	情報通信技術と仕事・生活	田中 雅宏 (工学部 電気電子・情報工学科)
第7回	11月14日	海外での男女共同参画	竹内 保 (医学系研究科)
第8回	11月20日	政治と男女共同参画	落合 絵美 (男女共同参画推進室)
第9回	11月27日	女性のキャリアの現状—看護職の例から—	今田 葉子 (医学部 看護学科)
第10回	12月4日	共働きと子育ての楽しさについて	新村 昌治 (工学部 電気電子・情報工学科)
第11回	12月11日	ワークライフバランスに向けた取り組み (仮)	木村麻理 (社会保険労務士)
第12回	12月18日	人間も動物? 動物の「家族関係」について	椎名 貴彦 (応用生物科学部 共同獣医学科)
第13回	1月8日	中国における女性の役割と結婚をめぐる現状	魏 永分 (流域圏科学研究センター)
第14回	1月22日	男女共同参画社会で「働く」ための 就職活動セミナー	白村 直也 (教育推進・学生支援機構)
第15回	1月29日	男女共同参画社会の実現に向けて (全体の総括)	落合 絵美 (男女共同参画推進室)

文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)」

## 夏季休暇中の学童保育トライアル

### (カモミールこども大学)

毎年参加者にご好評いただいている「夏季休業期間学童保育トライアル(カモミールこども大学)」を今年度も8月19日(月)・20日(火)の2日間にわたって実施しました。

24名の小学生たちは、葉草園ツアー(岐阜薬科大学)、おもちゃ作り・遊び(岐阜女子大学)、農場見学・農作物の収穫体験(岐阜大学)、職業体験(岐大祭実行委員会有志)、みつばち講座(アビ株式会社)など、岐阜大学および連携機関の特性を活かした充実した内容のプログラムを満喫しました。



## 保育園たより



岐阜大学男女共同参画推進室(人材開発部職員育成課男女共同参画係) URL: <http://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/>  
〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 TEL: 058-293-3397 FAX: 058-293-3396 E-mail: [sankaku@gifu-u.ac.jp](mailto:sankaku@gifu-u.ac.jp)  
\*男女共同参画に関するご意見・ご要望は、男女共同参画推進室にお願いします。

CONTENTS

- \* シンポジウム \* サイエンス夢追い人育成プロジェクト \* 起業家応援セミナー
- \* カモミール月曆 (女子大学院生による出前講義) \* 保育園たより



文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」

## シンポジウム



野田 聖子 氏

9月27日（金）、シンポジウム「人口減少時代における新たな社会デザイン」の構築に向けて一男女共同参画の視点から」（岐阜大学創立70周年記念事業・文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型））を岐阜大学講堂にて開催しました。

第1部では、野田聖子衆議院議員（元女性活躍担当大臣）および柴橋正直岐阜市長が講演しました。野田議員は、意思決定の場に女性が少ないことが日常生活や法律に及ぼす影響について具体例を挙げながら分かりやすく説明したほか、男女共同参画やダイバーシティの重要性について強調しました。

柴橋市長は、「岐阜市の政策・課題」をテーマに、人口減少対策として子育て支援や観光振興、そして都市整備構想について各種データを用いながら岐阜市の活性化に向けた取り組みについて紹介しました。

第2部では、柴橋市長に加え野々垣孝彦アビ株式会社代表取締役社長、原永子岐阜県男女共同参画・女性の活躍支援センター長、速水悟岐阜大学工学部教授、落合絵美岐阜大学男女共同参画推進室特任助教が登壇し、トークセッションをおこないました。トークセッションでは、人口減少が地域経済や地域社会に与える影響、限られた人材によりサービスを提供するための職場環境の整備やテクノロジーの活用など、企業、行政、大学で活躍する登壇者が多角的な視点から「新たな社会デザイン」について議論しました。

二百人を超える参加者からは、「男女共同参画が『女性の問題』ではなく『社会全体の問題』であることが理解できた」等の感想が寄せられるなど、充実した内容のシンポジウムとなりました。



## カモミール月曆 (室長からのメッセージ)

副学長（多様性人材活力推進担当） 林 正子

### 岐阜市「こどもファースト」の取り組み

1頁に実施報告を掲載したシンポジウム「人口減少時代における新たな社会デザインの構築に向けて一男女共同参画の視点から」のなかから、今回はこれまでの「カモミール月曆」で話題とする機会のなかった岐阜市の取り組みについてご紹介しましょう。

柴橋正直 岐阜市長の講演「岐阜市の政策・課題」において、人口減少社会における対策として、次の5つの政策ベクトルが示されました。

- ① こどもファースト
- ② 観光振興
- ③ 中心市街地活性化&都市基盤整備
- ④ 広域連携
- ⑤ シティプロモーション

男女共同参画推進の観点から、今号では「こどもファースト」の取り組みに絞ってご紹介いたします。岐阜市の必要な取り組みは次のとおりです。

- (1) 幼児教育の推進
- (2) 保育に関する安全安心
- (3) 登下校・通学路の安全・安心
- (4) 放課後児童クラブの充実
- (5) 子ども・若者総合支援センター「エールさくら」の進化
- (6) 男性の育児参画支援
- (7) 女性の活躍推進

「病児・病後児保育事業 送迎サービス」は、保育施設にいる子どもが体調不良となり保護者による迎えが困難な場合に、病児・病後児保育施設の看護師が、タクシーで保育施設に子どもを迎えに行き預かるという制度です。また、登下校時、GPS端末を携帯する子ども用の居場所を、スマホアプリを通して確認できる見守りサービスに加入契約している保護者に対するの補助事業もおこなわれています。

全国で児童虐待による痛ましい事件が相次いでいることを受け、子ども・若者総合支援センター「エールさくら」（2016年設置）<https://www.city.gifu.jp/18928.htm> の機能の進化も期待されているところです。

男女共同参画推進の取り組みとしては、男性の主体的な家事・育児参画を促す「さくら共育都市プロジェクト」<https://www.city.gifu.jp/35854.htm> が今年度開始しました。具体的に次のようなプログラムが展開されています。

- 「N/A大学～子育て応援講座～」  
父親が子どもの成長に合わせた子育ての基礎を学ぶことができる講座を開催
- 「ko-to-trip～父子旅行～」  
ふだん一緒に過ごすことの少ない父と子の日帰り旅行を実施
- 「岐阜新聞」  
父親の主体的な子育てを支援する特集記事を掲載
- 「共育企業」「共育ネットワーク」  
男性の育児参画を応援する企業を認定し、合同セミナーを開催

他にも、家事・育児・介護などの多くを女性が担っている現状を踏まえ、男性の主体的な参画を趣旨とする「家事メンセミナー」も開催されています。具体的には、共働き夫婦、父子（祖父と孫）を対象とする料理教室や、プロの講師から洗濯・掃除などを学ぶ教室などです。

ワーク・ライフ・バランスの取り組みなど積極的に展開し、顕著な功績のあった事業者を表彰する「男女共同参画優良事業者表彰」も、2003年度から実施されており、これまで岐阜市の39事業者が表彰されています。岐阜大学も、出産・育児等により研究時間の確保が困難な女性研究者の奨励や講義の補助をおこなう「研究補助員を配置するとともに、学内に保育園を設置し子育ての両立支援をおこなっていること、また、女子大学院生が県内の小中高校に赴き講義をすることで女性研究者の裾野拡大のために取り組んでいること、さらに、職員・学生のために各学部にも男女1名ずつの相談窓口を設置し、ハラスメント防止にも取り組んでいること」が評価され、「平成25年度岐阜市男女共同参画優良事業者」として表彰されています。<https://www1.gifu-u.ac.jp/sankaku/news/170.html>

今回は、岐阜市の「こどもファースト」の取り組みの一部をご紹介しました。柴橋市長の提唱する「子どもファースト」は、子どもだけを大切にするという意味ではもちろんありません。人口減少時代の諸課題を克服するうえで、子どもを尊重し、子育てをしやすい社会を実現することが、世代や性差や国籍や障害の有無を問わず多くの人々にとって幸せな社会の実現につながることを訴えられているのだと思います。岐阜市「こどもファースト」の理念と実践は、職業生活における女性の活躍を推進することが、延いては男性の働きやすさや人々の幸福の実現につながることを密接に関連しているといえるでしょう。

# サイエンス夢追い人育成プロジェクト

(女子大学院生による出前講義)

9月30日、岐阜大学において「長良高校1年生 岐阜大学見学会」を開催しました。本事業は、長良高校1年生が12月までに文理選択を行う際の参考になるようにとの高校の依頼を受けて、2011年より毎年この時期に実施しています。

この日は、入試課による岐阜大学の概要説明のあと、3名の女子大学院生が大学生生活、研究内容、進路選択の経験などについて、高校1年生（362名）を前に写真などを用いながら30分ずつ講義しました。高校生からは、「大学（院）について理解が深まった」「理系分野への興味が高まった」「将来のために今を大切にしたいと思った」「受験勉強や進路選択の話が参考になった」などの感想が寄せられました。女子大学院生による出前講義は、高校生がこれからの高校生活そしてその先にある進路選択を考えるうえで大いに参考になったようです。



自然科学技術研究科  
生物生産環境科学専攻  
藤田 真由さん



自然科学技術研究科  
物質・ものづくり工学専攻  
神原 叶子さん



自然科学技術研究科  
生産環境科学専攻  
松本 昇子さん



男女共同参画推進室では、2019年度の出前講義実施校（岐阜県内）を募集中です（予定校数に達し次第、受付終了）。男女共同参画推進室WEBの「出前講義」<https://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/activity/O3.html>をご覧ください。

# 岐阜大学Tongaliプロジェクト 起業家応援セミナー 参加報告

8月18日（日）、じゅうろくつめいギャラリー（岐阜市）にて岐阜大学研究推進・社会連携機構 産官学連携推進本部主催「起業家応援セミナー」が開催されました。

セミナーでは、冒頭に上原雅行准教授が東海発起業家育成プログラム「Tongaliプロジェクト」について説明したあと、3名の女性起業家が起業に至った経緯や現在の事業内容などについてそれぞれ語りました。

オーガニック食品の輸入・販売業を営む荻野みどりさん（BROWN SUGER 1 ST.代表取締役）は、震災やご自身の出産・育児を契機に「我が子に食べさせたい」と思えるお菓子の販売事業を資金20万円で起業し、現在では食品メーカーへと事業を拡大させました。講演では、私たちの“当たり前”や“常識”の背景について深く思考することの積み重ねが、ひいては新たなニーズの発見につながるかと述べたほか、「私たちが生きる社会」について深くこの大切さを強調しました。

2人目の講演者である矢上清乃さん（学び舎mom代表取締役）は、両親から「女の子だから」と弟と比べて幼少時代から進学をはじめ様々な制限を受けてきたこと、結婚後に念願の米国留学を果たした際は「夫を置いて留学するなんて」と周囲からネガティブな反応を受けたのに対して米国では「勉強熱心な妻がいてあなたの夫は幸せだ」と言われたこと、MBA取得後に夫の勤務する愛知県で就職活動をしながらの当時の地方都市には条件に見合う仕事が見つからず東京で就職せざるを得なかったこと、そして出産後に直面した重い育児負担・不安に苦しんだ経験から女性のワークライフバランスを支援する事業を立ち上げた経緯などについて語りました。

最後に登壇した若手起業家の柘植千佳さん（Lawin代表取締役）も含めて、3名の女性起業家たちはご自身の経験や生活に根差した疑問やニーズをくみ取り、強い信念を持って起業し、次世代によりよい社会を引き継ぐために積極的に事業を展開されていることが伝わってくる充実した内容のセミナーでした。（総合絵美）



岐阜大学男女共同参画推進室（人材開発部職員育成課男女共同参画係） URL: <http://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/>  
〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 TEL: 058-293-3397 FAX: 058-293-3396 E-mail: [sankaku@gifu-u.ac.jp](mailto:sankaku@gifu-u.ac.jp)  
\*男女共同参画推進室に関するご意見・ご要望は、男女共同参画推進室にお願いします。

# かみーる通信

113号  
2019年11月



## CONTENTS

- \* 英文校閲助成
- \* カモミール月曆
- \* 「ダイバーシティ 研究環境実現イニシアティブ（連携型）」
- \* イベント情報
- \* 現代社会論（やさしいジェンダー学入門）
- \* 学生のためのキャリアセミナー
- \* 保育園たより

文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ 研究環境実現イニシアティブ（連携型）」

## 英文校閲助成

2015（平成27）年度に採択された「ダイバーシティ 研究環境実現イニシアティブ（連携型）」事業の一環として、女性研究者の研究力向上を目的に、学術雑誌への論文投稿に必要な英文校閲費を助成します。

## 申込期間

2019年8月5日（月）～2019年12月頃  
（予算に達し次第終了）

## 助成金額

1件につき3万円を上限とします。  
ただし、予算の関係上、申込多数の場合は受付順を考慮のうえ減額する場合があります。

## 助成対象

2019年8月5日から2019年12月31日の期間内に学術雑誌（Web of Science Core Collection登録誌に限る）への投稿用論文の英文校閲を行い、納品および委託業者への支払いが完了するもの（申し込み以前に支払いが完了しているものを除く）。申請は1人につき1件とし、過去に本助成を受給していない者、および目下、他の外資部資金（科研費など）を持たない者が対象。

## 応募資格

岐阜大学に所属し、国際誌に英語論文を投稿する女性研究者（常勤の教員に限る。）研究分野は問いません。ただし、原則として投稿する論文の筆頭著者であること。

募集の詳細、申請用紙は、男女共同参画推進室WEB <https://www1.gifu-u.ac.jp/san-kaku/news/492.html> でご確認ください。

## カモミール月曆（室長からのメッセージ）

副学長（多様な人材活力推進担当） 林 正子

### 全学共通教育「ワーク・ライフ・バランス（男女共同参画論）」

10月9日（水）、全学共通教育科目「ワーク・ライフ・バランス（男女共同参画論）」（コーディネーター：落合絵美 男女共同参画推進室 特任教員）第2回「岐阜大学における男女共同参画推進の取り組み」を担当しました。定員100名の受講生を5学部から迎えた今年度の授業では、足掛け10年前に本科目を立ち上げた頃と比べ、男女共同参画推進に関する学生の皆さんの関心や意識が劇的に高まっていることに感謝を受けた次第です。授業の冒頭で、「男女共同参画社会」とは、「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が平等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、共に責任を担うべき社会」であるという「男女共同参画社会基本法」の定義を掲げました。基本法の公布・施行は平成11（1999）年ですので、受講生の大半がちょうど生まれた年にあたります。10年前の受講生と比べて、「ワーク・ライフ・バランス」「M字カーブ」などの用語が一挙に普及しているという印象を受けました。

今年度の小レポートの記述で特筆されるのは、研究職に就くことをめざし、大学院進学を希望している工学部女子学生が数多く見られたことです。受講生の皆さんに身近な話題として、内閣府男女共同参画局「男女共同参画白書」を出版とすると、2016年版「研究者に占める女性の割合の国際比較」（ポルトガル45.4%、エストニア44.4%、アイスランド44.4%、スロバキア42.5パーセント）に対して、日本は14.7%と2015年版「専攻分野別に見た大学等の研究本務者の女性割合」（人文科学35.5%、社会科学24.1%、理学14.1%、工学10.0%、農学20.8%、医学・歯学26.2%、薬学・看護学等51.4%、その他（心理学・家政など）40.8%）のデータを用いて、日本の研究者の現状を紹介しました。

研究職に限らず、あらゆる分野で「なぜ女性の活躍が期待されているのか」についても、人口減少時代における「女性の年齢層別労働力率」を示すことで、受講生の理解を得ることができました。30歳台を底とするM字カーブが意味しているのは、結婚・出産・子育て期に就業を中断する女性が多いということであり、仕事と子育ての両立支援策の一層の充実が求められていることを、切実な実感として受け止めてもらえたようです。2016年4月に施行された「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」、いわゆる「女性活躍推進法」の影響により、さまざまな現場で男女同様の気運が高まっている一方、「女性が優遇される結果、同等の能力を有する男性が差別されている」などの批判や不満も相強くあることもお話ししました。

授業後半では、男女共同参画推進室 WEB <https://www1.gifu-u.ac.jp/sankaku/> や「かみーる通信」などで広報している岐阜大学の男女共同参画に関する現状と課題、取り組み内容を紹介。名古屋大学「あかじエル」<http://www.tokyo-u.ac.jp/next-generation/sa/> など、学生主体の活動についても熱心に聴講してくれた受講生の皆さんが、「今後（在学中および卒業後）のご自身の人生設計と「男女共同参画」がどのように関わっていくか」を紹介することができましたが、学生の皆さんがこの課題に当事者意識をもって真摯に向き合っているところが彷彿とします。構成員の皆さんご自身の生活における「男女共同参画」について考える契機にしていただければ幸いです。

- ・ 岐阜大学が男女共同参画社会の実現のために女性教員を増やそうという活動をおこなっていることや、性別に関係なく能力を発揮できるように取り組みを進めていることを知り、自分自身の興味のある学問を学習できる環境が積極的にととのえられていて、とてもうれしいです。（工学部・女性）
- ・ 男性が家事・育児にどれだけ取り組んでいるか、育児をとっている割合はどれくらいかといった、男性の側の現状をしっかりと学んで、パートナーと「男女共同参画」できる関係を築いてゆきたい。（工学部・男性）
- ・ 少子高齢化が進んでいる今の日本で、男女の固定的性別役割の考えをなくして、ともに子育てや介護に向き合うことがたいせつだと思う。（応用生物科学部・女性）
- ・ 教員は産休・育休の制度が整備されているので、休みを利用しながら定年まで働こうと思う。男女関係なく同じように休みを取ることができ、家事・育児も平等に関われるような人生設計をしてゆきたい。（教育学部・女性）
- ・ 自分が将来産婦人科医になったら、出産・育児など大変なライフイベントに直面している大勢の女性に相談されることになるだろう。男女共同参画が十分に進んでいなければ、職場での関係でストレスを感じている人に接することにもなると思うので、しっかりと対応できる医師になりたいと思う。（医学部・男性）
- ・ 医学界では近年「チーム医療」が推進されていて、一人の医師だけで医療をおこなうのではなく複数人で治療をおこなうことが求められている。女性の割合が大きい看護師や女性医師、コメディカルワーク一での協力に向けて、男女共同参画の考え方を大事にしていきたい。（医学部・男性）
- ・ 卒業後、結婚することがあるとしたら、パートナーの気持ちを尊重して、家事・育児をできるかぎり平等におこなって共働きをしたい。もちろん、身体的な男女の差がなくなるわけではないので、女性の立場にたって、とらずには「男女共同参画」ができるのかも学んでゆきたい。（応用生物科学部・男性）



## イベント情報

↓ Click

### ロールモデル講演会

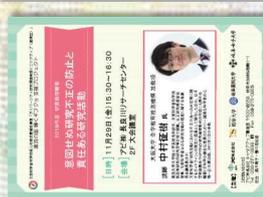
女性研究者・医療職として等身大で生きる  
～ワークライフバランス～

講師：錦織 淳美氏（岡山大学 病院薬学部 薬剤師 / Pharm.D.）  
日時：11月19日（火）13:00～14:30  
場所：岐阜薬科大学 本部 第二講義室



### 研究倫理研修

意図せぬ研究不正の防止と責任ある研究活動  
講師：中村 征樹氏（大阪大学 全学教育推進機構 准教授）  
日時：11月29日（金）15:30～16:30  
場所：アビ(株)長良川リサーチセンター2F 大会議室



### トップマネジメントセミナー

組織の活性化戦略としての女性活躍推進  
講師：東村 博子氏（名古屋大学 副理事・男女共同参画センター長  
生命農学研究科教授）  
日時：12月2日（月）10:00～11:15  
場所：アビ(株)本社4階 大会議室



### 現代社会論（やさしいジェンダー学入門）第6回

多様な性とLGBT～誰もがマイノリティ～  
講師：風間 孝氏（中京大学 国際教養学部 教授）  
日時：11月19日（火）14:45～16:15（4限）  
場所：岐阜大学 全学共通講義棟35教室  
※ 履修登録生以外も参加可能・定員80名・申込不要



## 学生のためのキャリアセミナー in 岐阜大学

日本経済新聞の女性編集長が講演＆先輩に学ぼう！

アピ（岐阜大大学院工学研究科修士）、十六銀行（同大地域科学部卒）、東京海上日動火災保険で活躍する女性社員3名を迎えたパネルディスカッションや講師の方々の交流会もあります！

申込締切  
12/16(月)

開催日：12月18日（水）  
時間：14:30～17:15（開場14:00）  
会場：岐阜大学 全学共通教育講義棟 多目的ホール  
※交流会は生協第2食堂

14:30～ 講演「自分らしく働くために今、知っておきたい3つのこと」  
15:00 講師：中村 奈都子氏（日本経済新聞 女性面編集長）  
15:00～ パネルディスカッション  
16:00 「将来の自分をイメージしよう～先輩社員から学ぶ」  
16:10～ 交流会 登壇者と参加学生との意見交換会  
17:15 軽食や飲み物もあります。

お申込み 岐阜大学 教育推進・学生支援機構（キャリアセンター内）キャリア支援部門  
問い合わせ TEL 058-293-2147 E-mail: career@gifu-u.ac.jp



## 保育園たより

りす

ぱんだ

きりん





CONTENTS

- \* 研究補助員配置制度
- \* カモミール月曆

- \* インタビュー  
(岐阜県男女共同参画・女性の活躍支援センター長)

- \* リーダーシップ研修
- \* 保育園たより

## 研究補助員配置制度



男女共同参画推進室では、育児や介護等と研究との両立支援および研究補助員（研究支援者）のチャレンジ支援・再チャレンジ支援に寄与することを目的として、研究補助員配置制度を実施しています。2020年度（第1期）の申請受付は、2020年1月を予定しています。詳細は、メール通知または通知配信後に男女共同参画推進室WEB <https://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/> でご確認ください。

### 2020年度（第1期）研究補助員配置制度

申請期間：2020年1月8日（水）～2020年1月23日（木）午後4時  
 配置期間：2020年5月1日～2020年9月30日（5か月間）

書類による一次審査の通過者を対象として、二次審査（ヒアリング）を実施します。  
 二次審査（ヒアリング）は2月18日（火）を予定しています。

#### 申請資格

- 本学に雇用される研究者で次のいずれかに該当する者
- 1) 小学校3年生までの子どもをもつ研究者（休暇、休業中をく）
  - 2) 市町村から要介護、要支援、障害者の認定を受けている親族について、主たる介護・看護者が申請者自身である研究者  
 \*上記1) 2) の申請資格に関しては、配偶者がいる場合は原則として配偶者がフルタイム就労者である者とする。ただし、配偶者が疾病・負傷等により就労・育児・介護を行うことが著しく困難など、特段の事情がある場合はこの限りではない。
  - 3) 妊娠中の体調不良により、研究活動等の遂行に支障がある女性研究者（産前休暇中を除く）  
 \*上記(3)の申請資格に関しては、配偶者の就労形態については問わないが、申請者の体調に関して配偶者、研究室責任者あるいは部長、医師等と相談し、研究継続が可能かどうかを確認のうえ申請すること。
  - 4) 男女共同参画推進室長が認める者

#### 本制度の対象となる職

- 1) 常勤職員のうち、以下の職に従事している者  
 (a) 教授、准教授、講師、助教、助手  
 (b) 医員（専攻医、臨床助教）\*
- 2) 有期雇用職員（フルタイム）のうち、以下の職に従事している者  
 (a) 特任教員  
 (特任教員、特任准教授、特任講師、特任助教)  
 (b) 研究員・研究支援員\*
- 3) 男女共同参画推進室長が認める者  
 \* 大学院生は不可

お問い合わせ / 申請書提出先  
 男女共同参画推進室

E-mail: [sankaku@gifu-u.ac.jp](mailto:sankaku@gifu-u.ac.jp)

## カモミール月曆 (室長からのメッセージ)



副学長 (多様な人材活カ推進担当) 林 正子

### トップマネジメント・セミナー「組織の活性化戦略としての女性活躍推進」

12月2日(月) アビ株式会社本社で、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)」 「清流の国 輝くギフジフ 支援プロジェクト」の一環であるトップマネジメント・セミナーが開催され、野々垣孝彦 アビ株式会社取締役社長、稲垣隆司 岐阜薬科大学学長、森脇久隆 学長、大藤生気 理事・副学長はじめ、岐阜女子大学と併せ4機関約50名の管理職メンバーが参加しました。

テーマは「組織の活性化戦略としての女性活躍推進」。名古屋大学 副理事・男女共同参画センター長 東村博子 生命農学研究科教授による講演は、「日本における女性活躍の現状」「生物学的な男女のなりたち」、「組織の活性化戦略としての女性活躍促進」(名古屋大学における取り組み)の4部構成でおこなわれました。

----- 「日本における女性活躍の現状」 -----  
 人間開発指数が189か国中19位である日本が、ジェンダー・ギャップ指数では149か国110位 (2018年調査) であることが挙げられ、女性の年齢階級別労働力率の推移、女性労働力率の国際比較が示される。ともに、日本は研究者における女性比率が先進国で最も低く、教育関連分野でも上位職ほど女性比率が低いことが紹介されました。一方、研究者一人あたりの発表論文数については、日本では女性の執筆する論文の数が男性を上回っていることが、エルゼビアのジェンダー・レポート (2017年) にもとづき指摘されました。また、女性の社会進出を阻む要因として、根深く残っている固定的性別役割分担意識が挙げられ、十分に活用されていない女性の能力が発揮されれば、日本全体が活性化すると述べられました。

#### ----- 「生物学的な男女のなりたち」 -----

ハーバード大学学長 (当時) による性差別発言をはじめ、女性より男性の方が優秀であると言われることがありますが、実際には性差より個人差が大きいとのこと指摘がありました。そもそも男性と女性に大きな違いはなく、X染色体は共通であり、わずか46分の1のY染色体が男性をつくるのであり、精液や卵巣は精子・卵子をつくることにし、アンドロジェン (男性ホルモン)、エストロジェン (女性ホルモン) を生み出すこと、男性ホルモンが作用しないとXY型でも女性型になることなど、性差におけるホルモンの重要性が説明されました。併せて、脳の重さ (大きさ) の平均は男性の方が女性より重く (大きく)、左右脳の大きさの違いも男性の方が大きいのは確かであるが、IQには男女差は認められないことなども語られました。さらに、ある種の言語刺激に対する反応として、男性は左脳のみが活性化し、女性は左脳も右脳も活性化すること、それは「下前頭回」(かぜんどうかい) というヒトの脳の前頭葉に存在する脳回 (他の部位に比べて、音の刺激 (韻・リズム) などに反応する部位) の活動が男女で異なっていることに由来することなども紹介されました。

「男性の身長は女性の平均値よりも大きい」のは確かであっても、「男性は女性よりも背が高い」とは言えないこと、同様に、「女性は男性よりも言語能力に長けている」とは言えないこと、すなわち、個人々の特性と平均値を混同しないことが重要であると述べられました。

#### ----- 「組織の活性化戦略としての男女共同参画」 -----

超少子高齢化社会の到来 (人材不足) によって、女性研究者の登用と活躍が大学の活性化の鍵になること、日本の長期成長戦略として女性の活躍が最も重要な課題であることが指摘されました。女性のための女性活躍にとまらず、性別によらない活躍促進が社会の持続的成長のために重要なこと、経済活動の半分は女性が担っていることから、女性のニーズに配慮することが経済を活性化すること、男性にも「生活者」の視点が必要とされていることも併せて論じられました。性をもつ生物が地球上に繁栄してきた鍵は「多様性」にあること、有性生殖の方が、遺伝子の多様性を生み、さまざまな環境変化に適応できる能力を獲得するチャンスが増えることから、大学・組織・社会の活性化に「多様性」が必須であると述べられました。

家庭と仕事の両立はもとより、環境整備・支援体制がととのえば十分可能であり、女性の社会進出が少子化に拍車をかける働きではないことも語られ、女性の起用・昇進の積極的促進を鍵とするとポジティブ・アクション (積極的改善措置) は逆差別ではないと強調されました。

日本社会・組織の課題を重点的に解決するために、トップダウンによる女性活躍促進が重要であり、組織のトップの本気度が女性の活躍を具現化すること、女性リーダー育成によって仕事の効率化や新しい発想が生まれ、結果的に男性にとっても魅力的な組織になり、来るべき「介護社会」にも対応することが語られました。男女を問わず、「自己実現とやる気が組織・社会を活性化する、幸せな個人の集団としての幸福な社会を創る」・・・生活科学・神経内分泌学を専門とし、長年にわたって男女共同参画の取り組みを推進してこられた東村先生ならではの力強い講演でした。

----- 「名古屋大学の取り組み」 ----- については、「カモミール月曆」(2019年9月) をどうぞご覧ください。





CONTENTS

- \* メンター制度
- \* カモミール月曆
- \* 社会活動演習  
「遊んで・作って・演奏をしよう！」
- \* サイエンス夢追い人育成プロジェクト
- \* 研究倫理研修
- \* 保育園より



## メンター制度



### 岐阜大学が取り組むメンター制度とは

日本における女性研究者比率は依然として低い状況にあります。本事業では、研究者を志す女子学生や女性研究者が生活、学業、進路選択、キャリア形成などの悩みを抱えた際に、同様の経験を乗り越えてきた先輩研究者（メンター）に相談する機会を提供することを通じて、女性研究者の育成および研究者としてのキャリア形成を支援する制度です。

ご相談の初回は男女共同参画推進室の担当教員が対応します。相談内容に応じてより専門分野の近いメンターに引き継ぐこともできます。相談内容は【秘密厳守】です。ご安心ください。

### 利用方法

1. カモミール・カフェ（内線：3397 E-mail: sankaku@gifu-u.ac.jp）に利用をお申込みください。
2. カモミール・カフェにて、担当教員がメンター制度の説明および相談内容をお聞きます。
3. 相談内容から担当教員がメンターを選定・紹介し、相談日程を調整の上、ご連絡します。相談場所はカモミール・カフェとなります。
4. 当日、カモミール・カフェにてメンターと面談をおこないます。

- 1回の面談は30分から1時間程度です。
- 個別面談の他、グループ面談も受け付けます。
- 2回目以降はメンターと相談の上、面談の日程と場所を決めていただきます。
- E-mail、電話での相談については情報の管理方法や相談可能時間についてメンターとよくご相談ください。
- 悩みが深く体調不良が生じている場合や、セクハラ・アカハラ相談等、別途の対応が必要な場合には、学内外の適切な相談窓口をご案内します。
- 秘密は厳守されます。

## カモミール月曆 (室長からのメッセージ)



副学長（多様な人材活力推進担当） 林 正子

### 学生のためのキャリアセミナー in 岐阜大学

2019年12月18日（水）、日経ウーマンミックス・プロジェクト実行委員会、岐阜大学教育推進・学生支援機構キャリア支援部門 主催、男女共同参画推進室 共催の「学生のためのキャリアセミナー」が開催されました。「女子学生のためのキャリアセミナー」は、日本経済新聞社が推進するプロジェクトの一環で、女性が活躍できる会社の特徴やワーク・ライフ・バランスの現状と課題などを解説するとともに、実際に働いている先輩女性の生の声を女子学生に伝えることを趣旨としており、すでに全国11大学（予定分を含む）での開催実績のある充実したセミナーです。今回は男女ともに対象とするキャリアセミナーとして企画し、40名の学生参加者を得て、今後の就職活動に向けての大変有意義な機会となりました。

**第一部【講演】は、日本経済新聞 女性面編集長・中村奈都子 氏による「自分らしく働くために今、知ってほしい3つのこと」。** その3項目は次のように提唱されました。

#### Knowledge is Power

本を読み、人と会い、旅をすることで世界は広がる

#### アウトプット力を高めよう

・アウトプット力とは、不安や不満、不便や不公平を解決する力  
解決力＝アイデア×実行力

・アウトプット力を高めるにはニュースを見、問題の解決策を考える  
・考えときのポイントは縦（歴史）と横（海外）

#### 仕事と学びについてイベントのバランスを考える

自分の人生で大切なものは？自分らしい生き方って何？  
自分にとっての仕事とは？自分らしく生きるための働き方とは？

中村氏は日本の会社を変える2つのキーワードとして、「働き方改革」と「ダイバーシティ」を指摘し、優良企業を見分ける指標として次の項目を挙げられました。

- ◆ 経営トップがダイバーシティ推進を経営戦略に掲げ、社内外に発信しているか
- ◆ ダイバーシティ推進に関する具体的な目標や、推進体制が整っているか
- ◆ 全社員を対象として働き方の見直しに取り組んでいるか
- ◆ 在宅勤務等、多様な働き方を実現できる制度はあるか、利用は進んでいるか
- ◆ 女性が活躍できているか。女性役員や女性管理職の数（割合）の水準

講演の最後に挙げられた「Tips」も、参加した学生の皆さんにとって具体的に有益な助言に満ち、示唆に富む内容でした。

#### 1. 毎日15分でも本を読む

2. 読書や勉強・体験で得た知識は、人に伝えることで身につく
3. ニュースや日常で感じた問題について、自分なりの解決策を考える
4. 解決策をいろいろいるな人と話し合う
5. 英語で話したら世界は広がる

セミナーの第二部は、アビ株式会社の上野 留彌 さん、十六銀行の後藤育美さん、東京海上日動火災保険会社の浅井亜希さんによる【パネルディスカッション】「将来の自分をイメージしよう～先輩社員から学ぶ」。工学部卒業・大学院工学研究科修了の上野さん、地理科学部卒業の後藤さん、そして南山大学経営学部卒業で現在、岐阜支店で活躍なさっている浅井さん、3人のパネリストの方々は、いずれも充実した学生生活のエピソードとともに、現在の部署でのより良い職場づくりの実践例を語ってくださいました。紙幅の都合で詳細は省略させていただきますが、3人の方々が語ってくれた自分研鑽ストーリーが、中村奈都子 編集長による講演内容と見事に対し交響していることが、深く印象に残りました。男女を問わず、参加学生の皆さんにとって、自らのライフデザインのシナリオづくりに有益なパネルディスカッションとなったのではないのでしょうか。

後日、日本経済新聞社 人材教育事業局のご担当者から送られてきたアンケート結果によれば、今回のキャリアセミナーに「とても満足した」「満足した」と回答した参加者は93.5%。「パネリストそれぞれ働き方が異なっていて非常に有意義な時間だった。」「中村さんのお話を伺えたのが本当に良かった。できればもっと早く聞きたい講演であったため、大学1・2年生も参加しやすいセミナーを設けてほしい。」「とてもためになり、将来のことを考える機会になってよかったです。」など、学生の皆さんにも大変好評であったことがうかがえます。今後も、男女共同参画推進室/人材開発部職員育成課では、さまざまな連携によって、構成員の皆さんが自身のライフデザインを描く上で有意義な企画を展開してゆきたいと願っています。

岐大生と一緒に  
参加  
無料

遊んで・作って・演奏をしよう!

募集定員  
12組

元気な幼児～小学生のお子さん大募集♪

岐阜大学地域科学部の近藤真庸教授のもと、社会活動演習「地域の子育て支援 2019」のプロジェクトメンバーである10名の大学1年生と一緒に、写真たて作り、ゲーム、楽器作り、楽器伴奏に合わせて歌って踊って楽しい時間を過ごしましょう!

日時：2月15日(土) 13:15～15:30 (12:45～受付)  
場所：地域科学部 地101講義室

お父さんの参加大歓迎。兄弟姉妹、一緒にどうぞ!

Click →



申込方法：<shinyo118@yahoo.co.jp>宛、メールでお申し込みください。折り返し連絡します。



【主催】岐阜大学地域科学部 近藤真庸研究室 【後援】岐阜大学男女共同参画推進室

## サイエンス夢追い人育成プロジェクト

(女子大学院生による出前講義)

12月13日(金)、岐阜県立岐阜農林高校において大学院生の松本昇子さん(自然科学技術研究科 修士課程2年)が出前講義を実施しました。

松本さんは、「私の進路一大学生を終えて思うこと～」と題して動物科学科1年生(40名)を前に、大学生生活や研究内容、そして幼少期から現在に至るまでの興味関心と進路選択の経緯などについて語り、生徒たちは45分間の講義に熱心に耳を傾けました。講義後には質疑応答の時間が設けられ、「野生動物を守りたいが、どのような職業がありますか?」といった質問など、活発な質疑応答がおこなわれました。



12月16日(月)、岐阜県立岐山高校において出前講義(第144回)を実施しました。この日は大学院生の松本昇子さん(自然科学技術研究科 修士課程2年)および榊原叶子さん(自然科学技術研究科 修士課程2年)が登場し、理数科の2年生(78名)が院生の研究分野と自身の関心に基づいて2クラスに分かれて受講しました。

榊原叶子さんは、「工学部で科学する」と題して、岐阜大学工学部で学べる研究内容や自身の研究テーマである環境負荷の小さいセラミックスの加工方法について説明したほか、在学中に熱心に取り組んだ学生フォーミュラや環境活動などについても紹介しました。終了後のアンケートには、「進路選択に関する話が参考になった」「セラミックスの研究に関する話が興味深く、もっと聞きたいと思った」など、大学受験を約1年後に控えた高校生たちにとって有意義な時間になったようです。



文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)」

## キャリアパス支援後援会

Click ↓

ノーベル賞の薬  
イベルメクチンを妊婦や子供に届けるために  
～女性薬剤師が研究者となり夢の実現へ～

日時：1月28日(火) 15:00～16:30  
場所：岐阜薬科大学本部 第二講義室  
講師：小茂田昌代氏 東京理科大学薬学部 教授

お問い合わせ：岐阜薬科大学ダイバーシティ推進室  
TEL：058-230-8100 E-mail: diversity@gifu-pu.ac.jp

第11回開催、継続開催中「キャリアパス支援後援会」  
イベルメクチンが妊婦や子供に届けるために  
～女性薬剤師が研究者となり夢の実現へ～

小茂田 昌代 先生  
東京理科大学薬学部 教授  
開催日時：2020年1月28日(火) 15:00～16:30

イベルメクチンは大村智先生が伊豆の土壌から発見し、2億人を河川盲虫症から救ったことで、ノーベル賞に選ばれた薬です。イベルメクチンは寄生虫感染症である疥癬やアタマジラミ症にも効果を発揮します。疥癬とはヒゼンダニが皮膚に寄生して発症し、集団発生となる場合が多く、国内において年間8万人以上、全世界においては年間約3億人の患者が存在します。疥癬治療には内服薬としてイベルメクチンが使用されてきましたが、イベルメクチンは内服薬であるため、時に全身的な副作用として皮膚や肝臓、血液障害が報告されており、安全性の面から妊婦や授乳婦、体重15kg(約4歳)未満の小児には使用できません。そこで、簡便で安全にイベルメクチンを使用する方法として「イベルメクチンのお風呂」を考案し、臨床試験を実施しました。また、日本ではピレスロイド系の薬が効かないアタマジラミ症が増えたり、海外ではイベルメクチン外用剤が高い効果を発揮していました。そこで、関連団体に働きかけをおこない、厚生労働省を動かして日本への開発にこぎつけました。イベルメクチンの恩恵に日本人が最大限受けられるための女性研究者の戦いを紹介します。

## 保育園たより



岐阜大学男女共同参画推進室(人材開発部職員育成課男女共同参画係) URL: <http://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/>  
〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 TEL: 058-293-3397 FAX: 058-293-3396 E-mail: [sankaku@gifu-u.ac.jp](mailto:sankaku@gifu-u.ac.jp)  
\*男女共同参画に関するご意見・ご要望は、男女共同参画推進室にお願いします。



CONTENTS

- \* 2019年度 意識啓発セミナー
- \* 共同研究成果報告会 「ワーク・ライフ・バランス 英語コミュニケーション能力向上セミナー (男女共同参画論)」を終えて \* 保育園たより



文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」

## 共同研究成果報告会



2019年度に採択された連携型共同研究成果報告会を開催します。

本事業は、民間企業、地方自治体、他大学などとのアカデミックな交流を深め、女性研究者の活躍による地域活性化をめざす取り組みです。ご関心をお持ちの方はどなたでも入場可能です。多くの方々のご来場をお待ちしております。 詳細 ▶ <https://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/pdf/20200227.pdf>

開催日：2020年2月27日（木）

時間：15:00～18:00（17:30-18:00「研究者交流会」お茶菓子付）

会場：岐阜大学 全学共通教育棟1階 アクティブ・ラーニング教室

第1グループ 15:05～15:55

11C標識非環式シチノイドの高効率合成法とその脳透過性分子機構の解明

腸内細菌叢培養に関する基礎研究 ～大人用モデル培地の改良と乳児用モデル培養条件の検討～

岐阜県の小学校英語教育の現状と課題に関する研究

第2グループ 16:00～17:30

子宮頸がん治療法の向上を目指すがん治療増感剤の開発研究

ワサビの味の客観的評価方法の確立

蜜源植物の異なるハチミツの腸内有用細菌に対する作用の評価

さびる災害アークタイプの構築

家政学からみた防災のあり方—学生の意識調査より—

教育実践の「知の増殖型サイクル」の究明

【お問い合わせ】 岐阜大学男女共同参画推進室 メール：sankaku@gifu-u.ac.jp 電話：058-293-3397

Click ↑

## カミール月曆（室長からのメッセージ）

副学長（多様な人材活力推進担当） 林 正子

### 国立大学における男女共同参画推進の実施に関する 2020年度までの達成目標と2019年（第16回）追跡調査結果

一般社団法人 国立大学協会（教育・研究委員会 男女共同参画小委員会）が発行した「国立大学における男女共同参画推進の実施に関する第16回追跡調査報告書」（2020年1月）が届けました。同委員会は、2001年以降、全国の国立大学における男女共同参画推進の取り組み状況を調査し、各大学や関係機関への情報提供を継続的にこなっています。以下に、今回の報告書に掲載された2020年度までのアクションプラン達成目標と2019年に実施された追跡調査結果の概要をお知らせします。なお、報告書の全文は、次のURLでご覧いただけます。  
<https://www.ianu.jp/gender/202001houkoku.01.pdf>

#### アクションプラン（2016～2020）に掲げる達成目標

- (1) 女性教員比率  
現在の比率が30%以上の大学は40%以上、20%以上の大学は30%以上、10%以上の大学（岐阜大学）は20%以上、10%未満の大学は10%以上となることをめざす。
- (2) 指導的地位に女性が占める割合  
国立大学全体の学長・理事・副学長に占める女性の割合は12%以上、大学の意思決定機関等（学長補佐・副学長・監事・経営協議会委員・教育研究評議会委員等）は10%以上、教授は15%以上、准教授は23%以上、課長相当職以上は17%をめざす。

#### 第16回追跡調査結果の概要

- (1) 女性教員比率（2019年5月1日現在）  
女性教員比率（女性教員数（助手を除く）/教員数（助手を除く）） 17.1%（前回の調査より0.4ポイント増加）  
女性教員比率が20%以上の大学 31大学（前回の調査より2大学増加）  
大学別女性教員比率（各大学における女性教員比率の総和/86（大学数））の平均 18.8%  
（前回の調査より0.5ポイント増加）

#### 女性教員比率区分別大学数

女性教員比率	第13回調査（2016年）	第16回調査（2019年）
40%以上	1大学	3大学
30%以上～40%未満	3大学	1大学
20%以上～30%未満	17大学	27大学
15%以上～20%未満（岐阜大学を含む）	37大学	32大学
10%以上～15%未満	20大学	16大学
1%～10%未満	8大学	7大学

- (2) 学長・理事・副学長および意思決定機関等に占める女性比率（2019年5月1日現在）  
学長・理事・副学長の合計の女性比率 8.6%（前回の調査より0.8ポイント増加）  
意思決定機関等における女性比率 10.9%（前回の調査より0.2ポイント増加）  
教授の女性比率 10.4%（前回の調査より0.1ポイント増加）  
准教授の女性比率 17.1%（前回の調査より0.4ポイント増加）  
課長相当職以上の職員の女性比率 18.5%（前回の調査より1.0ポイント増加）
- (3) 教授・准教授・課長相当職以上の職員に占める女性比率（2019年5月1日現在）  
教授の女性比率 10.4%（前回の調査より0.1ポイント増加）  
准教授の女性比率 17.1%（前回の調査より0.4ポイント増加）  
課長相当職以上の職員の女性比率 18.5%（前回の調査より1.0ポイント増加）

岐阜大学は、

- 第3期中期目標・中期計画（2016年度～21年度）
- 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」に基づく行動計画
- 文部科学省科学技術人材育成費補助事業

「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」の数値目標において、2020年度（2021年3月）までに女性教員の在職比率を20.4%以上に向上させることを掲げています。残念ながら、2020年2月1日現在 16.5%にとまっています。

多様な人材が活躍する大学としての数値目標達成について、非常に厳しい状況にあることを、構成員の皆さんの共通認識としていただきたく、ここに報告する次第です。ご理解・ご協力のほど、どうぞよろしくお願いたします。

## 2019年度「ワーク・ライフ・バランス (男女共同参画論)」を終えて

落合 絵美 (男女共同参画推進室)

2019年度後期開講科目「ワーク・ライフ・バランス(男女共同参画論)」が今年度も終了しました。今年度は定員100名を大幅に上回る履修申込があり、教室は常に満席の状態でした。この授業では、男女共同参画推進委員(示委員を含む)を中心に、室員の専門分野である文学、社会学、工学、医学、動物生態学など多角的かつ国際的な視点から「男女共同参画」「家族」「生活」「キャリアデザイン」「テクノロジー」「ダイバーシティ」などについてオムニバス形式で授業(全15回)をおこなうものです。

今年度の授業では、コーディネーターを務める男女共同参画推進室の教員が、第1回目にワーク・ライフ・バランスや男女共同参画が重視されるようになった社会的背景やその実現に向けた様々な取り組み・課題等について講義しました。2回目以降は、各担当者が専門分野の知見を活かしながら多彩なテーマで講義を担当しました。以下に、一部の講義について簡単に紹介します。

地域科学部の松尾幸忠先生は、中国古典世界において家族関係や男女の役割がどのように描かれてきたのか、また古典文学や古典詩の中で男女観がどのようにとらえられてきたのかを踏まえつつ「男/女」をキーワードに講義しました。

工学部の田中雅宏先生は、情報通信技術の発展が私たちの働き方や暮らし方などどのような変化をもたらしつつあるのかについて、映像資料も活用しながら最先端テクノロジーについて分かりやすく講義しました。

医学部の森田浩之先生は、諸外国に比べて男女格差が大きい日本の現状について、統計資料を用いながら指摘しました。また、アメリカ留学時代に出会った教授一家について、仕事も家事も育児も夫婦で分かち合い、ときには家事サービスを利用しながら充実したワーク・ライフ・バランスを実現している生活スタイルに感銘を受けたこと、また少子化に歯止めをかけるために男女共同参画を推進することの重要性について強調しました。

応用生物科学部の椎名貴彦先生は、動物の子育てについて取り上げたテレビ番組を用いながら、私たちの価値観(家族観)のレンズを通して動物を「擬人化」して理解しようとすることの危うさや動物と人間の違いなどについて、様々な動物実験結果などを示しながら講義しました。

この授業は様々な学科・専攻に所属する学生が履修可能な全学共通教育科目であることから、普段の授業では触れることのない知識や視角、またグループワークを通じて他学部生との交流など、専門分野の枠を超えて男女共同参画の視点から私たちの暮らしについて理解を深めることのできる貴重な機会になっています。

文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)」

### 意識啓発セミナー



『私からの多様な活躍支援メッセージ』

～しなやかに、そしてたくましく～

日時: 2月12日(水) 13:30～14:45

会場: アピ株式会社 本社4階 大会議室

講師: 清島 真理子氏 (岐阜大学医学系研究科皮膚病態学教授)

Click ↓



文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)」

### 英語コミュニケーション能力向上セミナー



英語専門外の先生にもできる協働学習

日時: 2月13日(木) 13:30～16:00

会場: 岐阜薬科大学 本部 大学院講義室

講師: 津田 ひろみ氏 (詳しくはポスターをご覧ください)

Click ↓



### 保育園たより



岐阜大学男女共同参画推進室(人材開発部職員育成課男女共同参画係) URL: <https://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/>  
〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 TEL: 058-293-3397 FAX: 058-293-3396 E-mail: [sankaku@gifu-u.ac.jp](mailto:sankaku@gifu-u.ac.jp)

\*男女共同参画に関するご意見・ご要望は、男女共同参画推進室にお願いします。

CONTENTS

- \* 連携型共同研究助成募集
- \* 力モミール月曆
- \* 開催イベント延期のお知らせ
- \* 意識啓発セミナー
- \* 社会活動演習
- \* 保育園たより



文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」

## 連携型共同研究助成募集

本制度は、平成27年度に採択された科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」（代表機関：岐阜大学）の一環として、同事業の共同実施機関（岐阜薬科大学、岐阜女子大学、アヒ株式会社）および岐阜県内の女性研究者の研究力向上を図り、研究者同士の交流・地域への定着、さらには上位職登用につながるような「地域循環型研究者育成」をめざして実施するものです。

この研究助成制度では、**すでに実用化段階（特許、企業による製品・商品化、成果の出版等）になっている研究に対して、必要に応じてその実用化までの研究費用を支援する**ものです。共同研究の成果がある程度出ていて、その実用化（特許、企業による製品・商品化、成果の出版等）にいたる段階が具体的に示されている場合に限り、その研究費の全額・あるいは一部を支援します。

**申請受付期間：2020年3月2日（月）～4月2日（木）午前10時必着**  
**助成金額：1件あたり20万円～80万円程度**

### 申請者要件

- ・ 岐阜大学に所属する女性研究者（研究分野を問わない。特任教員・医員を含み、学生・院生・研究員である者を除く。）
- ・ 共同研究者に**共同実施機関（岐阜薬科大学・岐阜女子大学・アヒ株式会社）**に所属する女性研究者が1名以上含まれていること。別途、男性研究者も参加可能。共同研究者には、岐阜薬科大学・岐阜女子大学・アヒ株式会社以外にも、他大学・企業との共同研究も歓迎する。
- ・ 募集および審査は4機関それぞれにおいて行うが、**他の3機関のいずれかの共同研究者として参加する者は、本学の共同研究には申請できない。**
- ・ 他の研究支援・外部資金（科研費）等との重複申請は認められるが、この研究助成でどの部分を負担するのかが明確にすること。

ご応募を検討される方は、男女共同参画推進室WEB <https://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/news/518.html> で募集要項をご確認の上、申請書をご提出ください。申請書は上記WEBからダウンロードできます。（学内限定）

## カモミール月曆（室長からのメッセージ）

副学長（多様な人材活力推進担当） 林 正子

### 令和元年度 第2回「清流の国ぎら女性の活躍推進会議 検討委員会合同会議」

2020年2月12日（水）、岐阜県 男女共同参画・女性の活躍支援センター（OKB5れあい会館）にて、岐阜県子ども・女性局が主催する「清流の国ぎら女性の活躍推進会議 検討委員会合同会議」が開催されました。「IM字カーブ底上げ検討委員会」「女性管理職登用検討委員会」「女性の活躍推進支援体制検討委員会」の3検討委員会合同の会議で、昨年6月5日（水）に開催された前回の議事の一部を、「かもみーる通信」108号（2019年6月）でご報告しています。今回の合同会議では、

- 「岐阜県女性活躍推進調査」の結果
- 岐阜県の女性の活躍推進に係る動向
- 「清流の国ぎら女性の活躍推進計画」（第二次）策定に向けて

以上の主な議題について、岐阜県の企業、労働組合総連合会、NPO法人、岐阜労働局などに所属する委員メンバー19名によって意見交換がおこなわれました。紙幅の都合で議事内容のわずか一部しかご紹介することができませんが、岐阜大学構成員の皆さんや関係の方々に、居住地ないしは勤務地である岐阜県の実況について情報を共有していただき、職場や家庭で何らかの参考にしていただけたことを願っています。

「岐阜県女性活躍推進調査」は、2019年9月、岐阜県内2,000社とその女性従業員2,000人を対象にアンケート方式でおこなわれた調査（有効回答率 企業33.4%、女性従業員：33.6%）で、報告書の全文については、次のURLでご覧いただけます。 <https://www.pref.gifu.jp/kodomo/kekkon/jyoseikatuyaku/>

- ▶ 女性の活躍を推進することについて必要と回答した企業は89.8%、とくに300人以上の企業では95.2%と高くなっており、前回（2015年）調査結果と比べ、意識改革が各段に進んだことがうかがえます。
- ▶ 取り組みの効果としては、1. 女性の労働意欲の向上 2. 組織・職場の活性化 3. 女性の離職率の低下が挙げられています。
- ▶ 女性の管理職登用への考え方としては、「積極的に登用したい」が37.8%、「わからない」が34.5%、「そうだった考えはない」が19.0%の順となっており、企業側の一層の意識改革が必要とされています。
- ▶ 女性の管理職登用が進まない理由として、「家庭との両立が難しい」と思う女性が多い（43.9%）と高く、次いで「本人の昇進意欲がない」が40.8%、「必要ない知識や経験を有する女性が少ない」が22.6%の順となっています。
- ▶ 女性従業員が「出産後、離職せず働きたい」として挙げたのが、1. 「保育所や学童保育など、子どもを預けられる環境の整備」が82.3% 2. 「女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革」が61.3% 3. 「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」が48.5%の順となっています。
- ▶ 女性従業員の意識では、管理職に「どちらかといえばなりたいくない」「なりたいくない」が約6割にのぼり、女性のさらなる意識改革の必要性がうかがえます。
- ▶ 女性従業員が求めるキャリアアップのための支援では、「信頼できるメンター（相談相手、指導者）の存在」の割合が約5割と高い一方で、「実施している」ないしは「実施を検討している」企業が約2割にとどまっています。

以上のような調査結果（一部）をふまえ、「清流の国ぎら女性の活躍推進計画」（第二次）策定に向けて、次のように論点整理がなされました。

1. 従業員規模が小さい企業のニーズ（一般事業主行動計画の策定の支援/女性の活躍に係る環境整備への補助などの支援/女性の就業者が少ない分野への支援）を踏まえた施策の実行
2. 優秀な人材の確保・定着に成功している企業の好事例PRと共有
3. 女性の採用拡大・経営者の意識改革とともに、働き方改革による生産性の向上、ダイバーシティによる多様な人材の活用促進
4. 製造業や建設業が大企業割合を占めることを受けての女性の職域拡大に係る取り組みの促進
5. 企業の職場風土改善や、仕事と育児・介護との両立支援に係る取り組みの促進
6. キャリアアップのための「信頼できるメンター（相談相手、指導者）」の育成・配置についで企業の取り組みの促進
7. ロールモデルの配置や女性のアイデアを活かした商品等の情報提供
8. 女性の意識（管理職に「どちらかといえばなりたいくない」+「なりたいくない」約6割）の改革
9. ライフイベントによりキャリアアップを断ち切ることなく、着実にキャリアアップができ、管理職に就く自信をつけられる仕組みづくり
10. 子育て環境の整備と家庭における男女共同参画

## 開催イベント延期のお知らせ

2月27日（木）に開催を予定していました「2019年度連携型共同研究成果報告会・研究者交流会」は、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、4月以降に延期となりました。

延期後の開催日程につきましては、決定後、男女共同参画推進室WEB <https://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/> でお知らせいたします。



## 意識啓発セミナー

2月12日（水）、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」清流の国輝ギフジョ支援プロジェクト意識啓発セミナーがアビグループ株式会社（岐阜市）にて開催されました。

「私からの多様な活躍支援メッセージ～しなやかに、そしてたくましく～」と題したセミナーでは、岐阜大学医学系研究科皮膚病態学の清島真理子教授が、1）医療業界における男女共同参画事情、2）私の歩んだ道、3）皆さんへのメッセージの3部構成で講演しました。

はじめに、2018年に明るみになった医学部不正入試における女性差別について紹介したうえで、女性医師の割合は年々増加傾向にあるものの他の職業と同様、女性医師においても出産・育児を契機に家事・育児負担の重さからキャリア形成が困難になる傾向について指摘しました。そのうえで、この状況の改善に向けて「岐阜大学医学部附属病院 女性医師就労支援の会」が取り組んでいる活動についての紹介がありました。また、同会が実施したアンケート調査結果により、医師特有の働き方である主治医制度や価値動務などが育児中の女性医師にとって大きな負担になること、この「巨大な壁」を乗り越えるための新たな仕組み作りの重要性などについて言及しました。

続いて、「私の歩んだ道」として、医師として診療・教育・研究に取り組みながら子どもを育てた経験振り返り、子育てを理由に女性がキャリアを諦めることなく上手に続けるためのアドバイス（目標を持つ、工夫する、事前準備、優先順位の検討、周囲に対する配慮と感謝など）を紹介しました。加えて、家族や保育園、地域のみなさん、職場の同僚やベビースッターなどの協力を得ることや同じ境遇の仲間（ママ友）との情報交換の重要性についても強調しました。

最後に、「皆さんへのメッセージ」として以下の4点 一目標と事前準備、協力体制、努力は千金、感謝と振り返り一を挙げ、「いま努力した経験が明日のあなたを創る」との力強い言葉で講演を締めくくりました。

質疑応答の時間には、アビ株式会社的女性社員を中心に家庭および職場における育児・介護支援体制について多くの質問が寄せられるなど、充実した内容のセミナーとなりました。（岩合絵美）

## 社会活動演習

～遊んで・作って・演奏をしよう！～

2月15日（土）、8年目（ファイナル）を迎えた、地域科学部1年生が企画する「地域の子育て支援」イベント（社会活動演習）が男女共同参画推進室の後援で開催され、8組25人（0歳～6歳までの子ども11人）と10人の学生が、ゲーム、オリジナル写真立てづくり、ダンスなどを満喫しました。

（地域科学部 近藤 真晴）



ボーリングゲームで  
“ナイス・  
ストライク!!”

3才児のユーコくん、  
大学生のお姉さんと一緒に  
写真立てづくりに挑戦！

笑顔がいっぱい！  
記念写真 DE “ハイ、ポーズ♡”

## 保育園たより





## 5 その他の特筆すべき取り組み

### 5-1. 【岐阜大学】サイエンス夢追い人育成プロジェクト (理系女子大学院生による出前講義)

サイエンス夢追い人育成プロジェクト（理系女子大学院生による出前講義）は、以前から岐阜大学が独自に実施してきた取り組みである。岐阜大学に所属する女子大学院生が岐阜県内の小中高校に赴き、大学・大学院での研究内容や進路選択に至る経験を紹介することを通じて、とくに女子生徒の理系分野への進学意欲を喚起し、将来的には女性研究者の増加に繋げることを目的に実施している（長良高校については岐阜大学にて実施）。2019年度は3名の女子大学院生が4校の高校生509名に対して計7コマの講義を実施した。この取り組みは岐阜県内の高校から好評を得ており、来年度以降も継続して実施する予定である。

#### 2019年度の実績

- 7月1日 岐阜県立大垣工業高校 2年生 29名
- 9月30日 岐阜県立長良高校 1年生 362名
- 12月13日 岐阜県立岐阜農林高校 1年生 40名
- 12月16日 岐阜県立岐山高校 2年生 78名



### 5-2. 【岐阜大学】研究室見学会

【日時】2019年7月18日 14時30分～17時30分

【場所】岐阜大学

【参加者数】岐阜県立長良高校2年生（理系クラス）女子生徒40名

サイエンス夢追い人育成プロジェクト（理系女子大学院生による出前講義）の「発展型」として、2012年度より毎年7月に岐阜大学において研究室見学会（長良高校）を開催している。

2019年度は4研究室（工学部2、応用生物科学部2）が参加し、各研究室に所属する女子大学院生が長良高校の女子生徒を前に実験の実演、研究内容や大学院生活に関する説明などを行った。



研究室見学後は会場を集会室に移して、女子高生と女子大学院生の交流会を開催した。交流会では、大学生活、受験勉強、進路選択などについて自由に質問できる時間を設け、女子生徒から様々な質問が相次いだ。

高校に赴いて講義する出前講義に対して、研究室見学会では高校生が大学の研究室を訪問して実験や研究室の様子を観察できることから、「進路選択の参考になった」「進学意欲が高まった」等の感想を得ている。

### 5-3. 【岐阜大学】学生のためのキャリアセミナーin 岐阜大学

【日時】2019年12月18日 14時30分～17時15分

【場所】岐阜大学

【参加者数】岐阜大学生40名

日経ウーマノミクス・プロジェクト実行委員会と岐阜大学教育推進・学生支援機構キャリア支援部門主催、岐阜大学男女共同参画推進室共催による「学生のためのキャリアセミナーin岐阜大学」が開催された。

第1部では、日本経済新聞女性面編集長の中村奈都子氏が「自分らしく働くために今、知っておきたい3つのこと」と題して講演を行った。第2部のパネルディスカッションでは岐阜で働く3名の女性が登壇し、「将来の自分をイメージしよう～先輩社員から学ぶ～」と題してそれぞれの働き方や学生生活に取り組んだこと、就職活動やプライベートの過ごし方などについて語った。第3部の交流会では、登壇者と参加者がリラックスした雰囲気の中かで直接お話を聴く貴重な機会となった。アンケート結果からは、講演やパネルディスカッションなどの内容が充実しており参加してよかった等の好意的な評価が多く見られた。

### 5-4. 【岐阜大学】「リケジョのためのキャリアセミナー～女性技術者の先輩に聞く～」

【日時】2020年2月21日 14時30分～16時30分

【場所】岐阜大学

【参加者数】 岐阜大学3・4年生および大学院生 25名（男性13名、女性12名）

岐阜大学航空宇宙生産技術開発センター主催、岐阜大学工学部および男女共同参画推進室の共催による「リケジョのためのキャリアセミナー～女性技術者の先輩に聞く～」が岐阜大学にて開催された。

第1部の基調講演では、「リケジョへの期待 日本女性活躍の可能性～中国ビジネスで私が体験してきたこと～」と題して森松工業株式会社取締役西村今日子氏がご自身の学生時代から現在に至るまでのキャリア形成、そして中国をはじめグローバルにビジネスを展開するなかで実感した日本における女性活躍推進の遅れ等について、数々の写真や統計資料などを活用しながら約1時間にわたって説明した。

第2部では、「体験を語る」と題して、川崎重工業株式会社航空宇宙システムカンパニー技術戦略部の檜垣奈見氏および株式会社デンソー生産技術部の水野可南子氏がそれぞれ携わっている技術開発や働き方、また子育てとの両立などについて語り、学生たちは熱心に耳を傾けた。

第3部の座談会では、学生を3グループに分け、それぞれのグループに登壇者が1名ずつ着席するかたちで登壇者と学生が歓談した。全体を通じて素晴らしい講師陣と少人数の学生による密度の濃い充実した内容のセミナーとなった。

## 5-5. 【岐阜薬科大学】特別講演会

\*高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発（学生自主学修プログラム）との共催

【講師】 1.吉岡ゆうこ氏（一般社団法人 日本コミュニティファーマシー協会 代表理事）

「日本とドイツの薬事行政の違い」

2. アッセンハイマー慶子氏（南ドイツ/ロッテンブルク市 セントラルアポテーケ）

「ドイツにおける医薬分業とは」

【日時】 2019年7月9日（火）13:00～15:00

【場所】 岐阜薬科大学本部 大学院講義室

【参加者数】 40名 岐阜薬科大学39名（教員4名、職員2名、5回生31名、4回生2名）

岐阜女子大学1名（教員1名）

まず最初に、吉岡氏に、日本とドイツの薬事行政の違いを比較しながら説明していただいた。医薬分業はヨーロッパで始まった考え方であり、ドイツは日本と同様に国民皆保険である。支払いや調剤方法、薬学教育や薬剤師養成などあらゆる観点から説明をしていただいた。

**特別講演**

日程：令和元年7月9日（火）  
場所：岐阜薬科大学 本部 第一講義室  
講演1：13時～14時

**日本とドイツの薬事行政の違い**  
講師：吉岡ゆうこ先生  
一般社団法人 日本コミュニティファーマシー協会 代表理事

講演2：14時～15時

**ドイツにおける医薬分業とは**  
講師：アッセンハイマー慶子先生  
南ドイツ ロッテンブルク市 セントラルアポテーケ

連絡先：〒501-1196 岐阜市大学西1-25-4  
岐阜薬科大学 実践薬学大講座 病院薬学研究室 寺町 ひとみ  
TEL: 058-230-8100 E-mail: teramachih@gifu-pu.ac.jp

高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発（学生自主学修プログラム）  
岐阜薬科大学ディバーシティ推進室内

その後、南ドイツのロッテンブルクで薬局を開業されているアッセンハイマー氏による講演を受けた。アッセンハイマー氏は、日本の薬科大学を卒業後、ドイツの大学院薬学研究科に入学、卒業後にドイツの薬剤師試験に合格され、いまに至っている。

ドイツはかかりつけ薬局の考え方で、何でも質問をしに行く場所でもあるという。日本とドイツの薬局・薬剤師の業務について違いが多くあり、それぞれ良いところ、取り入れたいところなど考えながら受講していた。

情報入手と業務の効率化の観点では、ドイツは規格作りにより合理的に行われている。医薬品卸会社が、各薬局の供給力の標準化に貢献している。ピッキングマシンなど各薬局で負担して行っていることもある。薬剤師を目指す学生への講演であったが、時間内に業務と勉強（研究）を終える働き方についても考えさせられる内容であった。ただし、日本の薬剤師のように患者に寄り添う、他社の気持ちに寄り添って言葉がけをする、という点はドイツの薬剤師



に見習ってほしいということであった。

最後に、薬学生へのメッセージとして①薬学は自分と人を助けある生涯役に立つ楽しい学問、②薬学はオールラウンド学問、③薬剤師はいつでも科学者・研究者、④みなさんが日本の医療を変えていってほしい、との言葉をいただいた。

講演会後は、学生はSGDを行い、自身の目指す薬剤師像や、将来に向けて為すべきことを考えることができた。

## 5-6. 【アピ株式会社】その他の成果

### <学会発表>

- ・森本 智美（連携型共同研究者 戦略開発本部製品開発部 主任）  
第19回抗加齢医学会総会（パシフィコ横浜 2019年6月14日）  
「ブラジル産グリーンプロポリスの口腔内細菌に対する作用とトローチの開発」
- ・高島 麻都花（JST事業学位取得出向者 戦略開発本部基礎応用研究部 研究員）  
NEURO 2019（第42回日本神経科学大会/第62回日本神経化学会大会 朱鷺メッセ 2019年7月25日）  
「ブラジル産グリーンプロポリスの海馬由来 HT22 細胞における酸化ストレス誘発細胞傷害保護作用」
- ・秦 健敏（連携型共同研究者 戦略開発本部製品開発部 係長）  
アピモンディア（カナダ Palais des congrès de Montréal 2019年9月8日）  
“Successful and safe use of royal jell with careful attention to its cross reactivity to certain

allergens” (ローヤルゼリー特定アレルギーに対する交叉抗原性に関する研究)

- ・高島 麻都花 (JST 事業 学位取得出向者 戦略開発本部基礎応用研究部 研究員)  
Society for Neuroscience 2019 (アメリカ McCormick Place 2019 年 10 月 19 日)  
“Protective effect of Brazilian green propolis against oxidative stress-induced cell death in mouse hippocampal HT22 cells” (ブラジル産グリーンプロポリスの HT22 細胞における酸化ストレス誘導性細胞死に対する保護効果に関する研究)
- ・高島 麻都花 (JST 事業 学位取得出向者 戦略開発本部基礎応用研究部 研究員)  
第 10 回 岐阜薬科大学機能性健康食品研究講演会 (じゅうろくプラザ 2019 年 12 月 7 日)  
「マウス海馬由来 HT22 細胞におけるブラジル産グリーンプロポリスの神経保護作用 (第 2 報)」

#### <論文>

- ・家垣 典幸 (連携型共同研究者 戦略開発本部基礎応用研究部 研究員)  
“Royal jelly reduces depression-like behavior through possible effects on adrenal steroidogenesis in a murine model of unpredictable chronic mild stress” (ローヤルゼリーは予測不可能な慢性軽度ストレス負荷抑うつ様モデルマウスにおいて副腎ステロイド産生を調節し、うつ様行動を軽減する)  
*Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry*, 84(3), 606-612.
- ・高島 麻都花 (JST 事業 学位取得出向者 戦略開発本部基礎応用研究部 研究員)  
“Neuroprotective effects of Brazilian green propolis on oxytosis/ferroptosis in mouse hippocampal HT22 cells” (マウス海馬由来 HT22 細胞におけるブラジル産グリーンプロポリスのオキシトーシスおよびフェロトーシスに対する保護効果)  
*Food and Chemical Toxicology*, 132:110669.

#### <学位取得>

- ・高島 麻都花 (JST 事業 学位取得出向者 戦略開発本部基礎応用研究部 研究員)  
岐阜大学大学院 連合創薬医療情報研究科 社会人博士課程学位授与 (2019 年 9 月 27 日)



文部科学省科学技術人材育成費補助事業  
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）  
「清流の国輝くギフジョ支援プロジェクト」  
2019（令和元）年度事業報告書  
2020（令和2）年6月発行

【発行】

国立大学法人 東海国立大学機構 岐阜大学  
岐阜薬科大学  
学校法人 華陽学園 岐阜女子大学  
アビ株式会社

発行責任者 林正子  
岐阜大学副学長

連絡先（代表機関）岐阜大学男女共同参画推進室  
〒501-1193 岐阜市柳戸1-1  
TEL 058-293-3397  
FAX 058-293-3396